

世界史映画リスト 2020年版

☑ 世界史を学ぶのは、何も教科書からだけではありません。日本でも大河ドラマや時代劇があるように、世界史をテーマにした映画は、数多くあります。というわけで、世界史を扱った映画をリストにしてみました（おおまかに時代順にならんでいます）。

☑ もちろん映画はフィクションですから、それが史実を正確に表しているとは限りません。脚色された部分も多いでしょう。それでも私は、世界史の登場人物を単に「～朝を作った人」、「～を書いた人」というだけで覚えるのではなく、魅力あるひとりの人間として、知って欲しいなと思います。歴史に名を残した人物は、良くも悪くもそれだけの何かを持っているわけですから、その一面だけでも感じ取ってくれればうれしいですね。

☑ リストを初めて作成した2006年版で26本を紹介し、2007年版で一気に94本となりました。それから少しずつ増えてきて、2020年版ではとうとう288本です。何か世界史に関心を持つきっかけとなるような一作を見つけてもらえたらと思います。「この作品が入っていない!」というのがあれば、お気軽にメールしてください。



シンドラーのリスト (1993)

私が一番好きな映画です。何度観ても涙が出ますね。第二次世界大戦の授業をするときには、ゲットー解体のシーンを必ず観せています。ユダヤ人の遺体を焼くシーン、最後の別れのシーンも印象的です。

主演のリアム・ニーソンは、この役でアカデミー賞を受賞するまで、全くの無名俳優でした。遊び人で野心がある一方で、思慮深く他人への優しさにあふれた複雑なキャラクターを見事に演じました。



パトリオット (2000)

アメリカ独立戦争を描いた作品です。前半に植民地議会が独立戦争参加の是非を議論するシーンがあるんですが、ここでのやり取りが授業に役立つんです。独立に賛成・反対・中立と分かれている様子、「代表なくて課税なし」、各植民地の独立性、アメリカ人意識などなど。

ただ後半にメル・ギブソン演じる主人公が怒りで無双状態になるところがおもしろすぎて、生徒の意識はそっちに持っていかれてしまうんですが。



グローリー (1989)

意外に知らない方が多いですが、歴史映画としては最高傑作のひとつだと思います。

授業で使うのは、訓練シーンや味方の北軍の白人兵士からも差別を受けるシーン。南北戦争の話をするときは必ず観せていますね。なお若い白人指揮官の部下に、年配の白人軍曹がいるんですが、彼がアイルランド系というのも授業で使えるポイントです。



テルマエ・ロマエ (2012)

ローマ史の授業では必ず観せています。バスタオルをトーガのように巻いたり、紙(まだローマにはない)を認識できなかったり、トイレを比較したり、いちいち映像を停めてセリフの意味を解説するのが楽しいです。

くだらないと言う人もいるでしょうけど、生徒が『『テルマエ・ロマエ』がきっかけでローマ史に興味を持ちました!』って言ったら最高じゃないですか。

<p>天地創造 <i>The Bible: In the Beginning</i> 監督: ジョン・ヒューストン 出演: アダム(マイケル・パークス) ノア(ジョン・ヒューストン) アブラハム(ジョージ・スコット) 天使(ピーター・オートール) 時代: 『旧約聖書』の世界 ☑ 『旧約聖書』の「創世記」を映画したもの。「天地創造」、「ノアの箱舟」、「バベルの塔」、「イサクの犠牲」など、『旧約聖書』の内容を知っているにはちょうどいい。『十戒』の前の部分。 制作: アメリカ・イタリア 1966年</p>	<p>ノア 約束の船 <i>Noah</i> 監督: ダーレン・アロノフスキー 出演: ノア(ラッセル・クロウ) ナーマ(ジェニファー・コネリー) トバルカイン(レイ・ウィンストン) イラ(エマ・ワトソン) 時代: 『旧約聖書』の世界 ☑ 『旧約聖書』の「ノアの方舟」の話を中心に、「アダムとイブ」や「アベルとカイン」の話など、知らないストーリーに全く入れないかもしれない。映画としては駄作だろう。 制作: アメリカ 2014年</p>
<p>十戒 <i>The Ten Commandments</i> 監督: セシル・B・デミル 出演: モーセ(チャールトン・ヘストン) ラムセス2世(コル・ブリンナー) ネフルテリ(アン・パクスター) 時代: 紀元前13世紀のイスラエル・エジプト ☑ 『旧約聖書』の「出エジプト記」を描いた作品。エジプトにいたヘブライ人をモーセが率いて、パレスチナに戻るまでを描く。海が真二つに裂けるシーンは映画史に残るワンシーン。 制作: アメリカ 1957年</p>	<p>エクソダス：神と王 <i>Exodus: Gods and Kings</i> 監督: リドリー・スコット 出演: モーセ(クリスチャン・ベール) ラムセス2世(ジョエル・エドガートン) セティ1世(ジョン・タトゥーロ) ヨシュア(アロン・ポール) 時代: 紀元前13世紀のイスラエル・エジプト ☑ 有名な『十戒』のリメイク的な作品。映像は迫力があるが、ストーリーは少し淡白。『旧約聖書』を知っておいた方がよい。個人的には途中のカエルとアブがとにかく凄かった…。 制作: アメリカ・イギリス 2014年</p>
<p>トロイ <i>Troy</i> 監督: ウォルフガング・ペーターゼン 出演: アキレウス(ブラッド・ピット) パリス(オーランド・ブルーム) ヘクトル(エリック・バナ) プリアモス(ピーター・オートール) 時代: 紀元前12世紀ころの古代ギリシア ☑ ホメロスの『イリアス』をもとにして、トロイア戦争を描いた作品。かなり原作とはストーリーが異なる。俳優陣はハンサムぞろい。なかでもエリック・バナの演技が光る。 制作: アメリカ 2004年</p>	<p>スパルタ総攻撃 <i>300 Spartans</i> 監督: ルドルフ・マテ 出演: レオニダス(リチャード・イーガン) テミストクレス(ラルフ・リチャードソン) クセルクセス1世(デヴィッド・ファラー) 時代: 紀元前5世紀のギリシア(ペルシア戦争のテルモピレーの戦い) ☑ 第三回ペルシア戦争のテルモピレーの戦いを描いた作品。『300』と舞台は同じ。というより『300』の原作者は、これを子供のころに観ていたらしい。元ネタになった作品。 制作: アメリカ 1961年</p>
<p>300 <スリーハンドレッド> <i>300</i> 監督: ザック・スナイダー 出演: レオニダス(ジェラルド・バトラー) 王妃ゴルゴ(レナ・ヘディ) クセルクセス(ロドリゴ・サントロ) セロン(ドミニク・ウェスト) 時代: 紀元前5世紀のギリシア(ペルシア戦争のテルモピレーの戦い) ☑ 第3回ペルシア戦争のテルモピレーの戦いを描いた作品。同名コミックの映画化。歴史映画というより壮快なファンタジー映画。アケメネス朝が黒人の国なのには衝撃を受けた。 制作: アメリカ 2007年</p>	<p>300 <スリーハンドレッド> 帝国の進撃 <i>300 Rise on an Empire</i> 監督: ノーム・ムーロ 出演: テミストクレス(サリバン・ステイブルトン) アルテミア(エヴァ・グリーン) 王妃ゴルゴ(レナ・ヘディ) クセルクセス(ロドリゴ・サントロ) 時代: 紀元前5世紀のギリシア(ペルシア戦争のサラミスの海戦) ☑ 前作に引き続きペルシア戦争を描いた作品。今度はサラミスの海戦である。相変わらずCG満載で血と首が飛びまくりなので注意。三段櫓船の迫力はそれなりにある。 制作: アメリカ 2014年</p>



トロイ (2004)

授業ではトロイア文明のところで、最後の「トロイの木馬」から落城までのシーンを観せています。神話の部分は映画には出てきませんから、戦争の原因などを先に話してから観せるようにしています。以前何かでブラッド・ピットの筋肉がCGという話を聞いたんですけど、本当でしょうか？



300 (2007)

CGとフィクションが満載で、歴史映画に入れていいのか迷うところもありますが、生徒にスパルタという国の特徴を印象づけるには、ちょうどいい作品です。ペルシア戦争を教える時に、「正確ではないよ」と断ったうえで観せています。アケメネス朝ペルシアの描き方がひどすぎて、イラン政府が抗議したという話には納得ですね。

<p>釈迦 <i>釈迦</i></p> <p>監督:三隅研次 出演:ブッダ(本郷功次郎) ダイバ・タッタ(勝新太郎) クナラ王子(市川雷蔵) ウシャマ(山本富士子) オータミー(中村玉緒) 時代:紀元前5世紀のインド</p> <p>☑ ガウタマ・シッダールタが、出家し、悟りを開いてブッダになって、入滅するまでを描いた作品。『座頭市』で有名な勝新太郎が、強烈な演技を見せている。豪華絢爛という感じ。</p> <p>制作:日本 1961年</p>	<p>孔子の教え <i>孔子</i></p> <p>監督:フー・メイ 出演:孔子(チョウ・ユンファ) 南子(ジウ・シュン) 季孫斯(チェン・ジェンピン) 顔回(レン・チュアン) 老子(シュイ・ホアンジャン) 時代:紀元前5世紀の中国(春秋時代)</p> <p>☑ アジアの歴史に最も影響を与えた人物のひとり、儒家の創始者である孔子の生涯を描いた作品。映画としては淡々としすぎている感があるが、『論語』に興味がある人はぜひ。</p> <p>制作:中国 2009年</p>
<p>アレキサンダー <i>Alexander</i></p> <p>監督:オリヴァー・ストーン 出演:アレクサンドロス大王(コリン・ファレル) フィリップス 2 世(ヴァル・キルマー) プトレマイオス(アンソニー・ホプキンス) 時代:紀元前4世紀のヘレニズム世界</p> <p>☑ アレクサンドロス大王の生涯を描いた作品。ガウガメラの戦いやインドでの戦いのシーンは迫力がある。「孤独な英雄」という描き方をしているようだった。</p> <p>制作:アメリカ 2004年</p>	<p>ガーディアン ハンニバル戦記 <i>Hannibal</i></p> <p>監督:エドワード・バザルゲット 出演:ハンニバル(アレクザンダー・シディグ) スキピオ(ショーン・デイン) グウォール) マゴ(ミド・ハマダ) ハシュドゥルバル(バシャル・ラハル) 時代:紀元前3世紀の地中海世界</p> <p>☑ 第2回ポエニ戦争でアルプス越えをしたことで名高い、カルタゴの名将ハンニバルを描いた作品。元はイギリスのテレビドラマらしい。若干迫力にかけるとい印象。</p> <p>制作:イギリス 2006年</p>
<p>始皇帝暗殺 <i>The First Emperor</i></p> <p>監督:チェン・カイコー 出演:始皇帝(リー・シュエチエン) 荊軻(チャン・フォンイー) 燕丹(スン・チョウ) 趙姫(コン・リー) 時代:紀元前3世紀の中国(戦国時代)</p> <p>☑ 中国統一へと突き進む秦王政(後の始皇帝)の暗殺計画をめぐる人間模様を描いた作品。当時の服装や武器は興味深い。咸陽宮のセットはものすごいスケール。</p> <p>制作:中国・日本・フランス・アメリカ 1998年</p>	<p>項羽と劉邦/その愛と興亡 <i>The Great Conqueror's Concubine</i></p> <p>監督:スティーブン・シン 出演:呂稚(コン・リー) 劉邦(チャン・フォンイー) 項羽(レイ・ロイ) 虞美人(ロザムンド・クワン) 張良(チン・シーチェ) 時代:紀元前3世紀の中国</p> <p>☑ 秦の滅亡後に、中国統一をかけて争った項羽と劉邦と、二人を支えた女性を描いた作品。女性の方に焦点をあてている。コン・リーは、こういった史劇には欠かせない女優です。</p> <p>制作:香港・中国 1994年</p>
<p>クレオパトラ <i>Cleopatra</i></p> <p>監督:ジョセフ・マンキウィッツ 出演:クレオパトラ(エリザベス・テイラー) カエサル(レックス・ハリソン) アントニウス(リチャード・バートン) ブルートゥス(ケネス・ハイグ) 時代:紀元前1世紀のエジプトとローマ</p> <p>☑ クレオパトラのイメージを決定づけた作品。副題を「アントニウスの悲劇」にして欲しい。ちなみにクレオパトラ役の人とアントニウス役の人は、2回結婚して2回離婚した。</p> <p>制作:アメリカ 1963年</p>	<p>シーザーとクレオパトラ <i>Caesar and Cleopatra</i></p> <p>監督:ガブリエル・パスカル 出演:カエサル(クロード・レインズ) クレオパトラ(ヴィヴィアン・リー) アポロドルス(スチュアート・グレンジャー) 時代:紀元前1世紀の共和政ローマ</p> <p>☑ バーナード・ショーの戯曲を映画化した作品。『風とともに去りぬ』で有名なヴィヴィアン・リーがクレオパトラを演じている。1945年にすでにカラー作品というのがまず驚き。</p> <p>制作:イギリス 1945年</p>



アレキサンダー (2004)
ガウガメラの戦いのシーンは、それ以前に行われたグラニコス川の戦いやイッソスの戦いと混同している描写もあるんですが(わざと映画的にそうしているのでしょうか?)、重装歩兵の突撃やペルシアの戦車など、授業で観せたい映像が盛りだくさんです。少し残酷なシーンがあるので、そこは注意ですね。
時間があるときは、少年時代に愛馬ブーケファラスに初めて乗るシーンも観せています。



<p>レジェンド・オブ・エジプト</p> <p><i>Cleopatra</i></p> <p>監督: フランク・ロッドム 出演: クレオパトラ(レオノア・バレラ) カエサル(ティモシー・ダルトン) アントニウス(ピリー・ゼーン) 時代: 紀元前1世紀のエジプトとローマ</p> <p>☑ 原題からわかるとおり、クレオパトラを主人公にした作品。元々はアメリカのテレビドラマらしい。俳優のイメージはそれなりだったが、全体的に安っぽい作りで見応えはない。</p> <p>制作: アメリカ 1999年</p>	<p>マリア</p> <p><i>The Nativity Story</i></p> <p>監督: キャサリン・ハードウィック 出演: マリア(ケイシャ・キャッスル・ヒューズ) ヨセフ(オスカー・アイザック) ヘロデ王(キアラン・ハインズ) ヨアキム(ジョン・トープ) 時代: 紀元前1世紀のパレスチナ</p> <p>☑ イエスの母マリアと父ヨセフの結婚と、イエスの誕生までを描いた作品。脚色もあるが聖書にはかなり忠実で、パレスチナの風景も美しい。中東系の顔立ちのマリアは新鮮でよい。</p> <p>制作: アメリカ 2006年</p>
<p>キング・オブ・キングス</p> <p><i>King of Kings</i></p> <p>監督: ニコラス・レイ 出演: イエス(ジェフリー・ハント) マリア(シオバーン・マッケンナ) 洗礼者ヨハネ(ロバート・ライアン) ユダ(リップ・トーン) 時代: 1世紀のパレスチナ</p> <p>☑ ナザレのイエスの生涯を描いた作品。『新約聖書』の内容をまんべんなく含んでいるので、キリスト教の入門編としては一番いい。『パッション』との比較もおもしろい。</p> <p>制作: アメリカ 1961年</p>	<p>パッション</p> <p><i>The Passion of the Christ</i></p> <p>監督: メル・ギブソン 出演: イエス(ジム・カヴィーゼル) マリア(マヤ・モルゲンステルン) マグダラのマリア(モニカ・ベルッチ) ユダ(ルカ・リオネッロ) 時代: 1世紀のパレスチナ</p> <p>☑ ナザレのイエスの受難を描いた作品。メル・ギブソンが私財をはたいて制作した。聖書に忠実だが、かなり痛々しいシーンが多いので、血が苦手な人は選ばないように。</p> <p>制作: アメリカ 2004年</p>
<p>最後の誘惑</p> <p><i>The Last Temptation of Christ</i></p> <p>監督: マーティン・スコセッシ 出演: イエス(ウィレム・デフォー) ユダ(ハーヴェイ・カイテル) マグダラのマリア(バーバラ・ハーシー) ピラト(デビッド・ボウイ) 時代: 1世紀のパレスチナ</p> <p>☑ イエスの伝道を描いた作品だが、他の作品と比べると、完全に聖書に忠実というわけではない。ユダの役割が非常に興味深いところ。十字架からの展開は衝撃的。少し上級者向けかな。</p> <p>制作: アメリカ 1988年</p>	<p>JESUS 奇跡の生涯</p> <p><i>Jesus</i></p> <p>監督: ロジャー・ヤング 出演: イエス(ジェレミー・シスト) マリア(ジャクリーン・ピセット) ピラト(ゲイリー・オールドマン) 時代: 1世紀のパレスチナ</p> <p>☑ ナザレのイエスの生涯を描いた作品。コンパクトにまとめてあってわかりやすいが、エピソードの数は物足りないかも。スーツ姿のサタンなど、なかなか興味深い作品になっている。</p> <p>制作: アメリカ 1999年</p>
<p>ジーザス</p> <p><i>The Public Life of Jesus/Gospel of Luke</i></p> <p>監督: ピーター・サイクス 出演: イエス(ブライアン・ディーコン) マリア(リヴァ・ニューマン) 洗礼者ヨハネ(エリー・コーエン) ユダ(エリー・ダンカー) 時代: 1世紀のパレスチナ</p> <p>☑ ナザレのイエスの生涯を『ルカの福音書』を忠実に再現して描いた作品。カトリックの団体が聖書学者や考古学者を総動員して制作したらしい。宗教色が濃いのが少し気になる。</p> <p>制作: アメリカ 1979年</p>	<p>偉大な生涯の物語</p> <p><i>The Greatest Story Ever Told</i></p> <p>監督: ジョージ・ステューブス 出演: イエス(マックス・フォン・シドー) マリア(ドロシー・マクガイア) ヨセフ(ロバート・ロギア) 洗礼者ヨハネ(チャールトン・ヘストン) 時代: 1世紀のパレスチナ</p> <p>☑ ナザレのイエスの生涯を描いた作品。生涯を丹念に描くのはよいとして、4時間はあまりにも長すぎる…。名優ジョン・ウェインがちょこっとゲスト出演しているのがおもしろい。</p> <p>制作: アメリカ 1965年</p>



パッション (2004)

聖書の知識がない状態で観たときは、とにかくイエスが拷問を受けて磔にされるシーンが痛すぎて、ちょっと気分が悪くなりました。その後、聖書の勉強をしてからもう一度観た時は、セリフの意味や背景がわかるので、本当に感動しました。言語が当時使われていたアラム語やラテン語というのも凄い。

ただ映像が衝撃的過ぎて、授業では静止画像だけ見せています。



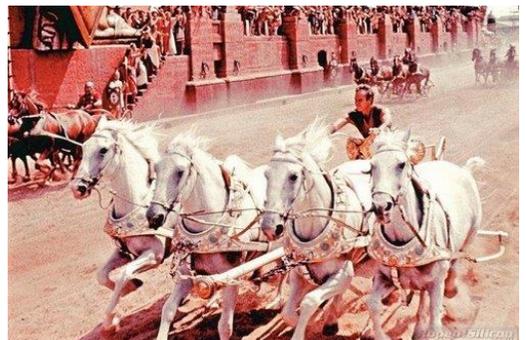
<p>聖衣 <i>The Robe</i> 監督: ハンリー・コスター 出演: マーセラス(リチャード・バートン) ダイアナ(ジーン・シモンズ) デイミトリアス(ヴィクター・マチュア) ペトロ(マイケル・レニー) 時代: 1世紀のローマ帝国</p> <p>☑ ティベリウス帝の時代、護民官マーセラスは、左遷された先のイェルサレムで、偶然ナザレのイエスを処刑するはめになり、良心の呵責から発狂してしまう。聖書に基づいた話らしい。</p> <p>制作: アメリカ 1953年</p>	<p>奇跡の丘 <i>Il Vangelo secondo Matteo</i> 監督: ピエル・パオロ・パゾリーニ 出演: イエス(エンリケ・イラソキ) マリア(マルゲリータ・カルーシ) ヨセフ(マルチェロ・モランテ) 洗礼者ヨハネ(マリオ・ソクラテ) 時代: 1世紀のパレスチナ</p> <p>☑ 『新約聖書』の「マタイの福音書」を、無神論者として知られる監督が映画化。白黒作品だが、数多い聖書関連の映画の中で、必ず名前が上がる一作。</p> <p>制作: イタリア・フランス 1964年</p>
<p>スパルタカス <i>Spartacus</i> 監督: スタンリー・キューブリック 出演: スパルタカス(カーク・ダグラス) クラッス(ローレンス・オリヴィエ) カエサル(ジョン・ガヴィン) ヴァリニア(ジーン・シモンズ) 時代: 紀元前1世紀の共和政ローマ</p> <p>☑ 共和政末期のスパルタカスの反乱を描いた作品。第1回三頭政治へとつながる、ローマの政治劇として観てもよい。ローマ軍との戦闘シーンは迫力がある。「アイムスパルタカス！」</p> <p>制作: アメリカ 1960年</p>	<p>カリギュラ <i>Caligula</i> 監督: ティント・プラス ボブ・グッチョーネ ジャンカルロ・ルイ 出演: カリグラ(マルコム・マクダウエル) ティベリウス(ピーター・オトゥール) アグリッピナ(ロリー・ワグナー) 時代: 1世紀のローマ帝国</p> <p>☑ ここに載せていいものかどうか…。暴君で知られるローマ皇帝カリグラを主人公にした作品。いろんな意味で有名な作品である。純真な高校生は観ないように！！</p> <p>制作: アメリカ 1980年</p>
<p>ベン・ハー <i>Ben-Hur</i> 監督: ウィリアム・ワイラー 出演: ユダ・ベンハー(チャールトン・ヘストン) メッサラ(スティーブン・ボイド) クイントス(ジャック・ホーキンス) 時代: 1世紀のローマ帝国</p> <p>☑ アカデミー賞 11部門受賞の超大作。なんといっても最後の戦車競争のシーンが凄い。副題は「キリストの物語」であるが、キリストは後姿しか出てこない。船のシーンもよい。</p> <p>制作: アメリカ 1959年</p>	<p>ベン・ハー <i>Ben-Hur</i> 監督: ティム・バクマンバトフ 出演: ユダ・ベンハー(ジャック・ヒューストン) メッサラ(トビー・ケベル) クイントス(ジェームズ・コスモ) 時代: 1世紀のローマ帝国</p> <p>☑ 映画史に残る超大作のリメイク。映像の美しさやストーリーのテンポはよくなったが、やはり授業で使うのは1959年版なんだよなあ。あまりにもオリジナルが偉大すぎる。</p> <p>制作: アメリカ 2016年</p>
<p>NERO (悲しみの暴君ネロ) <i>NERO</i> 監督: ポール・マーカス 出演: ネロ(ハンス・マシソン) アグリッピナ(ラウラ・モランテ) カリグラ(ジョン・シム) アクテ(リーケ・シュミット) 時代: 1世紀のローマ帝国</p> <p>☑ 暴君として有名なローマ皇帝ネロの生涯を描いた作品。正義感に溢れた青年が、暴君となっていく過程が描かれている。ただ全体的に安っぽいというか、かなり物足りない…。</p> <p>制作: イタリア・スペイン・イギリス 2004年</p>	<p>ポンペイ <i>Pompeii</i> 監督: ポール・W・S・アンダーソン 出演: マイロ(キット・ハリントン) カッシア(エミリー・ブラウニング) アウレリア(キャリー・アン・モス) コルガス(キーファー・サザーランド) 時代: 1世紀のローマ帝国</p> <p>☑ ローマ帝国の都市ポンペイを舞台に、剣闘士とその恋を描いた作品。もちろん最後は火山の噴火で終わる。迫力はあるが、ストーリーはB級映画である。『グラディエーター』を観よ。</p> <p>制作: アメリカ 2014年</p>



ベン・ハー (1959)

映画史に残る一作でしょう。授業で使うのはやはりラストの戦車競争のシーン。おそらく多くの世界史の先生が、同じシーンを授業で使っているのではないのでしょうか。CGもない50年前の映画とはとても思えないほど、迫力満点です。

主役のベン・ハーを演じたチャールトン・ヘストンは、こういった史劇には欠かせない俳優ですね。他に『十戒』、『エル・シド』、『北京の55日』、『カーツーム』など、多くの世界史映画に出演しています。



<p>ローマ帝国の滅亡 <i>The Fall of the Roman Empire</i></p> <p>監督: アンソニー・マン 出演: ルキラ(ソフィア・ローレン) リウィウス(スティーヴン・ボイド) マルクス・アウレリウス・アントニヌス(アレック・ギネス) 時代: 2世紀のローマ帝国</p> <p>☑ 『グラディエーター』は、『スパルタカス』、『ベン・ハー』へのオマージュが多いが、原案となった作品はこれだろう。大女優ソフィア・ローレンが主演。今観ると若干安っぽい。</p> <p>制作: アメリカ 1964年</p>	<p>グラディエーター <i>Gladiator</i></p> <p>監督: リドリー・スコット 出演: マキシム(ラッセル・クロウ) コンモドゥス帝(ホアキン・フェニックス) マルクス・アウレリウス・アントニヌス(リチャード・ハリス) 時代: 2世紀のローマ帝国</p> <p>☑ 謀略により剣闘士の身分に落とされた将軍マキシムが、コンモドゥス帝への復讐を目指し、コロッセウムで戦っていく。ゲルマン人との戦いのシーンもよい。アカデミー賞。</p> <p>制作: アメリカ 2000年</p>
<p>テルマエ・ロマエ <i>THERMAE ROMAE</i></p> <p>監督: 武内 英樹 出演: ルシウス(阿部寛) ハドリアヌス(市村正親) ケイオニウス(北村一輝) マルクス(勝矢) 山越真実(上戸彩) 時代: 2世紀のローマ帝国</p> <p>☑ ローマ帝国の五賢帝時代を舞台にした大人気マンガの映画化。日本人とローマ人はお風呂好きという共通点がある。楽しくローマ文化を学べるが、マンガほどのキレはないな。</p> <p>制作: 日本 2012年</p>	<p>テルマエ・ロマエ II <i>THERMAE ROMAE II</i></p> <p>監督: 武内 英樹 出演: ルシウス(阿部寛) ハドリアヌス(市村正親) ケイオニウス(北村一輝) マルクス(勝矢) 山越真実(上戸彩) 時代: 2世紀のローマ帝国</p> <p>☑ 前作のヒットを受けて制作された。相変わらずローマ人のように濃い顔立ちの日本人俳優が出演している。現代の技術はとりあえず奴隷で代用するところがとてもローマらしい。</p> <p>制作: 日本 2014年</p>
<p>アレクサンドリア <i>Agora</i></p> <p>監督: アレハンドロ・アメナーバル 出演: ヒュパティア(レイチェル・ワイズ) タオス(マックス・ミンゲラ) オレステス(オスカー・アイザック) キュロロス(サミ・サミール) 時代: 4世紀のエジプト</p> <p>☑ ローマ末期のエジプトで、女性数学者として活躍したヒュパティアを描いた作品。キリスト教の排他的な面を強調して描いており、これがスペインで制作されたことに驚く。</p> <p>制作: スペイン 2009年</p>	<p>覇王伝 アッティラ <i>Attila the Hun</i></p> <p>監督: ディック・ローリー 出演: アッティラ(ジェラルド・バトラー) フラヴィウス(パワーズ・ブース) ブレダ(トミー・フラナガン) 時代: 5世紀のヨーロッパ</p> <p>☑ 5世紀にヨーロッパに侵入したフン族の王アッティラの生涯を描いた作品。騎馬での戦闘シーンは迫力がある。主演は『300』で有名なジェラルド・バトラー。今回もカッコいい。</p> <p>制作: アメリカ・リトアニア 2001年</p>
<p>キング・アーサー <i>King Arthur</i></p> <p>監督: アントワーヌ・フークワ 出演: アーサー(クライヴ・オーウェン) ランスロット(ヨアン・グリフィス) グウネヴィア(キアラ・ナイトレイ) トリスタン(マッツ・ミケルセン) 時代: 5世紀のブリタニア(イギリス)</p> <p>☑ 「アーサー王伝説」のモデルとなった、アルトゥリウスが主人公。西ローマ帝国が混乱し、ブリタニアに侵入してくるサクソン族を、部下の騎士たちとともに撃退しようとする。</p> <p>制作: アメリカ・アイルランド・イギリス 2004年</p>	<p>トゥルーナイト <i>First Knight</i></p> <p>監督: ジェリー・ザッカー 出演: アーサー王(ショーン・コネリー) ランスロット(リチャード・ギア) グィネヴィア(ジュリア・オーモンド) マラガント(ベン・クロス) 時代: アーサー王の時代(5世紀)</p> <p>☑ 「アーサー王伝説」を、ラブロマンスに焦点をあてて描いた作品。この作品では、アーサーが王となったあとの、ランスロットとグィネヴィアの許されざる恋が描かれている。</p> <p>制作: アメリカ 1995年</p>



グラディエーター (2000)

ローマ帝国を舞台に作られた映画は数多いですが、『ベン・ハー』と並んで有名なのが、この『グラディエーター』でしょうね。

世界史の授業でも使えるシーンがたくさんあります。冒頭のローマ軍対ゲルマン人の戦い、CGで見事に再現されたコロッセウム、そして何とも言えないのが、試合前に観客席に放り込まれるパン。「パンと見世物」を教えるにはもってこいです。



<p>レッド・クリフ Part I 赤壁 監督: ジョン・ウー 出演: 周瑜(トニー・レオン) 小喬(リン・チーリン) 諸葛孔明(金城武) 趙雲(ワー・ジュン) 曹操(チャン・フォンイー) 時代: 3世紀の中国 ☑ 『三国志演義』の赤壁の戦いを描いた作品。豪華キャストによって、三国志の登場人物が魅力たっぷりに描かれる。合戦シーンは非常に迫力があるが、原作にはないシーンも多い。 制作: 中国・香港・日本・台湾・韓国 2008年</p>	<p>レッド・クリフ Part II 赤壁下 監督: ジョン・ウー 出演: 周瑜(トニー・レオン) 小喬(リン・チーリン) 諸葛孔明(金城武) 趙雲(ワー・ジュン) 曹操(チャン・フォンイー) 時代: 3世紀の中国 ☑ いよいよ赤壁の戦いがはじまる。蔡瑁の謀殺や十万本の矢などのエピソードもあり楽しめる。黄蓋の苦肉の計を入れて欲しかったところ。小喬役の女優はまさに絶世の美女である。 制作: 中国・香港・日本・台湾・韓国 2009年</p>
<p>ザ・メッセージ/砂漠の旋風 The Message 監督: ムスタファ・アッカド 出演: ハムザ(アンソニー・クイン) ビラル(ジョニー・セッカ) ハーリード(マイケル・フォレスト) ザイド(ダミアン・トーマス) 時代: 7世紀のアラビア半島 ☑ イスラームの創始者であるムハンマドの半生を描いた作品。だが偶像崇拜を避けるため、ムハンマドやアリーの姿は出てこない。実はアラビア語版があるらしい。観たい…。 制作: アメリカ・モロッコ・クウェート・リビア・サウジアラビア 1976年</p>	<p>炎のアンダルシア المصير 監督: ユーセフ・シャヒーーン 出演: イブン・ルシュド(ヌール・エルシェリーフ) ゼイナブ(ソフィーヤ・エルアマリー) カリフ・マンズール(マフムード・ハミーダ) 時代: 12世紀のイベリア半島 ☑ ムワッヒド朝が支配するイベリア半島のコルドバを舞台に、イブン・ルシュドを主人公にするという他に類をみない作品。排他的な思想や原理主義など現代社会に対する風刺も効いている。 制作: エジプト・フランス 1997年</p>
<p>バイキング The Vikings 監督: リチャード・フライシャー 出演: エイナー(カーク・ダグラス) エリック(トニー・カーティス) ラグナー(アーネスト・ボーグナイン) モーガナ(ジャネット・リー) 時代: 9世紀の北ヨーロッパ ☑ 北欧のノルマン人、いわゆるヴァイキングを描いた作品。当時の生活やイギリスとの関係が興味深い。ちなみに食べ放題の「バイキング」は、この映画に由来している。 制作: アメリカ 1957年</p>	<p>ロスト・キングダム スルタンの暦 The Keeper: The Legend of Omar Khayyam 監督: カイヴァン・マシャイエフ 出演: オマル・ハイヤーム(ブルーノ・ラストラ) マリク・シャー(モーリッツ・フライトロイ) ハッサン・サバフ(クリストファー・シンプソン) 時代: 11世紀のイラン(現代と交互に) ☑ 歴史映画というよりファンタジー映画だが、セルジューク朝の詩人オマル・ハイヤームが主人公であり、珍しい時代を扱っているので紹介したい。ただ映画としては駄作。 制作: アメリカ 2005年</p>
<p>エル・シド El Cid 監督: アンソニー・マン 出演: エル・シド(チャールトン・ヘストン) シメン(ソフィア・ローレン) アルフォンソ(ジョン・フレザー) サンチョ(ゲイリー・レイモンド) 時代: 11世紀のスペイン(イベリア半島) ☑ イスラーム勢力へのレコンキスタを進めるカスティリヤ王国(スペイン)を舞台に、実在した英雄エル・シドを主人公にした作品。主演は名優チャールトン・ヘストン。 制作: アメリカ 1961年</p>	<p>敦煌 敦煌 監督: 佐藤純彌 出演: 趙行徳(佐藤浩市) 朱王礼(西田敏行) 李元昊(渡瀬恒彦) 呂志敏(柄本明) 西夏の女(三田佳子) 時代: 11世紀の中国 ☑ 井上靖の原作の映画化。時代は北宋だが、西夏も含んでいる。中国でロケを行い、俳優陣も豪華。エキストラも中国の人民解放軍が協力し、日本映画史上最高のスケールを誇る。 制作: 日本 1988年</p>



レッド・クリフ (2008/2009)

公開当時はずいぶん日本でも話題になりました。吉川英治以来の三国志ファンとしては、ストーリーに物足りなさを感じるかもしれませんが、十分に三国志の世界を堪能できました。生徒が三国志に興味を持つきっかけになれば、最高です。

キャストは、リン・チーリンの美しさはさておき(笑)、金城武の諸葛孔明は雰囲気がありました。授業では、『レッド・クリフ part II』で10万本の矢など赤壁の戦いのシーンを観せています。



<世界史映画の思い出①>

私は3年間の授業で、40本ほどの映画を観せています。もちろん1時間全ては観せられないので、5分から10分くらいのシーンを授業に組み込む形で使用しています(3年次の『シンドラーのリスト』だけは1時間使います)。可能であればもっと観て欲しいので、夏休みや冬休みに「世界史に関する映画を観てレポートを書く」という課題を出していた時代もあります。

最近、読んだ本を紹介しあうビブリオバトルというイベントが盛んに行われるようになりました。主体的かつ協働的な学びであり、表現力も問われることから、新学習指導要領の方向性に非常に合った学習法だと思います。そこでビブリオバトルをパクった「シネフィルバトル」というイベントを作ってみました。冬休みに好きな世界史映画を鑑賞し、それを同級生が観てみたくなるような紹介を3分で行うというものです。提出物は、「3分間の台本」と「関連画像1枚」をデータで提出としました。聞いている生徒は内容を評価し、「最も観たくなった映画」を選んで表彰しました。それをみんなで観る時間までは確保できなかったのが残念でしたが、生徒も教員も楽しく学べるイベントであったように思います。

本でもマンガでも映画でもいいのですが、何か生徒が世界史に興味・関心を持つきっかけを与えたいですね。それが普段の授業であれば最高ですが、入口は本当に何でもよいと思います。世界史は本当におもしろく、学ぶ価値のある学問だと考えています。



<p>冬のライオン <i>The Lion in Winter</i></p> <p>監督:アンソニー・ハーヴェイ 出演:ヘンリ2世(ピーター・オートール) エレノア(キャサリン・ヘプバーン) リチャード1世(アンソニー・ホプキンス) 時代:12世紀のイギリス</p> <p>☑ イングランド王家の王位継承をめぐるドロドロを描いた作品。ブロードウェイの舞台だったものを映画化したもの。名優アンソニー・ホプキンスが若い!</p> <p>制作:アメリカ 1968年</p>	<p>キングダム・オブ・ヘヴン <i>Kingdom of Heaven</i></p> <p>監督:リドリー・スコット 出演:バリアン(オーランド・ブルーム) ゴドフロア(リアム・ニーソン) ティベリウス卿(ジェレミー・アイアンズ) シビラ(エヴァ・グリーン) 時代:12世紀のエルサレム。十字軍時代</p> <p>☑ 十字軍を描いた作品。時代としては第二回と第三回十字軍の間くらい。オーランド・ブルーム演じたバリアンは実在の人物。エルサレム攻防戦は迫力がある。サラディンがよい。</p> <p>制作:アメリカ 2005年</p>
<p>ロビン・フッド <i>Robin Hood</i></p> <p>監督:リドリー・スコット 出演:ロビン・フッド(ラッセル・クロウ) マリアン(ケイト・ブランシェット) リチャード1世(ダニー・ヒューストン) ジョン王(オスカー・アイザック) 時代:12世紀のイギリス</p> <p>☑ ロビン・フッド誕生前夜を描いた作品。十字軍、イギリスの内紛、英仏の抗争など世界史を勉強しているとわかるシーンがたくさんあっておもしろい。</p> <p>制作:アメリカ・イギリス 2010年</p>	<p>ロビン・フッド <i>Robin Hood : Prince of Thieves</i></p> <p>監督:ケビン・レイノルズ 出演:ロビン・フッド(ケビン・コスナー) アジーム(モーガン・フリーマン) ノッティンガム侯(アラン・リックマン) ウィル(クリスチャン・スレーター) 時代:12世紀のイギリス</p> <p>☑ 中世イギリスが舞台。弓の名手で森に住み、悪代官を懲らしめるロビン・フッドの活躍を描いた作品。ロビン・フッドは、イギリスで大衆に最も親しまれているヒーロー。</p> <p>制作:アメリカ 1991年</p>
<p>ブラザー・サン・シスター・ムーン <i>Fratello Sole, Sorella Luna</i></p> <p>監督:フランコ・ゼフィレッツ 出演:フランチェスコ(グレアム・ウォークナー) インノケンティウス3世(アレック・ギネス) ベルナルド(リー・ローソン) 時代:12世紀のイタリア</p> <p>☑ 中世イタリアのアッシジを舞台に、フランチェスコ会の創始者である聖フランチェスコの生涯を描いた作品。優しく、雰囲気のある映画、アッシジはいつか行ってみたい。</p> <p>制作:イタリア・イギリス 1972年</p>	<p>フランチェスコ <i>Francesco</i></p> <p>監督:リリアーナ・カヴァーニ 出演:フランチェスコ(ミッキー・ローク) キアラ(ヘレナ・ボアム・カーター) フランチェスコの父(パオロ・ボナチェリ) 時代:12世紀のイタリア</p> <p>☑ フランチェスコ会の創始者である聖フランチェスコの生涯を描いた作品。修道士になる前は放蕩生活を送っていたフランチェスコ役に、ミッキー・ロークはぴったりか。</p> <p>制作:イタリア 1989年</p>
<p>マルコ・ポーロ／東方見聞録 <i>Marco Polo</i></p> <p>監督:ケビン・コナー 出演:マルコ・ポーロ(イアン・サマーハルダー) フビライ・ハン(ブライアン・デネヒー) 時代:13世紀の世界</p> <p>☑ ヴェネツィア共和国の商人で、元のフビライ・ハンに仕えたマルコ・ポーロの生涯を描いた作品。結構長い…。ヨーロッパ人が中国人の役をやるのは、かなり違和感がある。</p> <p>制作:アメリカ 2007年</p>	<p>ブレイブハート <i>Brave Heart</i></p> <p>監督:メル・ギブソン 出演:ウィリアム・ウォレス(メル・ギブソン) イザベラ(ソフィー・マルソー) エドワード1世(パトリック・マクゲーハン) 時代:13世紀のスコットランド</p> <p>☑ イングランドからの独立を目指して反乱を起こした、スコットランドの民族的英雄ウィリアム・ウォレスを描いた作品。アカデミー賞を受賞。「フリーダーーム!!」</p> <p>制作:アメリカ 1995年</p>



キングダム・オブ・ヘヴン

(2005)

世界史を知らないと、時代背景がわかりづらいかもしれませんが、好きな作品です。授業ではエルサレムでの戦いのシーンを観せています。不寛容な十字軍と寛容なサラディンが対照的でいいですね。

主演は、『ロード・オブ・ザ・リング』で一世を風靡したオーランド・ブルーム。彼は古い時代がよく似合います。



ロビン・フッド (2010)

この映画が一番いいのは、イギリスとフランスの区別が実にあいまいなこと。プランタジネット朝初期の英仏関係をよく表しています。リチャード1世、ジョン王、フィリップ2世のキャラクターもいいですね。戦闘シーンは迫力ありますが、どこかで見たシーンが多いような…。

ちなみに1991年に公開されたケビン・コスナー版の『ロビン・フッド』の方は、コメディタッチで家族みんなで観れる作品ですよ。

<p>蒼き狼 地果て海尽きるまで <i>蒼き狼 地果て海尽きるまで</i></p> <p>監督: 澤井信一郎 出演: テムジン(反町隆史) ジュチ(松山ケンイチ) ボルテ(菊川 令) ジャムカ(平山祐介) トオリル(松方弘樹) 時代: 13世紀のモンゴル</p> <p>☞ モンゴル帝国の建国者テムジン、後のチンギス・ハーンの若い頃を描いた作品。モンゴルの映像は壮大で美しいが、全体にただよこの違和感はなんだろうか。観る必要なし。</p> <p>制作: 日本・モンゴル 2006年</p>	<p>モンゴル <i>Mongol</i></p> <p>監督: セルゲイ・ボドロフ 出演: テムジン(浅野忠信) ボルテ(ホラン・チョローン) ジャムカ(ス・ホンレイ) イェスゲイ(パー・セン) ホエルン(アイ・リーヤー) 時代: 13世紀のモンゴル</p> <p>☞ こちらもテムジンを描いた作品。ただし全てモンゴル語である。ただよう砂ぼこりや土に汚れた衣装など、モンゴルの大地を感じました。『蒼き狼』観るならこっちを観た方がいいでしょう。</p> <p>制作: モンゴル・カザフスタン・ドイツ・ロシア 2007年</p>
<p>薔薇の名前 <i>The Name of the Rose</i></p> <p>監督: ジャン・ジャック・アノー 出演: ウィリアム(ショーン・コネリー) ギー(マーリー・エイブラハム) アドソ(クリスチャン・スレーター) 時代: 14世紀のイタリア</p> <p>☞ 中世の修道院を舞台とする殺人ミステリー。当時の修道院の生活や、礼拝、図書館の様子が描かれている。異端審問官のギーは実在の人物。非常に雰囲気のある映画だと思う。</p> <p>制作: フランス・イタリア・西ドイツ 1986年</p>	<p>ロック・ユー! <i>A Knight's Tale</i></p> <p>監督: ブライアン・ヘルグランド 出演: ウィリアム(ヒース・レジャー) アダマー伯(ルーファス・シーウェル) ジョスリン(シャニン・ソサモン) チョーサー(ポール・ベタニー) 時代: 14世紀のイギリスとフランス</p> <p>☞ ひとりの平民出身の男が、身分を偽り騎士のふりをして、馬上槍試合(トーナメント)で活躍をしていく。現代音楽を取り入れており、テンポもストーリーもよい。なかなかの名作。</p> <p>制作: アメリカ 2001年</p>
<p>ロミオとジュリエット <i>Romeo and Juliet</i></p> <p>監督: フランコ・ゼフィレッツ 出演: ロミオ(レナード・ホワイティング) ジュリエット(オリヴィア・ハッセル) マキューシオ(ジョン・マッケナリー) 時代: 15世紀のイタリア</p> <p>☞ シェイクスピア作の戯曲の映画化。衣装をはじめとして、映像がとても美しい。ストーリーもテンポがよくおもしろい。無名の新人オリヴィア・ハッセルは、この作品で一躍有名に。</p> <p>制作: イタリア 1968年</p>	<p>ヴェニス商人 <i>The Merchant of Venice</i></p> <p>監督: マイケル・ラドフォード 出演: シャイロック(アル・パチーノ) パサーニオ(ジョセフ・ファインズ) アンターニオ(ジェレミー・アイアンズ) ポーシャ(リン・コリンズ) 時代: 16世紀のイタリア(ヴェネツィア)</p> <p>☞ 原作はもちろんシェイクスピア。中世ヴェネツィアの風景や、登場人物の衣装がとてもキレイ。セリフはシェイクスピアの原作そのまま。それにしてもシャイロックがかわいそう…。</p> <p>制作: アメリカ・イタリア・イギリス・ルクセンブルク 2004年</p>
<p>1492 コロンブス <i>1492 Conquest of Paradise</i></p> <p>監督: リドリー・スコット 出演: コロンブス(ジェラルド・ドパルデュール) イザベラ女王(シガニー・ウィーヴァー) サンチェス(アルマンド・アサンテ) 時代: 15世紀のスペインと新大陸(アメリカ大陸)</p> <p>☞ アメリカ大陸を「発見」したコロンブスの半生を描いた作品。制作された1992年は、「発見」からちょうど500周年にあたった。コロンブスの描き方には、賛否両論あった。</p> <p>制作: アメリカ 1992年</p>	<p>華麗なる激情 <i>The Agony and the Ecstasy</i></p> <p>監督: キャロル・リード 出演: ミケランジェロ(チャールトン・ヘストン) ユリウス2世(レックス・ハリソン) ブラマンテ(ハリ・アンドリュース) ラファエロ(トマス・ミアン) 時代: 16世紀のイタリア</p> <p>☞ ルネサンス期のイタリアを舞台にしたミケランジェロの伝記映画。特に「最後の審判」の制作がメインとなる。ラファエロ、ブラマンテなどが登場する。ルネサンスに興味のある人はぜひ。</p> <p>制作: アメリカ 1964年</p>



薔薇の名前 (1986)
 個人的には最初から最後までゾクゾクするようなおもしろさなんですが、生徒に勧めると「先生、意味わかりませんでした…」と言われてしまいます。ペニテンツィアージテ!という感じです。
 建物や衣装など細部まで忠実に再現し、中世のいろんな意味での「暗さ」を気持ち悪いほど感じるすることができますね。



ロック・ユー! (2001)
 中世ヨーロッパを舞台にした映画としては、異色の作品でしょう。クイーンなどの音楽と合わせて、妙にテンションの高い映画です。あまり知られてませんがいい映画ですよ。
 主演のヒース・レジャーは、自分と同年。『パトリオット』でメル・ギブソンの息子役を演じていたのが印象に残っていますが、『ダークナイト』のジョーカー役がやばいです!

<p>キング・オブ・ファイヤー <i>Henry VIII</i> 監督:ピーター・ミドルトン 出演:ヘンリ8世(レイ・ウィンストン) アン・ブーリン(ヘレナ・ボナム・カーター) ロバート・アスケ(ショーン・ビーン) 時代:16世紀のイギリス ☑ イギリスのテューダー朝を、国王ヘンリ8世を中心にして描いた作品。元々はイギリスのテレビドラマ。タイトルは原題のままで良かったような。DVDでは前・後編に分かれている。 制作:イギリス 2003年</p>	<p>ブーリン家の姉妹 <i>The Other Boleyn girl</i> 監督:ジャスティン・チャドウィック 出演:アン・ブーリン(ナタリー・ポートマン) メアリ・ブーリン(スカーレット・ヨハンソン) ヘンリ8世(エリック・バナ) キャサリン(アナ・トレント) 時代:16世紀のイギリス ☑ イギリス国教会誕生のきっかけとなった、テューダー朝のヘンリ8世とブーリン姉妹を描いた作品。トマス・モアが出てこないのが残念だが、当時の時代背景がよくわかる。 制作:イギリス 2008年</p>
<p>わが命つきるとも <i>A Man for All Seasons</i> 監督:フレッド・ジンネマン 出演:トマス・モア(ポール・スコフィールド) ヘンリ8世(ロバート・ショウ) ウェルジー枢機卿(オーソン・ウェルズ) 時代:16世紀のイギリス ☑ 『ユートピア』の作者で、ヘンリ8世の離婚に反対して処刑されたトマス・モアを主人公にした作品。人はどう生きるべきかという重厚なテーマが、丹念に描かれている。 制作:イギリス 1966年</p>	<p>恋に落ちたシェイクスピア <i>Shakespeare in Love</i> 監督:ジョン・マッデン 出演:シェイクスピア(ジョセフ・ファインズ) ヴァイオラ(グウィネス・パルトロー) ウェセックス卿(コリン・ファース) 時代:16世紀のイギリス ☑ 『ロミオとジュリエット』はシェイクスピア自身の経験がモチーフである、という設定がおもしろい。ラブコメだが、17世紀ロンドンが舞台なので歴史映画でもある。アカデミー賞。 制作:アメリカ 1998年</p>
<p>エリザベス <i>Elizabeth</i> 監督:シエカル・カプール 出演:エリザベス1世(ケイト・ブランシェット) レスター伯ダドリー(ジョセフ・ファインズ) フランシス・ウォルシンガム(ジェフリー・ラッシュ) 時代:16世紀のイギリス ☑ エリザベス1世の若い頃を描いた作品。イギリス王室の表と裏がうまく表現されている。エリザベス役のケイト・ブランシェットの演技が絶賛された。衣装も素晴らしい。 制作:イギリス 1998年</p>	<p>エリザベス ゴールデンエイジ <i>Elizabeth :The Golden Age</i> 監督:シエカル・カプール 出演:エリザベス1世(ケイト・ブランシェット) ウォルター・ローリ(クライヴ・オーウェン) フランシス・ウォルシンガム(ジェフリー・ラッシュ) 時代:16世紀のイギリス ☑ 「エリザベス」の続編で、キャストも監督も前作と同じ。ウォルター・ローリとの恋愛やスペインのフェリペ2世との対決が、ストーリーの中心となっている。衣装は今回も見事。 制作:イギリス 2007年</p>
<p>エリザベス1世 <i>Elizabeth I</i> 監督:トム・フーパー 出演:エリザベス(ヘレン・ミレン) レスター伯ダドリー(ジェレミー・アイアンズ) フランシス・ウォルシンガム(パトリック・マラハイド) 時代:16世紀のイギリス ☑ こちらもエリザベス1世を描いた作品。同じ場面も多いが、描き方はかなり違うので、『エリザベス』と比較するのもよい。テレビドラマらしいが、残酷シーンも多いので注意。 制作:イギリス 2005年</p>	<p>レジェンド・オブ・サンダー <i>Gun Powder, Treason & Plot</i> 監督:グリーズ・マッキノン 出演:ジェームズ1世(ロバート・カーライル) メアリ・スチュアート(クレメンズ・ポエジー) エリザベス1世(キャサリン・マコーマック) 時代:17世紀のイギリス ☑ 前半でメアリ・スチュアート、後半では「火薬陰謀事件」を描く。イギリス史のきな臭い部分をドラマ化したもの。テレビドラマなので、若干安っぽさはあるが、雰囲気はよい。 制作:イギリス 2004年</p>



ブーリン家の姉妹 (2008)

授業ではヘンリ8世とアン＝ブーリンの会話のシーンを観ています。当時イギリスが置かれていた状況がよく伝わりますね。娘のエリザベスの誕生を観せておくと、次のテーマにつなげやすい気がします。アン＝ブーリン役はナタリー＝ポートマン。やはり『レオン』が最高。



エリザベス (1998)

ザ・ヴァージン・クイーンこと、エリザベス1世を演じたのはケイト・ブランシェット。衣装やメイクのせいもあるんでしょうが、とにかくものすごいオーラです。個人的には2007年公開の続編がおすすめ。新大陸の話やスペインとの対立のシーンは、授業でも使いやすい部分ですね。

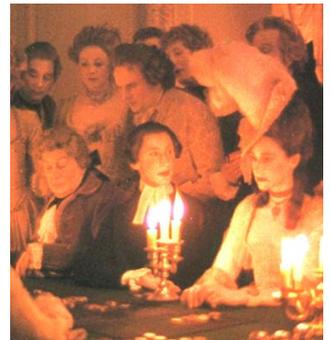
<p>クロムウェル <i>Cromwell</i> 監督:ケン・ヒューズ 出演:クロムウェル(リチャード・ハリス) チャールズ1世(アレック・ギネス) マンチェスター伯(ロバート・モレーイ) 時代:17世紀のイギリス ☑ 1642年のピューリタン革命により、英国史上唯一の共和制をもたらしたクロムウェルを描いた作品。チャールズ1世を演じたアレック・ギネスの演技が良かった。 制作:イギリス 1970年</p>	<p>リバティーン <i>The Libertine</i> 監督:ローレンス・ダンモア 出演:ジョン・ウィルモット(ジョニー・デップ) エリザベス・バリー(サマンサ・モートン) チャールズ2世(ジョン・マルコヴィッチ) 時代:17世紀のイギリス ☑ 王政復古がなった、17世紀イギリスが舞台。ジョニー・デップが、またエキセントリックな役を演じている。内容としては、『バリー・リンドン』の二番煎じか。 制作:イギリス 2004年</p>
<p>バリー・リンドン <i>Barry Lyndon</i> 監督:スタンリー・キューブリック 出演:バリー・リンドン(ライアン・オニール) レディ・リンドン(マリサ・ベレンソン) シュヴァリエ(パトリック・マギー) 時代:18世紀のイギリス ☑ スタンリー・キューブリックの作品。バリー青年の波乱に満ちた人生を、18世紀後半のヨーロッパの雰囲気たっぷりに描く。戦闘シーンや服装、照明など、映像はさすが。 制作:アメリカ 1975年</p>	<p>英国万歳! <i>The Madness of King George</i> 監督:ニコラス・ハイトナー 出演:ジョージ3世(ナイジェル・ホーソーン) シャーロット王妃(ヘレン・ミレン) ドクター・ウィリス(イアン・ホルム) 時代:18世紀後半のイギリス ☑ アメリカ独立戦争時の国王としても知られるジョージ3世は、晩年に精神がおかしくなってしまう。それによって大混乱となるイギリス王室を描いた喜劇。元々は舞台作品である。 制作:イギリス 1994年</p>
<p>ニュー・ワールド <i>The New World</i> 監督:テレンス・マリク 出演:ジョン・スミス(コリン・ファレル) ポカホンタス(クオリアンカ・キルヒヤー) ジョン・ロルフ(クリスチャン・ベール) 時代:17世紀初頭の新大陸(アメリカ大陸) ☑ ディズニースーパーアニメ『ポカホンタス』の実写版といえる作品。テレンス・マリクらしいというか、ストーリーはともかく、透明感ある美しい映像を楽しむ作品かも。 制作:アメリカ 2005年</p>	<p>女王フアナ <i>Juana la Loca</i> 監督:ピセンテ・アラнда 出演:フアナ(ピラール・ロベス・デ・アジャラ) フィリップ美公(ダニエレ・レオッティ) アルバロ(エロイ・アソリン) 時代:15世紀のスペイン ☑ スペイン王女で、ハプスブルク家のフィリップと結婚したフアナを主人公にして描いた作品。狂女として有名なフアナを、深い愛情がゆえに狂った女性として描いている。 制作:スペイン・アメリカ・ポルトガル 2001年</p>
<p>アラトリステ <i>Alatriste</i> 監督:アグスティン・ディアス・ヤネス 出演:アラトリステ(ヴィゴ・モーテンセン) イニゴ・バルボア(ウナクス・ウガルデ) マリア・デ・カストロ(アリアドナ・ヒル) 時代:17世紀のスペイン ☑ 没落しつつあるスペインを舞台にしたベストセラー小説の映画化。オランダ独立戦争や三十年戦争を戦った傭兵が主人公であり、戦争シーンは迫力がある。ゴヤ賞を獲得。 制作:スペイン 2006年</p>	<p>宮廷画家ゴヤは見た <i>Goya's Ghosts</i> 監督:ミロス・フォアマン 出演:ロレンゾ(ハビエル・バルデム) イネス・ビルバトウア(ナタリー・ポートマン) ゴヤ(ステラン・スカルスガルド) 時代:18世紀後半のスペイン ☑ スペインを代表する画家ゴヤが活躍した時代を舞台に、当時行われていた異端審問を描いた作品。ゴヤは狂言回しの役割。画家とその時代を描いた作品は多いが、これはなかなかの良作。 制作:スペイン・アメリカ 2006年</p>



バリー・リンドン (1975)

監督のスタンリー・キューブリックはこの映画で、衣装や美術など徹底的に18世紀の世界を再現したそうです。照明をろうそくの灯だけで撮影したり、BGMを18世紀に作曲された音楽にするなど、様々なこだわりが知られています。授業で使えるシーンは、テーマごとにいろいろあると思いますよ。

キューブリック作品は、『2001年宇宙の旅』、『フルメタル・ジャケット』、『シャイニング』などどれも魅力たっぷり。



<p>イワン雷帝 <i>Ivan Grozny</i></p> <p>監督:セルゲイ・エイゼンシュテイン 出演:イワン雷帝(ニコライ・チェルカソフ) アナスタシア(リュドミラ・ソエリコフスカヤ) ウラディミール(パーヴェル・カドチニコフ) 時代:16世紀のロシア</p> <p>☞ モスクワ大公国のイヴァン4世を描いた作品。巨匠エイゼンシュテインが監督した。第2部の内容は、時の権力者スターリンを批判しているとされる。世界史映画の傑作のひとつ。</p> <p>制作:ロシア 1946年</p>	<p>おろしや国酔夢譚 <i>おろしや国酔夢譚</i></p> <p>監督:佐藤純彌 出演:大黒屋光太夫(緒方拳) ラクスマン(オレグ・ヤンコフスキー) エカチリーナ2世(マリナ・ヴラディ) 庄蔵(西田敏行) 時代:18世紀のロシアと日本</p> <p>☞ 嵐でロシアに漂流した日本人が、鎖国中の日本に帰る手だてを探して、極寒のなかで首都のペテルブルグをめざす。ロシアの冬の厳しさを痛感させられた。井上靖の小説の映画化。</p> <p>制作:日本 1992年</p>
<p>レンブラントの夜警 <i>Nightwatching</i></p> <p>監督:ピーター・グリーンナウェイ 出演:レンブラント(マーティン・フリーマン) ヘンドリック(エミリー・ホームズ) サスキア(エヴァ・パーシッスル) 時代:17世紀のオランダ</p> <p>☞ 17世紀オランダの画家レンブラントは、画家として頂点を極めたが、代表作「夜警」を発売した後に没落していく。きれいな映像だが、ストーリーがおもしろくないなあ…</p> <p>制作:オランダ・イギリス・ドイツ・イタリアなど 2007年</p>	<p>レンブラントへの贈り物 <i>Rembrandt</i></p> <p>監督:シャルル・マトン 出演:レンブラント(クラウス・マリア・ブランダウアー) オイレンブルフ(ファンク・ドラ・ペルソヌ) サスキア(ヨハンナ・テール・ステーヘ) 時代:17世紀のオランダ</p> <p>☞ 17世紀のオランダを代表する画家レンブラントの生涯を描いた作品。彼が愛した女性たちとの関係がストーリーの中心となっている。なおタイトルにある「贈り物」が何なのかは不明(笑)</p> <p>制作:フランス・ドイツ・オランダ 1999年</p>
<p>真珠の耳飾りの少女 <i>Girl with a Pearl Earring</i></p> <p>監督:ピーター・ウェーバー 出演:グリート(スカーレット・ヨハンソン) フェルメール(コリン・ファース) ファン・ライフェントム(ウィルキンソン) 時代:17世紀のオランダ</p> <p>☞ 17世紀のオランダを代表する画家フェルメールの名画「真珠の耳飾りの少女」をめぐる作品。衣装や美術は雰囲気がある。ヨハンソンの顔が徐々に絵の顔に似てくる印章を受けた。</p> <p>制作:イギリス 2002年</p>	<p>ジャンヌ・ダルク <i>The Messenger The Story of Joan of Arc</i></p> <p>監督:リュック・ベッソン 出演:ジャンヌ(ミラ・ジョヴォヴィッチ) シャルル7世(ジョン・マルコヴィッチ) ジャンヌの良心(ダスティン・ホフマン) 時代:15世紀のフランス</p> <p>☞ 百年戦争期のフランスを救った少女、ジャンヌ・ダルクを描いた作品。難解なシーンも多い。私はこれを観て、ジャンヌが少しかわいそうになった。次はぜひフランス語で。</p> <p>制作:フランス 1999年</p>
<p>王妃マルゴ <i>La Reine Margot</i></p> <p>監督:パトリス・シエロー 出演:マルゴ(イザベル・アジャニー) ナヴァラ公アンリ(ダニエル・オートゥイユ) シャルル9世(ジャン・ユグ・アングラード) 時代:16世紀のフランス</p> <p>☞ デュマの同名小説の映画化。ユグノー戦争という宗教戦争の混乱の中で、フランス宮廷に生きた王妃マルゴを中心に描く。サンバルテルミの虐殺のシーンがすごい。</p> <p>制作:フランス 1994年</p>	<p>三銃士 妖婦ミレディの陰謀 <i>D'Artagnan et les trois mousquetaires</i></p> <p>監督:ピエール・アクニネ 出演:ダルタニアン(ヴァンサン・エルバス) ミレディ(エマニュエル・ベアール) アトス(ハイノ・フェルヒ) リシュリュー(チャッキー・カリョ) 時代:17世紀のフランス</p> <p>☞ 『三銃士』のフランス語版。ダルタニアンの顔が濃くてびっくり。ミレディに焦点があてられファンタジー要素が入っているが、原作にはそこそこ忠実。リシュリューがそっくり。</p> <p>制作:フランス 2005年</p>



イワン雷帝 (1946)
ソ連映画を代表する巨匠エイゼンシュテインの監督作品。この映画でイワン雷帝のモデルとなったのは、当時のソ連の独裁者スターリンでした。3部作の予定で制作され、第1部ではイワン雷帝を英雄として描いて絶賛されましたが、第2部では一転して孤独で残虐な独裁者として描き、スターリンを激怒させました。そのため第3部は制作されていません。



ジャンヌ・ダルク (1999)
ジャンヌ・ダルク役は、『フイフス・エレメント』で話題となり、現在は『バイオハザード』でも知られるミラ・ジョヴォヴィッチ。清楚で可憐なジャンヌではなく、アグレッシブでヒステリックなジャンヌを演じました。個人的にこのジャンヌはイメージどおりでした。授業ではオルレアン解放のシーンを観せています。

<p>三銃士 <i>The Three Musketeers</i></p> <p>監督: スティーブン・ヘレク 出演: アラムス(チャーリー・シーン) アトス(キーファー・サザーランド) ダルタニアン(クリス・オドネル) リシュリユ(ティム・カリー) 時代: 17世紀のフランス</p> <p>☞ デュマの『三銃士』の映画化。でもかなり原作とは違うような…。軽いチャンバラ劇のようになっている。歴史映画というより痛快娯楽作品。ディズニー制作なので、それもアリか。</p> <p>制作: アメリカ 1993年</p>	<p>仮面の男 <i>The Man in the Iron Mask</i></p> <p>監督: ランダル・ウオレス 出演: ルイ 14世(レオナルド・ディカプリオ) ダルタニアン(ガブリエル・バーン) アラムス(ジェレミー・アイアンズ) 時代: 17世紀のフランス</p> <p>☞ デュマの『鉄化面』の映画化。太陽王ルイ14世にはそっくりの双子の弟がいたという設定。『三銃士』を先に観てからだと、より楽しめる。老三銃士と老ダルタニアンが渋い。</p> <p>制作: アメリカ 1998年</p>
<p>王妃マリー・アントワネット <i>Marie-Antoinette</i></p> <p>監督: イヴ・シモノー フランシス・ルクレール 出演: マリー・アントワネット(カリーヌ・ヴァナッス) ルイ 16世(オリヴィエ・アーバン) ポリニャック夫人(マリー・イヴ・ポーリュー) 時代: 18世紀後半のフランス</p> <p>☞ マリー・アントワネットのフランス語版。1時間半でコンパクトにまとめた感じ。史実には忠実だが、ソフィア・ Coppola版の方が華やかで話題性もある。</p> <p>制作: フランス 2006年</p>	<p>マリー・アントワネットの首飾り <i>Affair of the Necklace</i></p> <p>監督: チャールズ・シャイア 出演: ジャンヌ(ヘラリー・スワンク) マリー・アントワネット(ジョエリー・リチャードソン) ローアン枢機卿(ジョナサン・プライス) 時代: 18世紀後半のフランス</p> <p>☞ フランス革命前夜に起こった、有名な「首飾り事件」を描いた作品。『ベルサイユのばら』にも出てくる事件。『マリー・アントワネット』と合わせて見るといいかも。</p> <p>制作: アメリカ 2002年</p>
<p>マリー・アントワネット <i>Marie-Antoinette</i></p> <p>監督: ソフィア・ Coppola 出演: マリー・アントワネット(キルスティン・ダンスト) ルイ 16世(ジェイソン・シュワルツマン) ルイ 15世(リップ・トーン) 時代: 18世紀後半のフランス</p> <p>☞ マリー・アントワネットを、オーストリアから異国のフランスに、14歳で嫁いだ少女という視点で描いた作品。ポップな青春映画でもある。先に『ベルばら』を読んでおくべき。</p> <p>制作: アメリカ 2006年</p>	<p>ダントン <i>Danton</i></p> <p>監督: アンジェイ・ワイダ 出演: ダントン(ジェラルド・ドバルデュー) ロベスピエール(ヴォイツェフ・ブシニャック) カミーユ・デムラン(パトリス・シェロー) 時代: 18世紀後半のフランス(フランス革命)</p> <p>☞ フランス革命における恐怖政治を、ダントンとロベスピエールを中心に描いた作品。ふたりの政治家が対照的に描かれている。そろそろフランス革命もの大作が観たいなあ。</p> <p>制作: フランス・ポーランド 1982年</p>
<p>戦争と平和 <i>War and Peace</i></p> <p>監督: キング・ヴィダー 出演: ナターシャ(オードリー・ヘプバーン) ピエール(ヘンリー・フォンダ) アンドリュウ(メル・フェラー) ナポレオン(ハーバート・ロム) 時代: 19世紀前半のロシア</p> <p>☞ トルストイの名作の映画化。オードリー・ヘプバーンが出演していることで有名だが、映画としての評価は、1965年にソ連が国を上げて制作したものの方が高い。</p> <p>制作: アメリカ 1956年</p>	<p>ワーテルロー <i>Waterloo</i></p> <p>監督: セルゲイ・ボンダルチュク 出演: ナポレオン(ロッド・スタイガー) ウェリントン(クリストファー・ブラマー) ルイ 18世(オーソン・ウェルズ) 時代: 19世紀前半のフランス</p> <p>☞ フランスの英雄ナポレオンとイギリスの将軍ウェリントン公との決戦、ワーテルローの戦いを描いた作品。これが失敗したため、キューブリックのナポレオンも制作されなかった。</p> <p>制作: イタリア・ソ連 1970年</p>



三銃士 (1993)

三銃士の映画はたくさんあるんです。なかでもちょっと軽いというか、歴史映画が苦手な生徒でも楽しんで観れるのが、ディズニーの『三銃士』。

原作とはかなり異なるのが難点ですが、宰相リシュリユという人物を印象付けるために観ています。

2011年にはファンタジー的な要素を加えた新作も公開されました。



マリー・アントワネット (2006)

映画の評価については賛否両論ありますが、個人的には好きな作品です。あえて政治的な流れを見せないことで、よくわからないまま時代に流されていく王妃の悲劇が、うまく表現されている気がします。

授業では服や靴を買いあさったり、ギャンブルに興じたり、ものすごい髪型にしたりする場面を観せて、アンシャン=レージュム下での民衆の生活と対比させています。

<p>ナポレオン <i>Napoleon</i> 監督:アベル・ガンズ 出演:ナポレオン(アルベール・デュドネ) ジョゼフィーヌ(ジナ・マネス) ダントン(アレクサンドル・クービッキー) 時代:18世紀後半のフランス ☑ フランスの英雄ナポレオンの前半生を描いた作品。サイレント(無声)映画の傑作とされている。オリジナルは6時間もあるらしい。まあ高校生が観る作品ではないかなあ…。 制作:フランス 1927年</p>	<p>キング・オブ・キングス <i>Napoleon</i> 監督:イヴ・シモノー 出演:ナポレオン(クリスチャン・クラヴィエ) タレーラン(ジョン・マルコヴィッチ) フーシェ(ジェラルド・ドバルデュ) 時代:18世紀後半から19世紀前半のフランス ☑ 英雄ナポレオンの台頭から没落までを描いたフランスのテレビドラマを総集編にしたもの。アウステルリッツやワーテルローなど、戦闘シーンは迫力がある。ロシアからの敗走が印象的。 制作:フランス 2002年</p>
<p>マスター・アンド・コマンダー <i>Master and Commander: The Far Side of the World</i> 監督:ピーター・ウイアー 出演:ジャック・オブリー艦長(ラッセル・クロウ) マチュリン軍医(ポール・バタニー) バレット・ボンデン水兵(ビリー・ポイド) 時代:19世紀初頭ナポレオン戦争期の海戦 ☑ ナポレオン戦争の時代。フランス船を追うイギリス船の艦長が主人公の作品。当時の航海、海戦の様子や、船乗りの生活、考え方などがよくわかる。マチュリン軍医好きだなあ。 制作:アメリカ 2003年</p>	<p>ファイアー・アンド・ソード <i>Ogniem i Mieczem</i> 監督:イェジー・ホフマン 出演:ヘレナ(イザベラ・スコルプコ) ヤン(ミハウ・シェプロフスキ) ボフダン・ケミリニツキー(ボグダン・ストゥパカ) 時代:17世紀のポーランド ☑ 珍しく17世紀のポーランドを舞台にした作品。複雑な国際関係により、国内には様々な勢力が入り乱れ、大混乱になっている。テレビドラマの総集編を、劇場公開したものらしい。 制作:ポーランド 1999年</p>
<p>アマデウス <i>Amadeus</i> 監督:ミロス・フォアマン 出演:サリエリ(マーリー・エイブラハム) モーツァルト(トム・ハルス) ヨーゼフ2世(ジェフリー・ジョンズ) 時代:18世紀後半のオーストリア ☑ 天才音楽家モーツァルトと、その才能を妬むサリエリを描いた作品。ヨーロッパの優雅な宮廷社会の様子がよくわかる。クラシックが好きな人にはお薦め。アカデミー賞受賞。 制作:アメリカ 1984年</p>	<p>敬愛なるベートーヴェン <i>Copying Beethoven</i> 監督:アニエスカ・ホランド 出演:ベートーヴェン(エド・ハリス) アンナ・ホルツ(ダイアン・クルーガー) マルティン・パウアー(マシュー・グッド) 時代:19世紀前半のオーストリア ☑ 作曲家ベートーヴェンと彼の写譜師を務めたアンナとの、複雑な師弟愛を描いた作品。「孤高の天才」という感じで、イメージ通りの描き方。アンナは架空だがモデルがいるらしい。 制作:アメリカ・ドイツ 2006年</p>
<p>パトリオット <i>The Patriot</i> 監督:ローランド・エメリッヒ 出演:ベンジャミン(メル・ギブソン) ガブリエル(ヒース・レジャー) タビントン(ジェイソン・アイザックス) 時代:独立戦争期のアメリカ ☑ フレンチ・インディアン戦争の英雄だった男が、今度はアメリカ独立のためにイギリス軍と戦う。当時の戦闘スタイルは興味深い。メル・ギブソン強すぎ。個人的にはかなり好き。 制作:アメリカ 2000年</p>	<p>アミスタッド <i>Amistad</i> 監督:ステイブ・スピルバーク 出演:ジョッドソン(モーガン・フリーマン) J.Q.アダムズ(アンソニー・ホプキンス) ボールドウィン(マシュー・マコナヘイ) 時代:19世紀半ばのアメリカ ☑ 奴隷船で反乱を起こした黒人奴隷の裁判を描いた作品。実際に起こった事件をもとに作られている。アフリカからアメリカに向かう奴隷船のシーンが強烈。目を背けたくない。 制作:アメリカ 1997年</p>



アマデウス (1984)

天才と変人は紙一重なんでしょうか。あの笑い声が頭から離れません。

授業ではサリエリとモーツァルトが、ヨーゼフ2世の前で初遭遇するシーンを観せています。ヨーゼフ2世が、アントワネットとの絡みをぼろっと言うのがいいですね。モーツァルトがサリエリの曲を勝手に変奏する場面で、それが『フィガロの結婚』の一節と気づけた生徒は、残念ながらまだいません。



アミスタッド (1997)

この映画を観せる時期が近づいてくると、「今年はどうしようかな…」と迷います。強烈すぎて、気持ち悪くなったり倒れたりする生徒が出ないか心配になるからです。

それでも奴隷船のシーンは、生徒に観せる価値のあるシーンだと思います。私はこの映画を使った授業のあたりで、いつも人種問題についてのレポートを書かせています。

<p>それでも夜は明ける <i>12 Years a Slave</i> 監督: スティーブ・マックイーン 出演: ソロモン・ノーサップ(キウエテル・イジョホー) エドウィン・エップス(マイケル・ファスベンダー) パツィー(ルビタ・ニコソグ) 時代: 19世紀半ばのアメリカ</p> <p>☑ 南北戦争前の南部。誘拐されて奴隷として売られ、綿花プランテーションで働く黒人が主人公。人種差別の悲惨さと理不尽さを最も印象的に描いた作品のひとつ。アカデミー賞。</p> <p>制作: アメリカ・イギリス 2013年</p>	<p>風と共に去りぬ <i>Gone with the Wind</i> 監督: ヴィクター・フレミング 出演: スカーレット・オハラ(ヴィヴィアン・リー) レット・バトラー(クラーク・ゲーブル) アシュレ・ウィルクス(レスリー・ハワード) 時代: 19世紀半ばのアメリカ(南北戦争期)</p> <p>☑ 映画史に残る傑作。4時間近い大作にも関わらず大ヒットした。主演のヴィヴィアン・リーの晩年の言葉。「私は年老いて死んで行くけど、この映画は新鮮なまま生き続けるのね…」。</p> <p>制作: アメリカ 1939年</p>
<p>コールド・マウンテン <i>Cold Mountain</i> 監督: アンソニー・ミンゲラ 出演: インマン(ジュード・ロウ) エイダ(ニコール・キッドマン) モンロー(ドナルド・サザーランド) ルビー(レネー・ゼルウィガー) 時代: 19世紀半ばのアメリカ(南北戦争期)</p> <p>☑ 南北戦争を背景にした恋愛ドラマ。テーマとしては『風とともに去りぬ』と同じ。主人公は、恋人に会うために、軍を脱走して故郷コールド・マウンテンに向かう。なかなかの大作。</p> <p>制作: イギリス・イタリア・ルーマニア 2003年</p>	<p>グロリー <i>Glory</i> 監督: エドワード・ズウィック 出演: ロバート・グールド・ショー(マシュー・プロデリック) トリップ(デンゼル・ワシントン) ローリング(モーガン・フリーマン) 時代: 19世紀半ばのアメリカ(南北戦争期)</p> <p>☑ 南北戦争において、北軍の一員として戦った黒人部隊があった。その指揮官で、実在の人物であるショー大佐が主人公。黒人たちは、何のために戦い、何を得たのだろうか。傑作です。</p> <p>制作: アメリカ 1989年</p>
<p>リンカーン <i>Lincoln</i> 監督: スティーブン・スピルバーグ 出演: アイブラハム・リンカーン(ダニエル・デイ・ルイス) メアリー(サリー・フィールド) ウィリアム・スワード(デヴィッド・ストラザン) 時代: 19世紀半ばのアメリカ(南北戦争期)</p> <p>☑ 奴隷解放宣言で名高いアメリカ大統領リンカーン。憲法修正13条がいかに成立したかを詳細に描いた政治ドラマ。アメリカ史についてかなりの知識が要求される。難易度が高い。</p> <p>制作: アメリカ 2012年</p>	<p>ギャング・オブ・ニューヨーク <i>Gangs of New York</i> 監督: マーティン・スコセッシ 出演: アムステルダム(レオナルド・ディカプリオ) ジェニー(キャメロン・ディアス) ビル(ダニエル・デイ・ルイス) 時代: 19世紀半ばのアメリカ</p> <p>☑ 19世紀のギャングの抗争を中心に描いた作品。アメリカに渡ってきた移民たちの生活も、よく伝わってくる。アメリカは移民の国なのです。レオナルド・ディカプリオが渋い。</p> <p>制作: アメリカ・ドイツ・イタリア・イギリス・オランダ 2002年</p>
<p>ソルジャー・ブルー <i>Soldier Blue</i> 監督: ラルフ・ネルソン 出演: クレスタ(キャンディス・バーゲン) ホーナス(ピーター・ストラウス) イサック(ドナルド・プレザンス) 時代: 19世紀半ばのアメリカ</p> <p>☑ アメリカ西部劇史上、画期的な作品である。先住民(インディアン)＝野蛮な悪者という従来の西部劇を打ち壊した作品。残虐なシーンもあるが史実に基づいているとされる。</p> <p>制作: アメリカ 1970年</p>	<p>ダンス・ウィズ・ウルブズ <i>Dances with Wolves</i> 監督: ケビン・コスナー 出演: ダンバー(ケビン・コスナー) 拳を握って立つ女(メアリー・マクドネル) 蹴る鳥(グラハム・グリーン) 風になびく髪(ロドニー・グラント) 時代: 19世紀半ばのアメリカ</p> <p>☑ 南北戦争の英雄となった男と、インディアンとの交流を描いた作品。単なる西部劇ではなく、白人中心主義に強烈な一石を投じた作品といえる。バッファロー狩りのシーンは圧巻。</p> <p>制作: アメリカ 1990年</p>



それでも夜は明ける (2013)
実際の授業ではまだ使えていないのですが、やはり綿花プランテーションのシーンは使いたいですね。どこまでも続く真っ白な綿花畑と、ひたすら綿花を手で摘み続ける黒人奴隷たち。その目は虚ろというか希望を全く感じられません。ムチ打ちや首吊りなど苛酷なシーンも多いですが、観る価値はあります。邦題はちょっと安易かなとは思いますが。



ダンス・ウィズ・ウルブズ (1990)
『ソルジャー・ブルー』と並べて紹介されているのには、もちろん意図があります。素晴らしい作品ですが、まだ授業で使ったことはありません。主演・監督をつとめたのはケビン・コスナー。『ウォーターワールド』の大失敗など駄作も多いですが、『ダンス・ウィズ・ウルブズ』があるかぎり、ケビン・コスナーは偉大です。

<p>アラモ <i>The Alamo</i> 監督: ジョン・ウェイン 出演: デヴィー・クロケット(ジョン・ウェイン) ジム・ボウイ(リチャード・ウイダマーク) ウィリアム・トラヴィス(パトリック・ウィルソン) 時代: 19世紀半ばのアメリカ</p> <p>☑ 「アラモ」という言葉を聞くと、アメリカ人なら誰でもその状況を理解できるらしい。歴史的な考証には批判もあるが、ジョン・ウェインによる映画史に残る伝説的な西部劇です。</p> <p>制作: アメリカ 1960年</p>	<p>アラモ <i>The Alamo</i> 監督: ジョン・リー・ハンコック 出演: サム・ヒューストン(デニス・クエイド) デヴィー・クロケット(ピリー・ボブ・ソートン) ウィリアム・トラヴィス(パトリック・ウィルソン) 時代: 19世紀半ばのアメリカ</p> <p>☑ アメリカ西部開拓史の一部、テキサスのメキシコからの独立戦争中に起きた、アラモの戦いを描いた作品。同名の映画だけでも、これが3作品目。1960年公開のものが一番有名。</p> <p>制作: アメリカ 2004年</p>
<p>沈黙 サイレンス <i>Silence</i> 監督: マーティン・スコセッシ 出演: ロドリゴ(アンドリュー・ガーフィールド) ガルベ(アダム・ドライバー) キチジロー(窪塚洋介) 井上筑後守(イッセー尾形) 時代: 17世紀の日本</p> <p>☑ 遠藤周作の『沈黙』の映画化。巨匠スコセッシは25年前から映画化を構想していたそうだ。信仰や救いについて深く考えさせられる作品である。拷問シーンは少しキツイ。</p> <p>制作: アメリカ 2016年</p>	<p>ロイヤル・アフエア 愛と欲望の要求 <i>En kongelig affære</i> 監督: ニコライ・アーセル 出演: キャロライン王妃(アリア・ヴィキャンデル) ストルーエンセ(マツ・ミケルセン) クリスチャン7世(ミケル・ボー・フォルスボー) 時代: 18世紀のデンマーク</p> <p>☑ デンマークで実際にあった王妃と王と愛人の三角関係を描いた作品。精神的におかしくなったクリスチャン7世の演技がぶっとんでいる。王妃は肖像画から抜け出したような雰囲気。</p> <p>制作: デンマーク・スウェーデン・チェコ 2014年</p>
<p>黒豹のバラード <i>Posse</i> 監督: マリオ・ヴァン・ピーブルズ 出演: ジェシー・リー(マリオ・ヴァン・ピーブルズ) リトル・J(スティーブン・ボールドウィン) ウィージー(チャールズ・レーン) 時代: 19世紀後半のアメリカ</p> <p>☑ 19世紀末、米西戦争期のアメリカを舞台に、奴隷から「解放」された後の、黒人と彼らを取り巻く社会を描く。キャストのほとんどが黒人で、音楽もヒップホップなどを使っている。</p> <p>制作: アメリカ 1993年</p>	<p>アメイジング・グレイス <i>Amazing Grace</i> 監督: マイケル・アプテッド 出演: ウィルバーフォース(ヨアン・グリフィズ) ピット(ベネディクト・カンバーバッチ) パーバラ(ロモーラ・ガライ) フォックス(マイケル・ガンボン) 時代: 19世紀前半のイギリス</p> <p>☑ 黒人奴隷貿易の廃止に人生を捧げたイギリスの若き政治家ウィルバーフォースを描いた作品。理解されず挫折を繰り返しても、信念を貫き通した政治家の物語である。</p> <p>制作: イギリス 2006年</p>
<p>ヴィクトリア女王 世紀の愛 <i>The Young Victoria</i> 監督: ジャン・マルク・ヴァレ 出演: ヴィクトリア女王(エミリー・ブラント) アルバート(ルパート・フレンド) メルボルン子爵ウィリアム・ラム(ポール・ベタニー) 時代: 19世紀前半のイギリス</p> <p>☑ 若きヴィクトリア女王と、その夫アルバートとのラブストーリーが中心。ストーリーは淡々としているが、細かいところまでこだわった衣装は見事。</p> <p>制作: イギリス・アメリカ 2009年</p>	<p>Queen Victoria 至上の恋 <i>Mrs. Brown</i> 監督: ジョン・マッデン 出演: ヴィクトリア女王(ジュディ・デンチ) ブラウン(ペリー・コノリー) ディズレーリ(アントニー・シア) 時代: 19世紀後半のイギリス</p> <p>☑ 長年連れ添った夫アルバートを失い悲しみに暮れる晩年のヴィクトリア女王と、従僕のブラウンとの恋を描いた作品。ディズレーリ首相がそっくりなのがよい(笑)</p> <p>制作: イギリス 1997年</p>



沈黙 サイレンス(2016)

原作を読んだのが高校生の時だったので、原作に忠実かどうかはわかりませんが、素晴らしい作品と思います。ただ、内容をしっかり理解できたかという自信がありません。とにかく考えさせられます。

関係ないですけどマーティン・スコセッシは作品の振れ幅が凄いです。『沈黙』の直前に撮っていたのが『ウルフ・オブ・ウォールストリート』というぶつ飛んだ映画ですから。



アメイジング・グレイス

(2006)

黒人奴隷貿易について扱った時に「アメイジング・グレイス」の曲をその由来とともに紹介しているので、なぜこのテーマでこの曲なのかというのは生徒も理解してくれそうです。

ひとつのことに信念を持って生涯をかけるということが、いかに困難で価値のあることか。世界史にはそういう人物がたくさん出てきます。

<p>オリバー・ツイスト <i>Oliver Twist</i></p> <p>監督:ロマン・ポランスキー 出演:オリバー・ツイスト(バーニー・クラーク) フェイギン(ベン・キングズレー) アートフル・ドジャー(ハリー・イーデン)</p> <p>時代:19世紀前半のイギリス</p> <p>☑ 小説家ディケンズの名作で、何度も映画化されている作品である。9歳の孤児オリバーが、時代の波に翻弄されながらも、懸命に生きる。19世紀のロンドンが丁寧に描かれている。</p> <p>制作:イギリス・チェコ・フランス・イタリア 2005年</p>	<p>サハラに舞う羽根 <i>The Four Feathers</i></p> <p>監督:シカール・カプール 出演:ハリー(ヒース・レジャー) ジャック(ウェス・ベントレー) エスネ(ケイト・ハドソン) アブー(ジャイモン・フンスー)</p> <p>時代:19世紀後半のアフリカ</p> <p>☑ イギリスの古典的な名作小説を映画化したもので、なんと6回目の映画化らしい。帝国主義時代のイギリスによるアフリカ進出が背景にあり、マフディー軍との戦いは迫力あり。</p> <p>制作:アメリカ・イギリス 2002年</p>
<p>レ・ミゼラブル <i>Les Misérables</i></p> <p>監督:ピレ・アウグスト 出演:ジャン・ヴァルジャン(リアム・ニーソン) ジャヴェール(ジェフリー・ラッシュ) コゼット(クリア・デーンズ)</p> <p>時代:19世紀前半のフランス</p> <p>☑ 原作はフランスの文豪ユゴー。今まで何度も映画化されてきた。これは数ある英語版の中では、評価の高い作品。長い原作の中から、焦点をヴァルジャンと警部に絞っている感じ。</p> <p>制作:アメリカ 1997年</p>	<p>レ・ミゼラブル <i>Les Misérables</i></p> <p>監督:トム・フーパー 出演:ジャン・ヴァルジャン(ヒュー・ジャックマン) ジャヴェール(ラッセル・クロウ) ファンティーヌ(アン・ハサウェイ)</p> <p>時代:19世紀前半のフランス</p> <p>☑ 『レ・ミゼラブル』のミュージカルをそのまま映画にした作品。素晴らしい音楽だけでも楽しめるが、ストーリーや19世紀フランスの歴史を知ってから観るとよりおもしろいはず。</p> <p>制作:イギリス 2012年</p>
<p>マルクス・エンゲルス <i>Le jeune Karl Marx</i></p> <p>監督:ラウル・ペック 出演:マルクス(アウグスト・ディール) エンゲルス(シュテファン・コナルスケ) イエニー(ウィッキー・クープス) パワーコン(イバン・フラネク)</p> <p>時代:19世紀半ばのヨーロッパ</p> <p>☑ カール・マルクス生誕200周年に合わせて制作された。『共産党宣言』の著者であり共産主義の生みの親であるマルクスとエンゲルスのふたりを描いた伝記映画。</p> <p>制作:ドイツ・フランス・ベルギー 2017年</p>	<p>コッホ先生と僕らの革命 <i>Der ganz große Traum</i></p> <p>監督:セバスチャン・グロブラー 出演:コンラート・コッホ(ダニエル・ブリュール) グスタフ・メアフェルト(ブルクハルト・クラウスナー) フェリックス・ハートゥング(テオ・トレプス)</p> <p>時代:19世紀後半のドイツ</p> <p>☑ イギリス留学から帰った若い教師が、ドイツではまだあまり知られていなかったサッカーを通じて子供たちに様々なことを教えていく。『いまを生きる』のドイツ版かな。良作です。</p> <p>制作:ドイツ 2011年</p>
<p>海難 1890 <i>Ertağ rui 1890</i></p> <p>監督:田中光敏 出演:田村医師(内野聖陽) ムスタファ(ケナン・エジェ) ハル(忽那汐里) ベキール(アリジャン・ユズソイ) 佐藤(笹野高史)</p> <p>時代:19世紀の日本、1980年代のイラン</p> <p>☑ 日本とトルコの合作映画。オスマン帝国のエルトゥールル号が和歌山沖で沈没した。救出活動を行った日本人と、乗組員のトルコ人の交流を描く。セリフのひとつひとつが響く…。</p> <p>制作:日本・トルコ 2015年</p>	<p>ゾラの生涯 <i>The Life of Emile Zola</i></p> <p>監督:ウィリアム・デイターレ 出演:エミール・ゾラ(ポール・ムニ) ドレフュス(ジョセフ・シルドクラウト) ルーシー・ドレフュス(ゲイル・ソンダーガード)</p> <p>時代:19世紀後半のフランス</p> <p>☑ 有名な「ドレフュス事件」を中心にして、フランスの自然主義作家エミール・ゾラの生涯を描いた作品。アカデミー賞。司法問題の映画とも見れる。</p> <p>制作:アメリカ 1937年</p>



オリバー・ツイスト (2005)
産業革命の授業をするときに、「女性や子供が苛酷な労働を強いられていた」という流れで観せています。もちろんディケンズの名前も一緒に覚えてもらいます。
冒頭の救貧院での生活やロンドンの汚いスラムの様子が、使いやすいシーンでしょうか。食持ちの食事と子供たちの食事があまりに違いすぎます。



海難 1890 (2015)
トルコに留学していた私は、これを紹介せざるにはいられません。トルコ語のタイトルにも「1890」と入っているように、日本がトルコ人を助けるシーンが中心ですが、本来はイラン=イラク戦争の際にトルコが日本人を助ける部分と対になっている作品です。一度はみんなに観て欲しいです。

<p>アンナと王様 <i>Anna and The King</i></p> <p>監督: アンディ・テナント 出演: アンナ(ジョディ・フォスター) モンクット王(チョウ・ユンファ) タブティム(バイ・リン) ルイ(トム・フェルトン) 時代: 19世紀半ばのタイ</p> <p>☑ 原作は19世紀に書かれた古典的名作で、実話をもとにしている。『王様と私』の名で何度も映画やミュージカルになっているが、この作品は完成度が高く、特に人気が高い。</p> <p>制作: アメリカ 1999年</p>	<p>カーツーム <i>Khartoum</i></p> <p>監督: ベイジル・ディアデン 出演: ゴードン将軍(チャールトン・ヘストン) マフディー(ローレンス・オリヴィエ) ステュアート大佐(リチャード・ジョンソン) 時代: 19世紀後半のスーダン</p> <p>☑ スーダンで起こったマフディーの反乱を描いた作品。イギリスのゴードン将軍を、名優チャールトン・ヘストンが演じる。もう少しゴードンについての説明が欲しいところ。</p> <p>制作: アメリカ 1966年</p>
<p>革命児サパタ <i>Viva Zapata!</i></p> <p>監督: エリア・カザン 出演: サパタ(マーロン・ブランド) ホセファ(ジーン・ピーターズ) パンチョ・ビリア(アラン・リード) マデロ(ハロルド・ゴードン) 時代: 1910年代のメキシコ</p> <p>☑ 1911年に起こったメキシコ革命の指導者サパタの生涯を描いた作品。脚本はスタインベック。古い白黒映画だが、意外なほど見応えがある。メキシコ史の知識があるとなおよい。</p> <p>制作: アメリカ 1951年</p>	<p>風とライオン <i>The Wind and the Lion</i></p> <p>監督: ジョン・ミアス 出演: ライズリー(ショーン・コネリー) イーデン(キャンディス・バーゲン) ハイ(ジョン・ヒューストン) ルーズベルト(ブライアン・キース) 時代: 1900年代のモロッコ</p> <p>☑ フォーブスの小説『リフ族の首長』の映画化。砂漠に生きるムスリムの部族長とアメリカ大統領との駆け引きを描いた作品。映画のタイトルは、部族長からの手紙に基づいている。</p> <p>制作: アメリカ 1975年</p>
<p>阿片戦争 <i>鴉片戦争</i></p> <p>監督: シェン・チン 出演: 林則徐(ホー・クオアン) 道光帝(スー・ミン) 何敬容(ランジャン) パーマストン(ベンジャミン・ワイトロー) 時代: 19世紀半ばの中国</p> <p>☑ イギリスと清との間に行われたアヘン戦争を描いた作品。林則徐によるアヘン取締りから1842年の南京条約までを描く。香港返還に合わせて制作されたい。</p> <p>制作: 中国 1997年</p>	<p>西太后 <i>垂簾聽政</i></p> <p>監督: リー・ハンジャン 出演: 西太后(リュウ・シャオチン) 咸豊帝(レオン・カーフェイ) 東太后(チェン・エイ) 麗己(チョウ・チェ) 時代: 19世紀の中国(清代)</p> <p>☑ 清朝末期、衰退し諸外国から侵略される王朝は、西太后という一人の女性の手にあった。最後のシーンは、子供心に衝撃を受けた。女性って恐ろしい…。</p> <p>制作: 中国・香港 1984年</p>
<p>北京の55日 <i>55 Day at PEKING</i></p> <p>監督: ニコラス・レイ 出演: ルイス少佐(チャールトン・ヘストン) ナタリー(エヴァ・ガードナー) ロバートソン卿(デヴィッド・ニーヴン) 柴大佐(伊丹十三) 時代: 1900年代の中国</p> <p>☑ 清朝末期に起きた義和団事件を描いた作品。チャールトン・ヘストン演じるルイス少佐が主人公なので、アメリカが中心。西洋人が中国人を演じているのは、かなり違和感がある。</p> <p>制作: アメリカ 1963年</p>	<p>宋家の三姉妹 <i>The Soong Sisters</i></p> <p>監督: メイベル・チャン 出演: 宋慶齡(マギー・チャン) 宋霽齡(ミシェル・ヨー) 孫文(ウインストン・チャオ) 蒋介石(ウー・シンゴ) 時代: 20世紀の中国</p> <p>☑ 孫文、蒋介石、孔祥熙という、激動の中国近代史を代表する3人に嫁いだ、宋家の三姉妹の生涯を映画化した作品。ヒューマンドラマであり、歴史の暗部にはそれほど触れていない。</p> <p>制作: 中国・日本 1997年</p>



アンナと王様 (1999)

年配の方は、「Shall we dance?」の曲で有名な映画『王様と私』の方をよく御存じかと思いますが、この『アンナと王様』もなかなかの良作です。ただどれだけ当時のタイを正確に描いているのか、そこだけは注意が必要でしょう。使どころは多いと思います。

私の授業では、ラーマ4世(モンクット王)が、当時のタイがイギリスとフランス勢力に挟まれた状態にあることを話す場面や、アンナと後のラーマ5世が奴隷の存在について語りあう場面を観せていますね。特にアンナが『アンクルトムの小屋』を紹介するシーンは、映像を止めて生徒に本のタイトルを当てさせています。



<p>孫文 -100年先を見た男- <i>Road to Dawn</i> 監督: テルク・チュウ 出演: 孫文(ウィンストン・チャオ) シュー・ダンロン(アンジェリカ・リー) チェン・ツイフェン(ウー・ユエ) 時代: 20世紀初頭の中国 ☑ 中国革命の父、孫文を描いた作品。ただし歴史的な場面で活躍する孫文というよりは、孫文と彼を取り巻く女性との関係を描いたラブストーリーという感じ。 制作: 中国 2006年</p>	<p>孫文 <i>孫中山</i> 監督: ティン・インナン 出演: 孫文(劉文治) 宋慶齡(張燕) 朱執信(王咏歌) 宗教仁(王延松) 頭山滿(中谷一郎) 宮崎寅藏(大和田伸也) 時代: 20世紀初頭の中国 ☑ こちらも同じく孫文を描いた作品。生誕120周年を記念して制作された。こちらは孫文の生涯を細かく追って描いている。中国版はもっと長い作品らしい。 制作: 中国 1986年</p>
<p>1911 <i>辛亥革命</i> 監督: ジャッキー・チェン チャン・リー 出演: 黄興(ジャッキー・チェン) 孫文(ウィンストン・チャオ) 袁世凱(スン・チュン) 汪兆銘(ユイ・シャオチュン) 秋瑾(ニン・チン) 時代: 20世紀初頭の中国 ☑ 辛亥革命100周年に合わせて制作された。孫文をはじめ、中国史上の有名人物が次々に登場する。ジャッキー・チェンの100本目の映画でもあるが、映画としては盛り上がりには欠けた。 制作: 中国・香港 2011年</p>	<p>さらば、我が愛/霸王別姫 <i>霸王別姫</i> 監督: チェン・カイコー 出演: 程蝶衣(レスリー・チャン) 段小樓(チャン・フォンイー) 菊仙(コン・リー) 袁四爺(グォ・ヨウ) 老師爺(フェイ・カン) 時代: 20世紀前半の中国 ☑ 京劇の世界に生きる二人の俳優が、日中戦争や文化大革命など時代に翻弄されていく。ため息が出るような美しい映像で、二人の愛と憎しみが描かれる。とても切ない映画です。 制作: 香港 1993年</p>
<p>ラスト・エンペラー <i>The Last Emperor</i> 監督: ベルナルド・ベルトルッチ 出演: 溥儀(ジョン・ローン) 婉容(ジョアン・チェン) レジナルド・ジョンストン(ピーター・オートゥール) 甘粕正彦(坂本龍一) 時代: 20世紀前半の中国 ☑ 清朝最後の皇帝で、満州国の皇帝でもあった溥儀の生涯を描いた作品。孤独で時代に翻弄される一生という感じだった。ロケは実際に紫禁城(北京にある清朝の宮廷)で行われた。 制作: イタリア 中国 イギリス 1987年</p>	<p>二百三高地 <i>二百三高地</i> 監督: 舛田利雄 出演: 乃木希典(仲代達也) 小賀武志(あおい輝彦) 児玉源太郎(丹波哲郎) 明治天皇(三船敏郎) 松尾佐知(夏目雅子) 時代: 1900年代の日露戦争 ☑ 日露戦争の最激戦地、旅順攻略戦を描いた作品。乃木將軍を演じる仲代達也の表情が最高。夏目雅子がすごくキレイ…。さだまさしの歌声が頭から離れない…。「愛は～死にますか～」 制作: 日本 1980年</p>
<p>戦艦ポチョムキン <i>Броненосец «Потёмкин»</i> 監督: セルゲイ・エイゼンシュテイン 出演: グリゴリー(アレクサンドル・アントノフ) ジリアロフスキー(グリゴリー・アレクサンドロフ) ゴリコフ(ウラジミール・バルスキー) 時代: 1900年代のロシア ☑ 1905年に起きたポチョムキン号の反乱を描いた作品。もちろん今観れば古臭いが、映画史上に残る古典的名作とされている。特に「オデッサの階段」と呼ばれるシーンが有名。 制作: ソ連 1925年</p>	<p>ラスプーチン <i>Rasputin</i> 監督: ウリ・エデル 出演: アラン・リックマン(ラスプーチン) アレクサンドラ(グレッタ・スカッチ) ニコライ2世(イアン・マッケレン) ストルピン(ジョン・ウッド) 時代: 1900年代のロシア ☑ ロシア帝国崩壊の原因となったとまで言われ、今なお謎の多い人物であるラスプーチンを、「スネイプ先生」のアラン・リックマンが演じる。不気味な演技はイメージどおり。 制作: アメリカ 1996年</p>



二百三高地 (1980)
乃木希典役は仲代達也。顔も乃木希典に似てるんじゃないでしょうか。少し顔をかたむけながらの敬礼がたまりません。児玉源太郎役は丹波哲郎。独特のイントネーションです。
司馬遼太郎の『坂の上の雲』を読んでから観ると、時代背景もわかり、映画へ感情移入できると思います。ただ授業ではドラマ『坂の上の雲』を最近使っています。



さらば、我が愛/霸王別姫 (1993)
この映画の魅力は、主演のレスリー・チャンが見せる妖艶さにあります。男性俳優が、「京劇という特殊な世界で、女性を演じる男性」を演じるというのは、相当難しかったでしょうね。
20世紀初頭の中国の歴史を知っていると、日中戦争や文化大革命などに主人公たちが翻弄されるストーリーも理解しやすいと思います。

<p>1917 命をかけた伝令 1917 監督:サム・メンデス 出演:ウィル(ジョージ・マッケイ) トム(ディーン・チャールズ・チャップマン) エリンモア将軍(コリン・ファース) スミス大尉(マーク・ストロング) 時代:第一次世界大戦</p> <p>☑ 第一次世界大戦の西部戦線。イギリス軍の若きふたりの兵士は、攻撃中止命令を前線に伝えるために戦場へ飛び込む。全編ワンカットに見える編集も絶賛された。</p> <p>制作:イギリス・アメリカ 2019年</p>	<p>タイム・オブ・ウォー 戦場の十字架 Passchendaele 監督:ポール・グロス 出演:マイケル・ダン(ポール・グロス) サラ(キャロライン・デヴァーナス) デヴィッド(ジョー・ディニコル) 時代:第一次世界大戦期のカナダ</p> <p>☑ 第一次世界大戦期のカナダを描いた珍しい作品。カナダでは映画賞を総なめにした。原題は激戦で知られるパッシェンデールの戦いを意味する。雨の塹壕戦がリアルでよい。</p> <p>制作:カナダ 2008年</p>
<p>戦火の馬 War Horse 監督:スティーブン・スピルバーグ 出演:アルバート(ジェレミー・アーヴァイン) ローズ(エミリー・ワトソン) テッド(ピーター・マラン) ライオンズ(デヴィッド・シュリス) 時代:第一次世界大戦</p> <p>☑ 第一次世界大戦を舞台に、人間と馬の絆を描いた感動作品。キャストに名前はないが馬のジョーイが実質的な主人公だろう。児童書が原作であるためか、ストーリーもわかりやすい。</p> <p>制作:アメリカ 2011年</p>	<p>西部戦線異状なし All Quiet on the Western Front 監督:ルイス・マイルストン 出演:ポール(リュー・エアーズ) カチンスキー(ルイス・ウォルハイム) ヒンメルストス(ジョン・レイ) カントレック(アーノルド・ルーシー) 時代:第一次世界大戦</p> <p>☑ ドイツの作家レマルクの小説を映画化した作品。煽られる愛国心、過酷な塹壕戦、無意味な死。80年以上前に作られた古い映画だが、今なお反戦映画の傑作である。タイトルも秀逸。</p> <p>制作:アメリカ 1930年</p>
<p>戦場のアリア Joyeux Noël 監督:クリスチャン・カリオン 出演:アナ(ダイアン・クルーガー) ニコラウス(ベンノ・フコルマン) ホルストマイヤー(ダニエル・ブリュール) オードゥバール(ギョーム・カネ) 時代:第一次世界大戦の塹壕戦</p> <p>☑ 第一次世界大戦が舞台。前日まで戦場で戦っていた敵同士が、クリスマスイヴの夜に起こした奇跡の実話を描いた作品。人間は一度友達になってしまったら、殺し合いなんてできない。</p> <p>制作:フランス・イギリス・ドイツ 2005年</p>	<p>十月 Октябрь 監督:セルゲイ・エイゼンシュテイン 出演:レーニン(ヴァシリー・ニカンドロフ) ケレンスキー(ウラディミール・ポポフ) コノヴァロフ(ラヤシェンコ) 時代:1910年代のロシア</p> <p>☑ レーニンが成し遂げたロシア十月革命を描いた、エイゼンシュテインの不朽の名作。エキストラとして、実際に革命に参加した人たちも出演している。</p> <p>制作:ソ連 1928年</p>
<p>アラビアのロレンス Lawrence of Arabia 監督:デヴィッド・リーン 出演:T.E.ロレンス(ピーター・オトゥール) アリ(オマル・シャリフ) ファイサル(アレック・ギネス) 時代:第一次世界大戦期中東</p> <p>☑ いわずと知れた名作。ロレンスがマッチを吹き消した後に、砂漠に太陽が昇るシーンを見て、中東にあこがれた人も多い。テーマ曲も超有名。ただしかなり長いので注意。</p> <p>制作:イギリス 1962年</p>	<p>ロレンス 1918 A Dangerous Man: Lawrence After Arabia 監督:クリストファー・メナウル 出演:T.E.ロレンス(レイフ・ファインズ) ファイサル(アレクサンダー・シデイグ) カーゾン卿(デニス・キアリー) 時代:第一次世界大戦後のパリ講和会議</p> <p>☑ その後の「アラビアのロレンス」的な作品。1919年のパリ講和会議におけるロレンスの奮闘と挫折が描かれている。レイフ・ファインズはロレンスそっくり。ロレンスに詳しい人向け。</p> <p>制作:イギリス 1991年</p>



アラビアのロレンス (1962)

T.E.ロレンス役は、ピーター・オトゥール。憂いを含んだ青く美しい目が、とても印象的です。劇中、「なぜ砂漠に引きつけられるのか?」と聞かれ、「砂漠は清潔だから」と答えるシーンが、妙に忘れられません。

右のアラブ人の族長アリを演じたのは、『イブラヒムおじさんとコーランの花』でも知られるオマル・シャリフ。カッコいいですね。

ピーター・オトゥールは、他に『ラスト・エンペラー』、『天地創造』などに出演しています。晩年に出演した『トロイ』では、トロイ最後の王プリアモスを役を演じました。焼け落ちるトロイを茫然と眺めるシーンがありますが、これは彼ならではのシーンでしょう。

<p>マイケル・コリンズ <i>Michael Collins</i></p> <p>監督: ニール・ジョーダン 出演: マイケル・コリンズ(リーアム・ニーソン) キティ・キエルナン(ジュリア・ロバーツ) エイモン・デヴァレラ(アラン・リックマン) 時代: 1920年代の 아일랜드</p> <p>☑ アイランド独立運動を指揮し、IRAの創始者である、マイケル・コリンズの半生を描いた作品。主演のリーアム・ニーソンは、アイルランド系のアメリカ人である。</p> <p>制作: アメリカ 1996年</p>	<p>アイルランド・ライジング <i>Rebellion</i></p> <p>監督: ジョン・ストリックランド 出演: アーニー(ジェームズ・ダーシー) ケリー(フランク・ラヴァーティ) マイケル・コリンズ(ブレンダン・コイル) トム(ヴァインセント・レーガン) 時代: 1920年代の 아일랜드</p> <p>☑ イギリスに対するイースター蜂起後のアイルランドを舞台に、独立戦争に参加したアイルランド人青年を描いた作品。元はテレビドラマだったものが、総集編としてまとめられた。</p> <p>制作: イギリス 2001年</p>
<p>麦の穂をゆらす風 <i>The Wind That Shakes the Barley</i></p> <p>監督: ケン・ローチ 出演: ダミアン(キリアン・マーフィ) テディ(ポードリック・ティレーニー) ダン(リーアム・カンニガム) シネード(オーラ・フィッツジェラルド) 時代: 1920年代の 아일랜드</p> <p>☑ アイルランド独立戦争とアイルランド内戦を、二人の兄弟を通して描く。タイトルはアイルランドの伝統歌でもある。『マイケル・コリンズ』と両方観ておきたいところ。</p> <p>制作: アイルランド・イギリス 2006年</p>	<p>アドルフの画集 <i>Max</i></p> <p>監督: メノ・メイェス 出演: マックス・ロスマン(ジョン・キューザック) ヒトラー(ノア・テイラー) リセロア(リーリー・ソビエスキー) ニーナ(モリー・パーカー) 時代: 1910年代のドイツ</p> <p>☑ 第一次世界大戦後のドイツ、画家を目指していた若き日のヒトラーと、裕福なユダヤ人の画商を描いた作品。青年ヒトラーの人間的な部分に焦点を当てている。</p> <p>制作: ハンガリー・カナダ・イギリス 2002年</p>
<p>ローザ・ルクセンブルグ <i>Rosa Luxemburg</i></p> <p>監督: マルガレーテ・フォン・トロッタ 出演: ローザ・ルクセンブルグ(バーバラ・スコヴァ) カール・リープクネヒト(オットー・ザンダー) レオ・ヨギヘス(ダニエル・オルブリフスキ) 時代: 20世紀初頭のドイツとポーランド</p> <p>☑ スバルタクス団を結成したことで知られる女性革命家ローザ・ルクセンブルグの生涯を描いたドイツ映画。ふたりの非業の死まで丁寧に描かれている。革命家の生涯は壮絶である。</p> <p>制作: 西ドイツ 1985年</p>	<p>アンダーグラウンド <i>Underground</i></p> <p>監督: エミール・クストリツァ 出演: マルコ(ミキ・マノイロヴィッチ) クロ(ラザル・リストフスキー) ナタリア(ミリヤナ・ラコヴィッチ) フランツ(エルンスト・ストツナー) 時代: 20世紀のユーゴスラヴィア</p> <p>☑ ユーゴスラヴィアの歴史を、第二次世界大戦から内戦まで描いた作品。全編セルビア語で、強烈な民族音楽とハイテンションな演技が繰り広げられる。内戦中に制作された。</p> <p>制作: フランス・ドイツ・ユーゴスラヴィア・ハンガリー・ブルガリア 1995年</p>
<p>ガンジー <i>Gandhi</i></p> <p>監督: リチャード・アッテンボロ 出演: ガンジー(ベン・キングズレー) ネルー(ロシャン・セス) ジンナー(アリク・パダムゼ) ダイアー(エドワード・フォックス) 時代: 20世紀のインド</p> <p>☑ インド独立運動の指導者であり、「偉大な魂」ことマハトマ・ガンジーの生涯を描いた作品。それにしても主演のベン・キングズレーはガンジーそっくり。「おお、神よ…」</p> <p>制作: イギリス・インド 1982年</p>	<p>英国王のスピーチ <i>The King's Speech</i></p> <p>監督: トム・フーパー 出演: ジョージ6世(コリン・ファース) ローグ(ジェフリー・ラッシュ) エリザベス(ヘレナ・ボナム・カーター) ジョージ5世(マイケル・ガンボン) 時代: 1930年代のイギリス</p> <p>☑ 吃音に苦しむジョージ6世が、後に親友となったローグや家族の支えによって国民に愛される国王になるまでを、実話をもとにして描いた作品。イギリスを代表する名優が多数出演。</p> <p>制作: イギリス・オーストラリア 2010年</p>

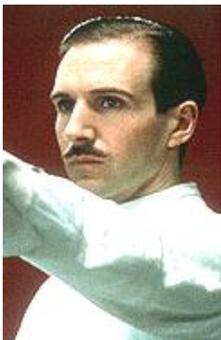


ガンジー (1982)
主演のベン・キングズレーが、とにかくガンディーそっくり。それに続きます。南アフリカの列車での経験、アムリットサル事件、塩の行進、英印円卓会議など、授業で使えるシーンも豊富ですね。なおベン・キングズレーは、『シンドラーのリスト』でも重要な役どころで出演しています。



英国王のスピーチ (2010)
ジョージ6世は現国王エリザベス2世の父で、映画では子供時代のエリザベスも登場します。兄エドワード8世が道ならぬ恋によって退位したのは有名な話なんですよ。どちらかという美談の部類だと思いましたが、弟の視点から見ると勝手極まりなく感じますね。全体的にはとてもあたたかく感動的な映画です。

<p>死刑台のメロディ <i>Sacco and Vanzetti</i> 監督: ジュリアーノ・モンタルド 出演: サッコ(リカルド・クッチョーラ) ヴァンゼッティ(ジャン・マリア・ヴォロント) カッツマン検事(シリク・クサク) ムーア弁護士(ミロ・オシー) 時代: 1920年代のアメリカ</p> <p>☑ 原題からわかるとおり、最大の冤罪事件として有名なサッコ=ヴァンゼッティ事件を描いた作品。ふたりが逮捕され、強盗殺人犯にされたあげられていく様子がよくわかる。</p> <p>制作: イタリア 1970年</p>	<p>アンタッチャブル <i>The Untouchables</i> 監督: ブライン・デ・パルマ 出演: エリオット・ネス(ケビン・コスナー) ジム・マローン(ショーン・コネリー) アル・カボネ(ロバート・デ・ニーロ) 時代: 1930年代のアメリカ</p> <p>☑ 禁酒法時代のシカゴでは、マフィアが暗黒街をしきっていた。なかでも史上最も有名なマフィア、アル・カボネと、彼を追う捜査官エリオット・ネスを描いた作品。名優が揃い踏み。</p> <p>制作: アメリカ 1987年</p>
<p>アビエーター <i>The Aviator</i> 監督: マーティン・スコセッシ 出演: ハワード・ヒューズ(レオナルド・ディカプリオ) キャサリン(ケイト・ブランシェット) エヴァ(ケイト・ベッキンセイル) 時代: 20世紀前半のアメリカ</p> <p>☑ アメリカの大富豪ハワード・ヒューズの半生を描いた作品。ハワード・ヒューズは、カーネギーとよく比較される大富豪だが、結末は対称的。ディカプリオの演技が評価された。</p> <p>制作: アメリカ 2004年</p>	<p>エビータ <i>Evita</i> 監督: アラン・パーカー 出演: エバ・ペロン(マドンナ) チェ(アントニオ・バンデラス) ファン・ペロン(ジョナサン・プライス) ブランカ(オルガ・メルティス) 時代: 20世紀前半のアルゼンチン</p> <p>☑ アルゼンチンの女優で、ペロン大統領の妻エバ(愛称エビータ)の生涯を描いた作品。マドンナが主役を演じた。歴史映画というよりは、ミュージカル映画かもしれない。</p> <p>制作: アメリカ 1996年</p>
<p>太陽の雫 <i>Sun Shine</i> 監督: イシュトヴァーン・サボー 出演: イグナツ、アダム、イヴァン3役(レイフ・ファインズ) ヴアレリー(ローズマリー・ハリス) グレタ(レイチェル・ワイズ) 時代: 19世紀~20世紀のハンガリー</p> <p>☑ ハンガリーに住むユダヤ系家族の3世代を、レイフ・ファインズが一人3役で熱演した。第一次、第二次世界大戦、ハンガリー動乱などが背景にあり、東欧史を学ぶのにもよい。</p> <p>制作: カナダ・ハンガリー 1999年</p>	<p>ディバイナー 戦禍に光を求めて <i>The Water Diviner</i> 監督: ラッセル・クロウ 出演: ジョシュア(ラッセル・クロウ) アイシエ(オルガ・キュリレンコ) オルハン(ディラン・ジョージア) ハサン少佐(ユルマズ・エルドアン) 時代: 1920年代のトルコ</p> <p>☑ 第一次世界大戦の激戦であるガリポリ上陸作戦で息子を失ったオーストラリア人の父親が、遺体を探しにトルコを訪れる。ANZACという言葉を知っていますか?</p> <p>制作: オーストラリア・アメリカ 2014年</p>
<p>J・エドガー <i>J. Edgar</i> 監督: クリント・イーストウッド 出演: エドガー・フーヴァー(レオナルド・ディカプリオ) アニー(ジュディ・デンチ) トルソン(アーミー・ハマー) ヘレン(ナオミ・ワッツ) 時代: 20世紀のアメリカ</p> <p>☑ FBIの初代長官で、50年もの間その地位にあり続け、歴代の大統領が最も恐れた男と言われるエドガー・フーヴァーの生涯を描いた作品。丁寧に史実を追った重厚な歴史映画。</p> <p>制作: アメリカ 2011年</p>	<p>ブリティ・リーグ <i>A League of Their Owns</i> 監督: ベニー・マーシャル 出演: ジミー・ドゥーガン(トム・ハンクス) ドティ(ジーナ・デイヴィス) ロリー(キット・ケラー) メイ(マドンナ) 時代: 第二次世界大戦期のアメリカ</p> <p>☑ 第二次世界大戦で、メジャーリーグが多く出征し、代わりに女子だけのプロ野球リーグが創設されたという実話を映画化。時代の雰囲気がよくわかる。ストーリーも素晴らしい。</p> <p>制作: アメリカ 1992年</p>



太陽の雫 (1999)
映画もまあまあおもしろいのですが、それはともかく私は主演のレイフ・ファインズが好きなんです。『シンドラーのリスト』でナチスの将校を演じていて、その深みのある悪役っぷりにはまりました。最近『ハリー・ポッター』でヴォルデモートを演じたことで、日本での人気も爆発！はしてませんね(笑)
なお『恋に落ちたシェイクスピア』のジョゼフ・ファインズは、実の弟にあたります。



ブリティ・リーグ (1992)
リストに入れるか迷いましたが、これも戦争を背景にしているわけで、立派な歴史映画だと思います。戦場に行く兵士だけが戦争をするわけではありません。単純に映画として素晴らしい作品です。エピソードの再会シーンは涙が出ました。
ずいぶん後になって原題が「A league of their owns」であることを知り、なるほどなあと思いました。

<p>誰が為に鐘は鳴る <i>For Whom the Bell Tolls</i></p> <p>監督:サム・ウッド 出演:ロバート・ジョーダン(ゲーリー・クーパー) マリア(イングリッド・バーグマン) アンセルモ(ウラジミール・ソコロフ)</p> <p>時代:1930年代のスペイン</p> <p>☑ スペイン内戦を描いたヘミングウェイの小説の映画化。作者自身も、義勇軍として内戦に参加したことは有名である。ラブロマンスの主演俳優と女優は、知る人ぞ知る名俳優。</p> <p>制作:アメリカ 1943年</p>	<p>大地と自由 <i>Land and Freedom</i></p> <p>監督:ケン・ローチ 出演:デヴィッド(イアン・ハート) ブランカ(ロサナ・パストール) マイテイ(シアル・ポラン) ロレンス(ロム・ギルロイ)</p> <p>時代:1930年代のスペイン</p> <p>☑ スペイン内戦において、人民戦線側で戦うために義勇軍としてスペインに渡ったイギリス人青年が主人公。オーウェルの『カタロニア讃歌』を思わせる設定である。</p> <p>制作:イギリス・スペイン・ドイツ 1995年</p>
<p>アンネ・フランク 真実の物語 <i>Anne Frank:The Whole Story</i></p> <p>監督:ロバート・ドーンヘルム 出演:アンネ(ハナ・テイラー・ゴードン) オットー(ベン・キングズレー) マルゴ(ジェシカ・マンレイ) アウグステ(ブレンダ・ブレシン)</p> <p>時代:第二次世界大戦期のオランダ</p> <p>☑ 『アンネの日記』で有名な、アンネ・フランクを描いた作品。どこにでもいる普通の女の子の人生が、戦争と人種差別政策によって破壊される。観ていてちょっとつらくなる…。</p> <p>制作:アメリカ 2001年</p>	<p>アンネの日記 <i>The Diary of Anne Frank</i></p> <p>監督:ジョージ・スティーヴンス 出演:アンネ・フランク(ミリー・パーキンス) オットー・フランク(ジョゼフ・シルドクラウト) シェリー・ウィンタース(ファンダーン夫人)</p> <p>時代:第二次世界大戦期のオランダ</p> <p>☑ アンネ・フランクの屋根裏での生活を描いた作品。アンネというひとりの少女の青春物語という感じで、あまり悲壮感なく物語が進んでいくことには若干の違和感がある。</p> <p>制作:アメリカ 1959年</p>
<p>戦場のピアニスト <i>The Pianist</i></p> <p>監督:ロマン・ポランスキー 出演:ウワディスワフ・シュピルマン(エイドリアン・プロディ) ヴィルム・ホーゼンフェルト大尉(トーマス・クレッチマン)</p> <p>時代:第二次世界大戦期のポーランド</p> <p>☑ 実在のユダヤ系ポーランド人ピアニスト、ウワディスワフ・シュピルマンの生涯を描いた作品。役作りのため14キロ減量したエイドリアン・プロディは、本作でアカデミー賞を受賞。</p> <p>制作:ポーランド・フランス・ドイツ・イギリス 2002年</p>	<p>ヒトラーの贋札 <i>Die Fälscher</i></p> <p>監督:シュテファン・ルツォヴィツキ 出演:サロモン・ソロヴィッチ(カール・マルコヴィクス) アドルフ・ブルガー(アウグスト・ティール) ヘルツォーク(デーフィット・シュートリゾフ)</p> <p>時代:第二次世界大戦期のドイツ</p> <p>☑ 史上最大の贋札事件であるベルンハルト作戦を描いた作品。強制収容所で贋札作りをするユダヤ人を中心に描く。お涙ちょうだいのユダヤ人ものとは一味違う作品となっている。</p> <p>制作:ドイツ・オーストリア 2006年</p>
<p>ライフ・イズ・ビューティフル <i>La Vita è bella</i></p> <p>監督:ロベルト・ベニーニ 出演:ガイド(ロベルト・ベニーニ) ドーラ(ニコレッタ・プラスキ) ジョズエ(ジョルジオ・カンタリーニ)</p> <p>時代:第二次世界大戦期のイタリア</p> <p>☑ ユダヤ系イタリア人の一家が、ナチスによって強制収容所に送られていくストーリーを、コメディと悲劇を巧みに混ぜ合わせて描いている。笑えるけど、とても悲しい…。</p> <p>制作:イタリア 1997年</p>	<p>シンドラーのリスト <i>Schindler's List</i></p> <p>監督:スティーブン・スピルバーグ 出演:シンドラー(リアム・ニーソン) シュターン(ベン・キングズレー) アーモン・ゲート(レイフ・ファインズ)</p> <p>時代:第二次世界大戦期のドイツ・ポーランド</p> <p>☑ ドイツ人でありながら、ユダヤ人をナチスによるホロコーストから救った、シンドラーを描いた作品。本物と見まちがえてしまうほどのリアルな映像。ラストは泣ける(涙)</p> <p>制作:アメリカ 1993年</p>



戦場のピアニスト(2002)

主演のエイドリアン・プロディも、役柄と同じくユダヤ系ポーランド人。本作でのアカデミー賞受賞は、史上最年少だそうです。

他に『シン・レッド・ライン』や、『マリー・アントワネットの首飾り』に出演しています。

キザな役や知的障害者の役など、かなり幅広い役を演じている印象があります。



ライフ・イズ・ビューティフル(1997)

主演・監督はイタリア人のロベルト・ベニーニ。彼の父親は、実際に強制収容所に送られているそうです。奥さん役を演じたニコレッタ・プラスキとは、実際にも夫婦。

とにかく子供のジョズエがいい。親子の明るさが、悲しさを引き立てていますね。「実際の収容所はこんなじゃない！」という批判もありますが、それを言っても始まらないでしょう。いい映画です。

<p>灰の記憶 <i>The Grey Zone</i> 監督:ティム・ブレイク・ネルソン 出演:ホフマン(デヴィッド・アークエット) ムスフェルド SS 軍曹(ハーヴェイ・カイテル) ダイナ(ミラ・ソルヴィノ) ローザ(ナターシャ・リオン) 時代:第二次世界大戦期のポーランド</p> <p>☑ アウシュヴィッツで、同じユダヤ人をガス室に送り死体を処理する役目を負わされたユダヤ人がいた。実在する医師の手記をもとにしており、感動作というより心が暗くなる作品。</p> <p>制作:アメリカ 2002 年</p>	<p>サウルの息子 <i>Saul fia</i> 監督:ネメシュ・ラースロー 出演:サウル(ルーリグ・ゲーザ) アブラハム(モルナル・レヴェンテ) ビーダーマン(ユルス・レチン) ニスリ医師(ジョテール・シャンドル) 時代:第二次世界大戦期のポーランド</p> <p>☑ 『灰の記憶』と同じくゾンダーコマンドを描いた作品。カメラワークと映像が独特で、ぼやけ視界の中で悲劇的な出来事が淡々と進んでいく。最後の微笑みの意味は何か。</p> <p>制作:ハンガリー 2015 年</p>
<p>ムッソリーニとお茶を <i>Tea with Mussolini</i> 監督:フランコ・ゼフィレツィ 出演:エルサ(シェール) アラベラ(ジュディ・デンチ) ヘスター婦人(マギー・スミス) ムッソリーニ(クラウディオ・スパダロ) 時代:第二次世界大戦期のイタリア</p> <p>☑ ムッソリーニの独裁が続くイタリア。様々な立場にある婦人たちの目を通して、戦争に翻弄される人たちの姿を描く。監督は『ロミオとジュリエット』のフランコ・ゼフィレツィ。</p> <p>制作:アメリカ 1998 年</p>	<p>マザー・テレサ <i>Madre Teresa</i> 監督:ファブリツィオ・コスタ 出演:マザー・テレサ(オリヴィア・ハッセー) セラーノ神父(セバステアノ・ソマ) マザー・ドゥ・スナークル(ラウラ・モランテ) 時代:20 世紀のインド</p> <p>☑ インドで、貧しい人々のために一生を捧げた修道女、マザー・テレサの活動を描いた作品。『ロミオとジュリエット』のオリヴィア・ハッセーが、マザー・テレサ役を熱演した。</p> <p>制作:イタリア・イギリス 2003 年</p>
<p>白バラの祈り <i>Sophie Scholl - Die Letzten Tage</i> 監督:マルク・ローテムント 出演:ゾフィー・ショル(ユリア・イェンチ) ハンス・ショル(ファビアン・ヒンリス) アレクサンダー・ヘルト(ロバート・モア) 時代:第二次世界大戦期のドイツ</p> <p>☑ ナチスに対する反対運動を行った女子大生ゾフィーを描いた作品。実話に基づいている。取調室での尋問官とゾフィーの会話は、過去と現在との「価値観」による対話のようで秀逸。</p> <p>制作:ドイツ 2005 年</p>	<p>サウンド・オブ・ミュージック <i>The Sound of Music</i> 監督:ロバート・ワイズ 出演:マリア(ジュリー・アンドリュース) トラップ(クリストファー・プラマー) 修道院長(ペギー・ウッド) エルザ婦人(エレノア・パーカー) 時代:1930 年代のオーストリア</p> <p>☑ ミュージカル映画の最高傑作。「ドレミの歌」、「私のお気に入り」などの歌でも知られる。話の背景には、ナチス・ドイツによるオーストリア併合があることに注目しよう。</p> <p>制作:アメリカ 1965 年</p>
<p>カサブランカ <i>Casablanca</i> 監督:マイケル・カーティス 出演:リック(ハンフリー・ボガード) イルザ(イングリッド・バーグマン) ポール(ヴィクター・ラズロ) ルノー署長(クロード・レインス) 時代:第二次世界大戦期のモロッコ</p> <p>☑ 第二次世界大戦中、ナチスドイツに占領されたフランス領のモロッコが舞台。酒場のシーンで歌われる「ラ・マルセイエーズ」が超有名。「ヴィヴァ・ラ・フランス！」</p> <p>制作:アメリカ 1942 年</p>	<p>暗殺者のメロディ <i>The Assassination of Trotsky</i> 監督:ジョセフ・ロージー 出演:ジャクソン(アラン・ドロン) トロツキー(リチャード・バートン) ギタ(ロミー・シュナイダー) ナターシャ(ヴァレンティナ・コルテゼ) 時代:1940 年代のメキシコ</p> <p>☑ ロシア革命の指導者で、後にスターリンとの権力闘争に敗れてメキシコに亡命していたトロツキーは、1940 年に暗殺された。その暗殺事件をサスペンス風に描いた作品である。</p> <p>制作:イギリス・アメリカ・フランス 1972 年</p>



白バラの祈り (2005)

今はナチス＝悪ですから、ヒトラーを信じたドイツ人は愚かな人たちのように感じられます。でも当時のドイツが置かれた状況や、ヒトラーの巧みな演説と宣伝を勉強すると、自分が当時のドイツに生きていたら、ナチスに反対するどころかむしろ支持してしまっていたんじゃないだろうかという危惧を覚えます。

授業でナチスを扱う時は、「ナチスは悪い！」という単純な授業にならないよう、いつも注意しています。

サウンド・オブ・ミュージック (1965)

誰もが知ってる有名な映画で、音楽の時間に観たという人も多いかもしれません。私は、トラップ大佐が「エーデルワイス」を歌うシーンが好きで、ここは説明にも熱が入るところです。トラップ大佐は「bless my homeland forever…」と歌ったあと、胸がいっぱいになって歌えなくなりますよね。歌詞と当時の時代背景を考えると、非常に感動的なシーンだと思います。

<p>ハノーバー・ストリート <i>Hanover Street</i> 監督:ピーター・ハイアムズ 出演:ハロラン中尉(ハリソン・フォード) マーガレット(レスリー・アン・ダウ) ポール(クリストファー・パラマー) 時代:1940年代のイギリス</p> <p>☑ 第二次世界大戦期のロンドンを舞台にしたラブロマンス。戦時下のロンドンの雰囲気がとても良く、ストーリーにも引き込まれる。あまり有名な作品ではないが、名作である。</p> <p>制作:アメリカ 1979年</p>	<p>ドレスデン、運命の日 <i>Dresden</i> 監督:ローランド・ズゾ・ヒター 出演:アンナ(フェリシタス・ヴォール) ロバート(ジョン・ライト) アレクサンダー(ベンヤミン・サドラ) カール(ハイナー・ラウターバハ) 時代:第二次世界大戦期のドイツ</p> <p>☑ ドイツで最も美しい町のひとつだったドレスデンは、第二次世界大戦時の空襲で徹底的に破壊された。ドイツ人の女性と、イギリス軍兵士の恋を中心に、戦争の悲劇を描く。</p> <p>制作:ドイツ 2006年</p>
<p>ディファイアンス <i>Defiance</i> 監督:エドワード・ズウィック 出演:トゥヴィア(ダニエル・クレイグ) ズシュ(リーヴ・シュレイパー) アザエル(ジェイミー・ベル) リルカ(アレクサ・ダヴァロス) 時代:第二次世界大戦期のベラルーシ</p> <p>☑ ナチス・ドイツ占領下のベラルーシで、森に逃れてドイツへの抵抗を続けるユダヤ人兄弟の実話を元にした作品。本国では評価の分かれる人物らしいが、映画としては迫力があった。</p> <p>制作:アメリカ 2008年</p>	<p>誰がため <i>Flammen & Citronen</i> 監督:オーレ・クリスチャン・マセン 出演:フラメン(トゥーレ・リントハート) シトロン(マッツ・ミケルセン) ホフマン(クリスチャン・ベルケル) ギルバート(ハンス・ツィッシュラー) 時代:第二次世界大戦期のデンマーク</p> <p>☑ ナチス・ドイツ占領下のデンマークで、レジスタンスとして抵抗運動をする青年たちを描いた作品。こちらも実話をもとにしている。デンマーク映画史上、最大の制作費がかけられた。</p> <p>制作:デンマーク 2008年</p>
<p>パール・ハーバー <i>Pearl Harbor</i> 監督:マイケル・ベイ 出演:ライフ(ベン・アフレック) ダニー(ジョシュ・ハーネット) エヴリン(ケイト・ベッキンセイル) 時代:第二次世界大戦の真珠湾攻撃</p> <p>☑ 日本の真珠湾攻撃を、アメリカ側から描いた作品。日本の描き方はめっちゃくちゃだし、恋愛の話も蛇足。典型的なダメ映画。ただ日本の攻撃シーンは、なかなか迫力がある。</p> <p>制作:アメリカ 2001年</p>	<p>トラ・トラ・トラ! <i>Tora!Tora!Tora!</i> 監督:リチャード・フライシャー、舛田年雄、深作欣二 出演:キンメル大将(マーティン・バルサム) ショート中将(ジェイソン・ロバース) 山本五十六(山村聡) 南雲忠一(東野英治郎) 時代:第二次世界大戦の真珠湾攻撃</p> <p>☑ 日本真珠湾攻撃を、日米双方の視点で描いた作品。アメリカ制作ながら日本側の視点も豊富で、内容もかなり史実に忠実。「パール・ハーバー」観るならこっちを観よう!</p> <p>制作:アメリカ 1970年</p>
<p>父親たちの星条旗 <i>Flags of Our Fathers</i> 監督:クリント・イーストウッド 出演:ジョン・ブラッドリー(ライアン・フィリップ) アイラ・ヘイズ(アダム・ビーチ) レイニー・ギャグノン(ジェシー・ブラッドフォード) 時代:第二次世界大戦の硫黄島の戦い</p> <p>☑ 硫黄島の戦いをアメリカ側から描いた。戦闘シーンはあまりなく、軍によって、「英雄」にされてしまった兵士の苦悩が描かれている。戦争って何だろう?と考えさせられる作品。</p> <p>制作:アメリカ 2006年</p>	<p>硫黄島からの手紙 <i>Letters from Iwo-Jima</i> 監督:クリント・イーストウッド 出演:栗林中将(渡辺謙) 西郷一等兵(二宮和也) 伊藤中尉(中村獅童) 花子(裕木奈江) パロン西(伊原剛志) 時代:第二次世界大戦の硫黄島の戦い</p> <p>☑ 硫黄島の戦いを日本側から描いた作品。俳優もほとんどが日本人。こちらは戦闘シーンも多い。嵐の二宮の演技には賛否両論あるが、個人的には結構好き。伊原剛志もかっこいい。</p> <p>制作:アメリカ 2006年</p>

父親たちの星条旗 (2006)

日本では『硫黄島からの手紙』ばかりが話題になりましたが、映画としてはこちらの方がおもしろかったです。

戦争が悲惨であることは、疑いがありません。しかしそれでも戦争はなくなりません。戦争って何なのでしょう? 戦場ではない戦争を描いた良作のひとつだと思います。



硫黄島からの手紙 (2006)

嵐というグループは知っていましたが、二宮和也という人は映画を観るまで知りませんでした(という生徒に驚かれます)。いい俳優ですね。「現代の若者のようだ」という批判がありましたが、若者はいつの時代でもこんなもんだらうと、私は思います。普通の若者が、普通に殺し殺されるのが、戦争というものなのでしょう。

主演で栗林中将を演じた渡辺謙はもちろん、西中佐の伊原剛志もかっよかったですね。

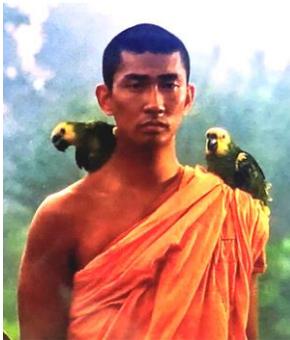
<p>シン・レッド・ライン <i>The Thin Red Line</i></p> <p>監督: テレンス・マリック 出演: ウェルシュ(ジョン・ペン) ウィット(ジム・カヴィーゼル) ファイフ(エイドリアン・プロディ) クィンタード(ジョン・トラヴオルタ)</p> <p>時代: 第二次世界大戦のガダルカナル島の戦い</p> <p>☑ 太平洋戦争の激戦地、ガダルカナル島の戦いを描いた作品。ただ戦争映画というよりは、精神世界を描いた作品といえるかも。それにしても俳優陣が豪華。主役級がズラリ。</p> <p>制作: アメリカ 1998年</p>	<p>戦場にかける橋 <i>The Bridge on the River Kwai</i></p> <p>監督: デヴィッド・リーン 出演: シアーズ中佐(ウィリアム・ホールデン) ニコルソン大佐(アレック・ギネス) 斉藤大佐(早川雪洲)</p> <p>時代: 第二次世界大戦期のクワイ河</p> <p>☑ 第二次世界大戦のさなか、日本軍に捕虜にされたイギリス軍兵士が、タイにあるクワイ河に鉄道橋をかける。両軍兵士の交流や、戦争の悲劇が描かれる。「クワイ河マーチ」は超有名。</p> <p>制作: イギリス・アメリカ 1957年</p>
<p>ビルマの豎琴 <i>ビルマの豎琴</i></p> <p>監督: 市川崑 出演: 隊長(石坂浩二) 水島上等兵(中井貴一) 伊東軍曹(川谷拓三) 小林上等兵(渡辺篤史) 岡田上等兵(小林稔侍)</p> <p>時代: 第二次世界大戦のビルマ戦線</p> <p>☑ ビルマで敗戦を迎えた日本軍の兵士たちのその後を、数々の美しい合唱曲とともに描いた反戦映画の傑作。泣きました(涙)。「オーイミズシマ! イッシュニニッポンニカエロウ!」</p> <p>制作: 日本 1985年</p>	<p>太平洋の奇跡 フォックスと呼ばれた男 <i>太平洋の奇跡 フォックスと呼ばれた男</i></p> <p>監督: 平山秀幸 出演: 大場大尉(竹野内豊) 堀内一等兵(唐沢寿明) 青野(井上真央) 木谷曹長(山田孝之) 元木(阿部サダヲ)</p> <p>時代: 第二次世界大戦のサイパン島</p> <p>☑ 太平洋戦争のサイパン島の戦いと、玉砕後も抵抗を続けた大場大尉の実話をもとにした作品。戦闘シーンはけっこうリアル。主役がいまひとつインパクトに欠けるか。</p> <p>制作: 日本 2011年</p>
<p>ダンケルク <i>Dunkirk</i></p> <p>監督: クリストファー・ノーラン 出演: トミー(ファン・ホワイットヘッド) ピーター(トム・グリーン・カーニー) コリンズ(ジャック・ロウデン) アレックス(ハリー・スタイルズ)</p> <p>時代: 第二次世界大戦のヨーロッパ戦線</p> <p>☑ 多くのヒット作を生み出したクリストファー・ノーラン監督による戦争映画。第二次世界大戦初期に起こったダンケルクからの奇跡の撤退を描いた。時系列の理解が少し難しい。</p> <p>制作: イギリス・アメリカ・フランス・オランダ 2017年</p>	<p>フューリー <i>Fury</i></p> <p>監督: デヴィッド・エア 出演: ウォーダディー(ブラッド・ピット) バイブル(シャイア・ラブーフ) マシン(ローガン・ラーマン) ゴルド(マイケル・ペーニャ)</p> <p>時代: 第二次世界大戦のヨーロッパ戦線</p> <p>☑ ノルマンディーに上陸後、北フランスでドイツ軍と戦うアメリカの戦車部隊を描いた作品。それにしてもドイツのティーガー戦車は強烈である。しかも本物を使って撮影した。</p> <p>制作: アメリカ・イギリス 2014年</p>
<p>カティンの森 <i>Katyn</i></p> <p>監督: アンジェイ・ワイダ 出演: アンナ(マヤ・オスタシェフスカ) アンジェイ(アルトゥル・ジミエフスキ) ヤン教授(ヴワディスワフ・コヴァルスキ)</p> <p>時代: 第二次世界大戦期のポーランド</p> <p>☑ 第二次世界大戦中に、ソ連がポーランド軍の将校を虐殺したカティンの森事件を描いた作品。この事件はソ連の崩壊まで長年謎とされていた事件である。非常に重いテーマだが傑作。</p> <p>制作: ポーランド 2007年</p>	<p>デイズ・オブ・グローリー <i>Indigènes</i></p> <p>監督: ラシッド・ブシャール 出演: サイド(ジャメル・ドゥブーズ) ヤシール(サミー・ナセリ) マスード(ロシュディー・ゼム) マルティネス軍曹(ベルナル・ブランカン)</p> <p>時代: 第二次世界大戦の北アフリカ戦線</p> <p>☑ フランスの植民地であるアルジェリアやモロッコの人々が、兵士として祖国でもないフランスのために血を流しながらも、人種差別を受けるというストーリー。</p> <p>制作: アルジェリア・フランス・モロッコ・ベルギー 2006年</p>



カティンの森 (2007)

全員には勧めない映画です。もちろん授業でも使いません。ソ連によるポーランド将校の虐殺を描いたこの作品は、ポーランド人にとっては永遠に忘れることのできない一作でしょう。

最後の淡々と無感動に流れ作業のように進む処刑シーンと無音のエンドクレジットが圧倒的です。監督のアンジェイ・ワイダは、実の父をこの事件で殺されているそうです。



ビルマの豎琴 (1985)

1956年に最初に映画化されたものを、同じ市川崑がリメイクした作品。ちなみに印象的な物売りのお婆さんは両方で同じ役をやっています。

私は「殖生の宿」が流れてくると、一瞬で左の画像が頭に浮かぶようになってしまいました。

オウムのもまねは大学の同級生には受けませんが、授業でやることはないでしょう。

<p>ハクソー・リッジ <i>Hacksaw Ridge</i></p> <p>監督: ムル・ギブソン 出演: デズモンド・ドス(アンドリュウ・ガーフィールド) ハウエル軍曹(ヴィンス・ヴォーン) グローヴァー大尉(サム・ワーシントン) 時代: 第二次世界大戦の沖縄戦</p> <p>☑ 信仰のため武器を持たずに衛生兵として戦場に出た兵士を描いた作品。実話をもとにしている。後半の戦闘シーンはリアルかつ残酷であり、沖縄戦の壮絶さがよく伝わる。</p> <p>制作: アメリカ・オーストラリア 2016年</p>	<p>遠すぎた橋 <i>A Bridge Too Far</i></p> <p>監督: リチャード・アッテンボロー 出演: ブラウニング中将(ダーク・ボガード) クック少佐(ロバート・レッドフォード) アーカート少将(ショーン・コネリー) 時代: 第二次世界大戦のヨーロッパ戦線</p> <p>☑ 名高いマーケット・ガーデン作戦を、オールスターキャストで描いた戦争映画の傑作。他にジーン・ハックマン、ヴォルフガング・プライス、エリオット・グールドなどが出演。</p> <p>制作: イギリス・フランス 1977年</p>
<p>イミテーション・ゲーム/エニグマと天才数学者の秘密 <i>The Imitation Game</i></p> <p>監督: モルテン・ティルドゥム 出演: チューリング(ベネディクト・カンバーバッチ) ジョーン(キーラ・ナイトレイ) ヒュー(マシュー・グッド) ミンギス(マーク・ストロング) 時代: 第二次世界大戦期のイギリス</p> <p>☑ 第二次世界大戦中、ナチスの暗号機エニグマの解読に成功した若き天才数学者を描いた作品。実話をもとに映画化。内容的に万人受けするとは思えないが素晴らしい作品と思う。</p> <p>制作: アメリカ 2014年</p>	<p>杉原千畝 スギハラチウネ <i>杉原千畝 スギハラチウネ</i></p> <p>監督: チェリン・グラック 出演: 杉原千畝(唐沢寿明) 杉原幸子(小雪) ベシュ(ボリス・スジック) イリーナ(アグニシュカ・グロコウスカ) 南川欽吾(塚本高史) 時代: 第二次世界大戦期のリトアニア</p> <p>☑ 外交官として政府の意向に反してユダヤ人を救い「東洋のシンドラー」と呼ばれる杉原千畝を描いた作品。史実と題材は素晴らしいが、映画としては個人的に今ひとつかな。</p> <p>制作: 日本 2015年</p>
<p>コレリ大尉のマンダリン <i>Captain Corelli's Mandolin</i></p> <p>監督: ジョン・マッデン 出演: コレリ大尉(ニコラス・ケイジ) ペラギア(ベネロペ・クルス) インニス(ジョン・ハート) マンドラス(クリスチャン・ペール) 時代: 第二次世界大戦期のギリシア</p> <p>☑ 第二次世界大戦中にギリシアを占領したイタリア軍の大尉と、ギリシア女性とのラブストーリー。ストーリーはお約束的などころがあるが、エーゲ海の映像はとても美しい。</p> <p>制作: アメリカ 2001年</p>	<p>最前線物語 <i>The Big Red One</i></p> <p>監督: サミュエル・フラー 出演: 軍曹(リー・マービン) グリフ(マーク・ハミル) ザブ(ロバート・キャラダイン) ジョンソン(ケリー・ワード) 時代: 第二次世界大戦のヨーロッパ戦線</p> <p>☑ ヨーロッパ戦線を戦うアメリカ軍の一部隊を描いた作品。日常と非日常が入り混じった戦場を、兵士たちが生き抜いていく。なかなか日本ではこういう映画は作れないだろうな。</p> <p>制作: アメリカ 1980年</p>
<p>史上最大の作戦 <i>The Longest Day</i></p> <p>監督: ケン・アナキン、アンドリュウ・マルトン、ベルンハルト・ヴィッキ 出演: バンダーブート(ジョン・ウェイン) ルーズベルト(ヘンリー・フォンダ) コータ(ロバート・ミッチャム) フラナガン(ショーン・コネリー) 時代: 第二次世界大戦のノルマンディー上陸作戦</p> <p>☑ ノルマンディー上陸作戦を描いた、戦争映画の金字塔。アメリカ、イギリス、ドイツの立場を、それぞれの言語で別々の監督で撮影した。俳優陣はもちろんオールスターキャスト。</p> <p>制作: アメリカ 1962年</p>	<p>プライベート・ライアン <i>Saving Private Ryan</i></p> <p>監督: スティーブン・スピルバーグ 出演: ミラー(トム・ハンクス) ホーヴァス(トム・サイズモア) ライアン(マット・デイモン) ジャクソン(パリー・ペッパー) 時代: 第二次世界大戦のノルマンディー上陸作戦</p> <p>☑ 連合軍によるノルマンディー上陸作戦とその後の任務を描いた作品。戦闘シーンのあまりのリアルさが評判となった。血の苦手な人は選ばないように。でも一見の価値アリ。</p> <p>制作: アメリカ 1998年</p>



プライベート・ライアン (1998)

冒頭のオマハビーチは、呼吸を忘れるほどの衝撃でした。授業では、残酷なシーンが多くなることを先に伝えたくて観せていたのですが、最近は紹介にとどめています

近現代史では戦争がたくさん出てきますが、戦争をリアルに感じさせることはなかなか難しいですね。この映画は、戦争の恐怖を強烈に感じさせる映画です。「ママ…ママ…」と言いながら死ぬ兵士や、ちぎれた自分の腕を拾う兵士など、とにかくインパクトは抜群です。



<p>Uボート <i>Das Boot</i></p> <p>監督: ウォルフガング・ペーターゼン 出演: 艦長(ユルゲン・プロホフ) ヨハン(アーウィン・レダー) 機関長(クラウス・ヴェンネマン) 一等航海士(バルント・ダウバー) 時代: 第二次世界大戦期のドイツ</p> <p>☑ 第二次大戦中、ドイツ軍のUボート(潜水艦)の艦内を舞台にした戦争映画の傑作。爆雷を避けるために、深く潜行していく場面の緊張感が凄い。最後のシーンは衝撃を受けた。</p> <p>制作: 西ドイツ 1981年</p>	<p>メンフィス・ベル <i>Memphis Belle</i></p> <p>監督: マイケル・ケイトン・ジョンズ 出演: デニス(マシュー・モディン) ダニー(エリック・ストルツ) ルーク(テイ・ドノバン) フィル(D・B・スウィーニー) 時代: 第二次世界大戦のヨーロッパ戦線</p> <p>☑ アメリカ軍の爆撃機の搭乗員を描いた作品。戦争映画でもあるし青春映画でもある。狭いところで、しかもいつ死ぬかわからない状況に置かれるという緊張感はずさまじい。良作。</p> <p>制作: アメリカ 1990年</p>
<p>ワルキューレ <i>Valkyrie</i></p> <p>監督: ブライアン・シンガー 出演: シュタウフェンベルク(トム・クルーズ) トレスコウ(ケネス・ブラナー) レーマー(トマス・クレッチマン) ヒトラー(デヴィッド・パンバー) 時代: 第二次世界大戦期のドイツ</p> <p>☑ 実際にあったヒトラー暗殺未遂事件を描いた作品。実在の人物とよく似た俳優を起用しており、なかなか迫力がある。ナチスについての基本的な知識があればより良い。</p> <p>制作: アメリカ 2008年</p>	<p>ジョジョ・ラビット <i>Jojo Rabbit</i></p> <p>監督: タイカ・ワイティティ 出演: ジョジョ(ローマン・グリフィン・デヴィス) ロージー(スカーレット・ヨハンソン) エルサ(トーマシン・マッケンジー) 時代: 第二次世界大戦期のドイツ</p> <p>☑ 孤独なドイツ人少年ジョジョは、「想像上の」ヒトラーだけが友達。母親が強くもあり優しくもありで素敵。しかしナチスをコメディ映画にできる時代になりましたか。</p> <p>制作: アメリカ 2019年</p>
<p>わが教え子、ヒトラー <i>Mein Fuhrer</i></p> <p>監督: ダニー・レヴィ 出演: グリュンバウム教授(ウルリヒ・ミュエ) ヒトラー(ヘルゲ・シュナイダー) ゲッベルス(シルベスター・グロート) 時代: 第二次世界大戦期のドイツ</p> <p>☑ 第二次世界大戦末期に敗戦直前で自信を喪失したヒトラーと、彼にカリスマ性を取り戻すために呼ばれた教授を中心とする、なんとコメディ映画である。こんなナチス映画もありか。</p> <p>制作: ドイツ 2007年</p>	<p>ヒトラーの忘れもの <i>Under sandet</i></p> <p>監督: マーチン・サントフリート 出演: ラスムスン軍曹(ローランド・ムーラー) エベ大尉(ミケル・ボー・フォルスゴー) セバスチャン・シューマン(ルイス・ホフマン) 時代: 1940年代のデンマーク</p> <p>☑ 第二次世界大戦後のデンマーク。大戦中にドイツが埋めた地雷の処理を、降伏したドイツの少年兵にやらせる。良作なので、タイトルに無理に「ヒトラー」をつけなくてもよかった。</p> <p>制作: デンマーク・ドイツ 2015年</p>
<p>チャップリンの独裁者 <i>The Great Dictator</i></p> <p>監督: チャールズ・チャップリン 出演: ヒンケル(チャールズ・チャップリン) ヘリング(ピリー・ギルバート) ガービッシュ(ヘンリー・ダニエル) 時代: 架空の国(1930年代のドイツ)</p> <p>☑ 架空の国の架空の独裁者の話。でも誰が見たってドイツのヒトラーを皮肉った映画。しかもヒトラー存命中に公開。すごい一言。実はヒトラー自身も2回観たらしい。感想は不明。</p> <p>制作: アメリカ 1940年</p>	<p>ヒトラー ～最後の12日間～ <i>Der Untergang</i></p> <p>監督: オリヴァー・ヒルシュベーゲル 出演: ヒトラー(ブルーノ・ガンツ) ユンゲ(アレクサンドラ・マリア・ララ) ゲッベルス(ウルリヒ・マテス) エヴァ・ブラウン(ユリアーネ・ケーラー) 時代: 第二次世界大戦期のドイツ</p> <p>☑ 第二次大戦末期、ベルリン陥落直前のヒトラーや彼を取り巻く人たちの様子を、ヒトラーの秘書の目とおして描いた作品。ドイツがヒトラーと初めて向き合った映画といえる。</p> <p>制作: ドイツ・オーストリア・イタリア 2004年</p>



Uボート (1981)

戦争に行きたくはありませんが、「もし行くことになったとしても、潜水艦にだけは乗りたくない」と、この映画を観て思いました。狭い空間に寝起きし、相手からの攻撃は見えない。何しろ海の底ですから、船がやられた瞬間に溺れ死ぬこと確定なわけです。そりゃあ精神的にやられるのも仕方ないですね。戦争映画としては、最高傑作のひとつだと思います。



ヒトラー ～最後の12日間 (2004)

この映画はとにかくヒトラーとゲッベルスがいいです。防空壕の中の狂気ともいえるべき雰囲気、非常によく再現しています。敗戦確実となり、次第に追い詰められていくヒトラー。かつてのカリスマはどこにもありません。現実を受け入れられずに手をふるふるさせながら眼鏡を外して叫びまくるシーンは、パロディになるくらい有名です。

<p>白銀の戦場 スターリングラード大攻防戦 <i>Горячий Снег</i></p> <p>監督:ガブリエル・エギアザーロフ 出演:パッソノフ(ゲオルギー・ジェノフ) ドロズドフスキー(ニコライ・エリョーメンコ) クズネツォフ(ボリス・トカレフ)</p> <p>時代:第二次世界大戦のスターリングラードの戦い</p> <p>☑ 第二次世界大戦で、ドイツ軍とソ連軍が激戦を繰り広げたスターリングラードが舞台。ソ連が制作したことに意義があるが、思ったほどプロパガンダ的ではない。</p> <p>制作:ソ連 1972年</p>	<p>スターリングラード <i>Enemy at the gates</i></p> <p>監督:ジャン・ジャック・アノー 出演:ヴァシリ・ザイツェフ(ジュード・ロウ) ケーニツ少佐(エド・ハリス) ダニロフ(ジョセフ・ファインズ) ターニャ(レイチェル・ワイズ)</p> <p>時代:第二次世界大戦のスターリングラードの戦い</p> <p>☑ こちらもスターリングラードの戦いを描いた作品。主人公であるソ連軍の狙撃兵は、実在の人物らしい。ちらっと出るフルシチョフが印象的。個人的には、戦争映画に恋愛はいらぬ。</p> <p>制作:アメリカ 2000年</p>
<p>バルジ大作戦 <i>Battle of the Bulge</i></p> <p>監督:ケン・アナキン 出演:カイリー中佐(ヘンリー・フォンダ) グレイ少将(ロバート・ライアン) ハスラー大佐(ロバート・ショーン)</p> <p>時代:第二次世界大戦のヨーロッパ戦線</p> <p>☑ 第二次世界大戦末期にドイツ軍が行った起死回生の反攻作戦を描いた作品。リアリティに欠ける部分はあるが、本物の戦車を大量に使用した戦闘シーンは迫力がある。</p> <p>制作:アメリカ 1965年</p>	<p>マッカーサー <i>MacARTHUR</i></p> <p>監督:ジョセフ・サージェント 出演:ダグラス・マッカーサー(グレゴリー・ペック) フランクリン・ルーズベルト(ダン・オハーリー) ホイットニー(ディック・オニール)</p> <p>時代:第二次世界大戦期のアメリカ</p> <p>☑ GHQの総司令官として、戦後の日本統治を行った、ダグラス・マッカーサー元帥の生涯を描いた作品。名セリフ「I shall return.」と、「老兵は死なず唯消え去るのみ」も出てきます。</p> <p>制作:アメリカ 1977年</p>
<p>高地戦 <i>고지전</i></p> <p>監督:チャン・フン 出演:カン・ウンピョ中尉(シン・ハグン) キム・スヒョク中尉(コ・ス) シン・イリョン大尉(イ・ジェファン) ヤン・ヒヨサム曹長(コ・チャンソク)</p> <p>時代:1950年代の朝鮮戦争</p> <p>☑ 朝鮮戦争における韓国軍を描いた作品。韓国の『プライベート・ライアン』と言われた。北朝鮮と韓国の間で何度も奪い奪われた高地をめぐる人間物語。戦闘シーンは凄まじい。</p> <p>制作:韓国 2011年</p>	<p>ブラザーフッド <i>태극기 휘날리며</i></p> <p>監督:カン・ジェギョ 出演:ジンテ(チャン・ドンゴン) ジンソク(ウォンビン) ヨンシン(イ・ウンジュ) ヨンマン(コンヒョンジュ)</p> <p>時代:1950年代の朝鮮戦争</p> <p>☑ 朝鮮戦争を描いた作品。韓国では当時歴代トップの興行成績をあげた。原題は『大極旗翻って』。戦闘シーンはかなりグロイ。朝鮮戦争なのに、アメリカ兵が全く出てこないのはなぜだ。</p> <p>制作:韓国 2004年</p>
<p>国際市場で逢いましょう <i>국제시장</i></p> <p>監督:ユン・ジェギョ 出演:ドクス(ファン・ジョンミン) ヨンジャ(キム・ユンジン) ダルグ(オ・ダルス) クッスン(キム・スルギ) ドクスの母(チャン・ヨンナム)</p> <p>時代:20世紀後半の韓国</p> <p>☑ 朝鮮戦争で生き別れになった家族が、戦後の韓国でたくましく生きていく物語。主人公が、父のかわりとなって家族のために働く姿に胸をうたれる。笑いあり涙ありの良作。</p> <p>制作:韓国 2014年</p>	<p>セブン・イヤーズ・イン・チベット <i>Seven Years in Tibet</i></p> <p>監督:ジャン・ジャック・アノー 出演:ハインリヒ・ハラ(ブラッド・ピット) ピーター(デヴィッド・シューリス) ダライ・ラマ 14世(ジャムヤン・シャムツォ・ワンジュク)</p> <p>時代:1940年代のチベット</p> <p>☑ オーストリア人登山家ハラと、若き日のダライ・ラマとの交流を描いた作品。中国が猛抗議したことでも知られる。主人公は実在の人物。チベットに興味ある人は必見。</p> <p>制作:アメリカ 1997年</p>



国際市場で逢いましょう (2014)

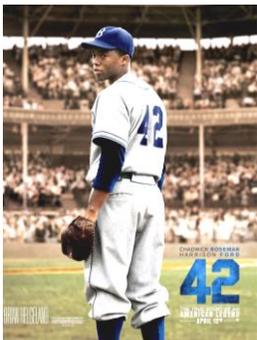
韓国映画はそれほど多く観ていませんが、一番好きかもしれません。朝鮮戦争以降の韓国現代史がひとつの家族の生活を通して描かれていきます。私は韓国版『フォレスト・ガンプ』だと思っています。終盤の離散家族のシーンは涙なくして観られません。



セブン・イヤーズ・イン・チベット (1997)

授業ではダライ=ラマ 14世とハラーの会話シーンを中心に観せています。好奇心旺盛な少年ダライ=ラマには生徒も好感を持つようです。やはり現代のチベット問題に関心を持って欲しいですから、終盤で登場する中国の態度は印象づけておきたいところ。

<p>栄光のスタジアム <i>Soul of the Game</i> 監督:ケヴィン・ロドニー・サリヴァン 出演:サチル・ペイジ(デルロイ・リンド) ジャッキー・ロビンソン(ブレア・アンダーウッド) ジョシュ・ギブソン(マイケルティ・ウィリアムソン) 時代:1940年代のアメリカ</p> <p>☑️ かつてアメリカに黒人だけのプロ野球であるニグロ・リーグがあり、そこで活躍した3人の黒人選手を描いた作品。黒人としての誇りと黒人ゆえの悲しみを描いた野球映画の良作。</p> <p>制作:アメリカ 1996年</p>	<p>42 ～世界を変えた男～ 42 監督:ブライアン・ヘルグランド 出演:ジャッキー・ロビンソン(チャドウィック・ボーズマン) ブランチ・リッキー(ハリソン・フォード) レイチェル・ロビンソン(ニコール・ペバリー) 時代:1940年代のアメリカ</p> <p>☑️ 白人に限定されていたメジャーリーグで、初の黒人選手となったジャッキー・ロビンソンの伝記映画。「42」は彼の背番号であり、現在は全球団の永久欠番となっている。</p> <p>制作:アメリカ 2013年</p>
<p>モーターサイクル・ダイアリーズ <i>Diarios de Motocicleta</i> 監督:ウォルター・サレス 出演:チェ・ゲバラ(ガエル・ガルシア・ベルナル) アルベルト・グラナード(ロドリゴ・デラ・セルナ) チチナ・フェレイラ(ミア・マエストロ) 時代:1950年代の南米</p> <p>☑️ 革命家チェ・ゲバラの若いころを描いた作品。隔離されているハンセン病患者や下層労働者など、当時の南米社会の様子がよくわかる。青春映画として観てもいい。</p> <p>制作:イギリス・アメリカ他 2004年</p>	<p>チェ・ゲバラ&カストロ <i>Fidel</i> 監督:デヴィッド・アットウッド 出演:フィデル・カストロ(ピクトル・フーゴ・マルティン) チェ・ゲバラ(ガエル・ガルシア・ベルナル) 時代:1950年代のキューバ</p> <p>☑️ 原題からわかるとおり、あくまでカストロが主人公。ゲバラ役は『モーターサイクル・ダイアリーズ』でも同役を演じたガエル・ガルシア・ベルナル。2作合わせて観るといい。</p> <p>制作:アメリカ 2002年</p>
<p>チェ 28歳の革命 <i>CHE: Part One/The Argentine</i> 監督:スティーヴン・ソダーバーグ 出演:チェ・ゲバラ(ベニチオ・デル・トロ) フィデル・カストロ(デミアン・ピチル) ラウル・カストロ(ロドリゴ・サントロ) 時代:1950年代の南米</p> <p>☑️ カストロとともにキューバ革命を成し遂げ、現在もカリスマ的な人気を誇る革命家チェ・ゲバラを描いた作品。二部作の一作目である。良作だが、予備知識が必要な気がする。</p> <p>制作:アメリカ・フランス・スペイン 2008年</p>	<p>チェ 39歳別れの手紙 <i>CHE: Part Two/Guerrilla</i> 監督:スティーヴン・ソダーバーグ 出演:チェ・ゲバラ(ベニチオ・デル・トロ) フィデル・カストロ(デミアン・ピチル) ラウル・カストロ(ロドリゴ・サントロ) 時代:1960年代の南米</p> <p>☑️ 二部作の二作目。キューバ革命後のチェ・ゲバラとその非業の死までを描く。『モーターサイクル・ダイアリーズ』から続けて3本観たい。勉強しておかないと難しい作品ではある。</p> <p>制作:アメリカ・フランス・スペイン 2008年</p>
<p>ブダペスト市街戦 <i>A Nap Utcai Fiúk/The Sun Street Boys</i> 監督:ジェルジ・ソマジャ 出演:トーヤ(サンドル・ツェツォ) ユーリ(カタ・ガスパール) ガーボル(ペテル・バルナイ) ガーボルの父(ペテル・アンドラーイ) 時代:1950年代のハンガリー</p> <p>☑️ 1956年のいわゆるハンガリー事件を描いた作品。「市街戦」というタイトルから戦争映画かと思ったら、侵攻したソ連軍に抵抗した若者とその日常を描いた青春映画だった。</p> <p>制作:ハンガリー 2007年</p>	<p>君の涙ドナウに流れ ハンガリー1956 <i>Szabadság, Szerelem</i> 監督:クリスティナ・ゴダ 出演:ヴィキ・ファルク(カタ・ドボー) カルシ・サボー(イヴァン・フェニエー) ティビ・ヴァーモス(シャーンドル・チャーニ) 時代:1950年代のハンガリー</p> <p>☑️ こちらもハンガリー事件を描いた作品。50周年を記念しての制作か。実際の水球チームのエピソードを交えて、ソ連の侵攻に抵抗するハンガリー人の姿が感動的に描かれている。</p> <p>制作:ハンガリー 2006年</p>



42 ～世界を変えた男～ (2013)

子供の頃、プロ野球で来日する外国人選手は何で42番が多いんだらう?と思っていました。

黒人差別を乗り越えていく感動的なストーリーですが、個人的に一番印象に残ったのは、相手チームの監督が「ニガニガニガニガニガー!」と野次を飛ばすシーン。今だったら即解雇で永久に出場停止でしょうね。



君の涙ドナウに流れ (2006)

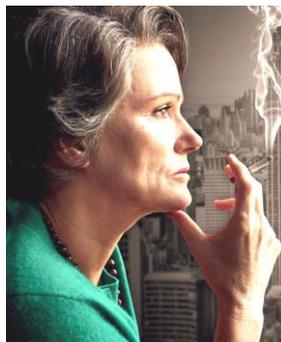
ハンガリー語の映画は初めて観ましたが、政治・恋愛・スポーツといういろいろな要素が混ざっていて、いい映画でしたね。ハンガリー国歌がうまく使われていたと思います。

本編終了後に映る、「暴動の末、平穏が訪れた。でも私たちは忘れない。自由を求め、どれほどの血が流されたかを。自由の国に生まれた者には理解も及ぶまい。」という詩がとても印象的でした。

<p>ブリッジ・オブ・スパイ <i>Bridge of Spies</i> 監督: スティーブン・スピルバーグ 出演: ジム・ドノヴァン(トム・ハンクス) ルドルフ・アベル(マーク・ライランス) ゲイリー・パウーズ(オースティン・ストウエル) 時代: 1950年代のアメリカ</p> <p>☑ 米ソ冷戦のさなか、米ソの捕虜交換における交渉役となった弁護士を主人公にした、実話に基づく作品。派手なシーンはないし予備知識も必要だが、戦後史を描いた映画の傑作です。</p> <p>制作: アメリカ 2015年</p>	<p>寒い国から帰ったスパイ <i>The Spy Who Came in from the Cold</i> 監督: マーティン・リット 出演: リーマス(リチャード・パートン) ナン(クレア・ブルーム) フィードラー(オスカー・ヴェルナー) ムント(ペーター・ヴァン・アイク) 時代: 1960年代のドイツ</p> <p>☑ ベルリンの壁が建設され、東西に分裂している冷戦時代のドイツを舞台にしたミステリー映画。ベルリンで暗躍したスパイの活動に、ナチス、ユダヤ人などの歴史も絡んでくる。</p> <p>制作: アメリカ 1965年</p>
<p>KT <i>KT</i> 監督: 阪本順治 出演: 富田満州男(佐藤浩市) 金大中(チェ・イルファ) 金車雲(キム・ガプス) 神川昭和(原田芳雄) 朴正熙(キム・ミョンジュン) 時代: 1970年代の韓国と日本</p> <p>☑ 朴正熙の軍事独裁が続く韓国から亡命し、日本で活動していた民主化運動の指導者である金大中(後の韓国大統領)が、1973年に東京で拉致されたいわゆる金大中事件を描いた作品。</p> <p>制作: 日本 2002年</p>	<p>追憶 <i>The Way We Were</i> 監督: シドニー・ポラック 出演: ケイティ(バーブラ・ストライサンド) ハベル(ロバート・レッドフォード) ジョージ(パトリック・オニール) キャロル(ロイス・チャイルズ) 時代: 20世紀前半のアメリカ</p> <p>☑ スペイン内戦、第二次世界大戦、赤狩りなどを背景に、不器用に真っ直ぐにしか生きられない女性を主人公にした作品。深い深い大人のためのラブストーリー。主題歌は名曲です。</p> <p>制作: アメリカ 1973年</p>
<p>マンデラ 自由への長い道 <i>Mandela: Long Walk to Freedom</i> 監督: ジャスティン・チャドウィック 出演: ネルソン・マンデラ(イドリス・エルバ) ウィニー・マンデラ(ナオミ・ハリス) ウォルター・シスル(トニー・キゴロギ) 時代: 戦後の南アフリカ</p> <p>☑ アパルトヘイト廃止を訴えたマンデラの活動と刑務所での生活、そして解放までの道のりとその後の苦悩を描いた作品。妻のウィニーとのすれ違いにも焦点が当てられている。</p> <p>制作: イギリス・南アフリカ 2013年</p>	<p>マンデラの名もなき看守 <i>Goodbye Bafana</i> 監督: ビレ・アウグスト 出演: ジェームズ・グレゴリー(ジョセフ・ファインズ) ネルソン・マンデラ(デニス・ヘイスバート) グロリア・グレゴリー(ダイアン・クルーガー) 時代: 1960年代の南アフリカ共和国</p> <p>☑ 南アフリカ共和国初の黒人大統領マンデラは、アパルトヘイトへの反対運動などを理由に、27年間の牢獄生活を強いられていた。その時代の看守との交流を描いた作品。</p> <p>制作: フランス・ドイツ・ベルギー・南アフリカ共和国 2007年</p>
<p>遠い夜明け <i>Cry Freedom</i> 監督: リチャード・アッテンボロー 出演: スティーブ・ピコ(デンゼル・ワシントン) ドナルド・ウッズ(ケビン・クライン) ランペーレ(ジョゼット・シモン) 時代: 1970年代の南アフリカ共和国</p> <p>☑ アパルトヘイト(人種隔離政策)下の南アフリカ共和国を舞台に、黒人解放運動家スティーブ・ピコと、白人記者ドナルド・ウッズの交流を描いた作品。実話に基づいている。</p> <p>制作: イギリス 1987年</p>	<p>ハンナ・アーレント <i>Hannah Arendt</i> 監督: マルガレーテ・フォン・トロッタ 出演: ハンナ・アーレント(バルバラ・スコヴァ) ハインリヒ・ブリュッシャー(アクセル・ミルベルク) メアリー・マッカーシー(ジャネット・マクティア) 時代: 1960年代のアメリカ・イスラエル</p> <p>☑ ユダヤ人虐殺に大きく関わり、逃亡していた元ナチスのアイヒマンが逮捕された。哲学者のハンナ・アーレントは、アイヒマン裁判を傍聴するなかで、悪の陳腐さについて思考する。</p> <p>制作: ドイツ・ルクセンブルク・フランス 2013年</p>



ブリッジ・オブ・スパイ (2015)
 テマ的には少し難しく感じるし、授業でも使いどころに迷います。ただ傑作だと思います。
 スピルバーグの作品には『シンドラのリスト』や『プライベートライアン』など良質な世界史映画がありますし、私は『インディ・ジョーンズ』なども大好きですが、大穴でこれがベストかもしれません。
 マーク・ライランスという俳優は知りませんでしたが、映画を傑作たらしめているのはこの人です。



ハンナ・アーレント (2013)
 『エルサレムのアイヒマン』で知られるユダヤ系の女性哲学者ハンナ・アーレントに私が興味を持ったのは、NHKの番組で『全体主義の起源』について紹介されたのを観てからです。
 「大衆化」は、2022年からの新科目「歴史総合」でも重要なテーマになります。現代の世界の霧困気を考えると、今、観るべき作品のひとつかもしれません。陳腐な悪は我々の中にあります。

<p>大統領の執事の涙 <i>Lee Daniels' The Butler</i></p> <p>監督:リー・ダニエルズ 出演:セシル・ゲインズ(フォレスト・ウイテカー) グロリア(オプラ・ウィンフリー) ルイス(デヴィッド・オイエロウオ) レーガン(アラン・リックマン) 時代:20世紀後半のアメリカ</p> <p>☑ アイゼンハワーからレーガンまで7人の大統領に仕えたホワイトハウスの黒人執事が主人公。アメリカの黒人問題と家族の葛藤を描いた良作。人種問題に関心のある人はぜひ。</p> <p>制作:アメリカ 2013年</p>	<p>ロング・ウォーク・ホーム <i>The Long Walk Home</i></p> <p>監督:リチャード・ピアース 出演:オデッサ・コッター(ウーピー・ゴールドバーグ) ミリアム(シー・スパーセイク) ノーマン(ドワイト・シュルツ) 時代:1950年代のアメリカ</p> <p>☑ 1950年代のアメリカでは、白人と黒人で座るバスの席が決められていた。公民権運動のきっかけとなった実際の事件を背景にして、白人女性と黒人女性との友情を描いた作品。</p> <p>制作:アメリカ 1990年</p>
<p>ミシシッピー・バーニング <i>Mississippi Burning</i></p> <p>監督:アラン・パーカー 出演:アンダーソン(ジーン・ハックマン) ウォード(ウイレム・デフォー) ペル(ブラッド・ドゥーリフ) ペル夫人(フランシス・マクドーマンド) 時代:1960年代のアメリカ</p> <p>☑ 公民権運動家の失踪事件を通して、アメリカ南部に根強く残る差別問題を扱った映画。アメリカの人種問題を扱った映画としては、『グローリー』と並んで外せない1本だろう。</p> <p>制作:アメリカ 1988年</p>	<p>マルコムX <i>Malcolm X</i></p> <p>監督:スパイク・リー 出演:マルコムX(デンゼル・ワシントン) ベティ(アンジェラ・バセット) ベインズ(アルバート・ホール) ショーティ(スパイク・リー) 時代:1960年代のアメリカ</p> <p>☑ 実在した黒人解放指導者マルコムXの生涯を描いた作品。デンゼル・ワシントンの演説は、本物のマルコムXのよう。アメリカ社会の暗部を映し出している。</p> <p>制作:アメリカ 1992年</p>
<p>13 デイズ <i>Thirteen Days</i></p> <p>監督:ロジャー・ドナルドソン 出演:ケネス・オドネル(ケビン・コスナー) ケネディ(ブルース・グリーンウッド) R・ケネディ(スティーブ・カルブ) 時代:1960年代のアメリカ</p> <p>☑ アメリカとソ連の間のキューバ危機(1962年)を描いた作品。人類が最も核戦争に近づいた「13日間」をアメリカ側から描く。「ケネディ暗殺」への伏線と見てもおもしろい。</p> <p>制作:アメリカ 2000年</p>	<p>JFK <i>JFK</i></p> <p>監督:オリヴァー・ストーン 出演:ジム・ギャリソン(ケビン・コスナー) オズワルド(ゲイリー・オールドマン) ショー(トミー・リー・ジョーンズ) 時代:1960年代のアメリカ</p> <p>☑ アメリカ史上最大の事件のひとつであるジョン・F・ケネディ暗殺を、事件の真相を追う検事を主人公にして描いた歴史ミステリー。裁判で疑問点を追及するシーンの迫力が凄い。</p> <p>制作:アメリカ 1991年</p>
<p>ダラスの熱い日 <i>Executive Action</i></p> <p>監督:デヴィッド・ミラー 出演:フレントン(パート・ランカスター) ファーガソン(ウィル・ギア) フォスター(ロバート・ライアン) 偽オズワルド(ジェームス・マッコール) 時代:1960年代のアメリカ</p> <p>☑ こちらもケネディ暗殺事件を描いた作品であり、やはり政府内部の陰謀という視点で描かれている。暗殺からわずか11年後に制作されたことに驚く。ぜひJFKと合わせて観たい。</p> <p>制作:アメリカ 1973年</p>	<p>パークランド ケネディ暗殺、真実の4日間 <i>Parkland</i></p> <p>監督:ピーター・ランデズマン 出演:ロバート・オズワルド(ジェームズ・バッジ・デル) リー・オズワルド(ジェレミー・ストロング) カリコ医師(ザック・エフロン) 時代:1960年代のアメリカ</p> <p>☑ ケネディ暗殺事件を、それに偶然遭遇して巻き込まれた人々の視点から描き出した作品。タイトルの「パークランド」は、ケネディとオズワルドが運ばれて死亡した病院の名前。</p> <p>制作:アメリカ 2013年</p>



ミシシッピー・バーニング(1988)
このページの上には、「自由の国」アメリカにおける黒人差別問題についての映画を4つ集めてみました。『ミシシッピー・バーニング』は、正直に言って何度も観たい映画ではありません。でも観ておくべき作品です。きれいごとでは解決されない黒人差別の根深さに触れられます。主演のジーン・ハックマンが素晴らしいですね。笑顔だけで喜怒哀楽を演じ分けています。



マルコムX(1992)
20世紀の黒人運動家というと、まずは非暴力と白人の宥和を説いたキング牧師があげられます。マルコムXは、キング牧師とは対称的に、暴力によってでも黒人の権利拡大を目指しました。主演はデンゼル・ワシントン。『グローリー』でブレイクし、この『マルコムX』で名声を不動のものにしました。深みのある演技を誇る俳優です。

<p>フルメタル・ジャケット <i>Full Metal Jacket</i></p> <p>監督:スタンリー・キューブリック 出演:ジョーカー(マシュー・モディン) ハートマン軍曹(リー・アーメイ) レナード(ヴァンセント・ドノフリオ) エヴァンス(アリス・ハワード) 時代:ベトナム戦争</p> <p>☑ 監督はあのスタンリー・キューブリック。ベトナム戦争時のアメリカ海兵隊を描いた作品。前半の訓練シーンがあまりにも有名。ハートマン軍曹の鬼教官っぷりは必見。</p> <p>制作:アメリカ 1987年</p>	<p>プラトーン <i>Platoon</i></p> <p>監督:オリヴァー・ストーン 出演:クリス・テイラー(チャーリー・シーン) バーンズ(トム・ペレンジャー) エリアス(ウイレム・デフォー) ラーナー(ジョニー・デップ) 時代:ベトナム戦争</p> <p>☑ ベトナム戦争を描いた作品。最前線の兵士の様相というか、人間の暗い部分がモロに出ている。戦場のシーンの壮絶さでも有名。ベトナム戦争を否定的に捉えている。アカデミー賞。</p> <p>制作:アメリカ 1986年</p>
<p>グッドモーニング・ベトナム <i>Good Morning, Vietnam</i></p> <p>監督:バリー・レビンソン 出演:クロンウア(ロビン・ウィリアムズ) ガーリック(フォレスト・ホワイトカー) トリン(チンタラ・スカパタナ) ツアン(ドン・タン・トラン) 時代:ベトナム戦争</p> <p>☑ ベトナムでアメリカ軍向けのラジオをやるDJが主人公。残酷なシーンはほとんど出てこないが、ベトナム戦争映画の傑作。挿入歌の「この素晴らしき世界」が何とも言えない。</p> <p>制作:アメリカ 1987年</p>	<p>7月4日に生まれて <i>Born on the Fourth of July</i></p> <p>監督:オリヴァー・ストーン 出演:ロン(トム・クルーズ) 若い頃のロン(ブライアン・ラーキン) チャーリー(ウイレム・デフォー) ティミー(フランク・ウェイリー) 時代:ベトナム戦争</p> <p>☑ ベトナム戦争を通して、愛国心や戦争について問いかける作品。実話の映画化。監督は『プラトーン』のオリヴァー・ストーン。トム・クルーズ出演作では最高傑作との声も。</p> <p>制作:アメリカ 1989年</p>
<p>ワンス・アンド・フォーエバー <i>We Were Soldiers</i></p> <p>監督:ランダル・ウォレス 出演:ムア中佐(メル・ギブソン) ジュリー(マデリン・ストウ) プラムリー上級曹長(サム・エリオット) ギャロウェイ(バリー・ペッパー) 時代:ベトナム戦争</p> <p>☑ これもベトナム戦争で起こった実話をもとにした作品。残された女性やベトナム側からの視点もある。珍しく兵士役ではないバリー・ペッパーがよい。戦闘シーンはかなりリアル。</p> <p>制作:アメリカ 2002年</p>	<p>ディア・ハンター <i>The Deer Hunter</i></p> <p>監督:マイケル・チミノ 出演:マイケル(ロバート・デ・ニーロ) ニック(クリストファー・ウォーケン) リンダ(メリル・ストリープ) スタン(ジョン・カザール) 時代:ベトナム戦争</p> <p>☑ ベトナム戦争を描いた傑作のひとつ。戦争の恐怖というより、それに巻き込まれて人生を狂わされた人たちの苦悩を描いている。ロシアン・ルーレットが強烈…。アカデミー賞。</p> <p>制作:アメリカ 1978年</p>
<p>ハンバーガーヒル <i>Hamburger Hill</i></p> <p>監督:ジョン・アーヴィン 出演:ラングリー(アンソニー・パリル) モータウン(マイケル・パトリック・ポートマン) フランツ(デイルン・マクダーモット) 時代:ベトナム戦争</p> <p>☑ ベトナム戦争を描いた作品。凄惨な戦闘シーンという意味では、これが一番おすすめ。ただラストシーンでは戦争の虚しさを感じさせられる。ベトナム女性の描き方が微妙だな…。</p> <p>制作:アメリカ 1987年</p>	<p>地獄の黙示録 <i>Apocalypse Now</i></p> <p>監督:フランシス・フォード・コッポラ 出演:カーツ大佐(マーロン・ブランド) ウィラード大尉(マーティン・シーン) キルゴア中佐(ロバート・デュヴァル) 時代:ベトナム戦争</p> <p>☑ ベトナム戦争の狂気をもっとも上手く表現した作品という評価がある。2001年には完全版も公開された。グロテスクで難解なシーンも多く、上級者向けの映画かもしれない。</p> <p>制作:アメリカ 1979年</p>



グッドモーニング・ベトナム (1987)

このページは全てベトナム戦争の映画を集めてみました。なかでも『グッドモーニング・ベトナム』は、残酷なシーンを出さずにベトナム戦争を描いた異色の作品です。挿入歌の「この素晴らしき世界」が何とも言えず悲しいです。高校生にはお薦めの作品かもしれません。

主演はロビン・ウィリアムズ。笑いあり涙ありという俳優ですね。個人的には『いまを生きる』が好きです。



プラトーン (1986)

ベトナム戦争を描いた映画は、どれも名作ぞろいです。ただ一本あげると言われれば、『プラトーン』をあげたいですね。「初めて本当のベトナム戦争を描いた映画」と言われています。何度か観ましたが、いつも心が重くなります。気合いを入れてから観ることをおすすめします。

主演は、後に『メジャーリーグ』で有名になるチャーリー・シーン。『三銃士』でも主演です。

<世界史映画の思い出②>

前ページでも書いていますが、ベトナム戦争ものは本当に名作ぞろいなんです。それだけアメリカ人にとってベトナム戦争というのは、重くて忘れることができない出来事なんだと思います。名作ぞろいですから紹介したい作品はたくさんあるのですが授業も進めなきゃいけない。で、やっぱり授業で使うのは『プラトーン』なんですよ。何といってもアカデミー賞です。それに『フルメタル・ジャケット』の「ほほえみデブ」やハートマン軍曹のスラングは、純真な高校生にはまだ早いですから。『地獄の黙示録』のプレイメイトなどもってのほかです（まあワーグナーの「ワルキューレの騎行」が流れながらヒューイが飛んでいくシーンは教養として観せる価値はあるかもしれない）。

授業で『プラトーン』を観せる時は、村でベトコンを捜索するシーンを使っています。映画では、最後までその村がベトコンの拠点なのか単なる農民の村なのかはわかりません。主人公でもあるテイラーが村人を尋問しながら「俺だって怖いんだ!」と叫ぶシーンは、生徒が授業後に提出するレポートによれば、ベトナム戦争の授業で最も印象に残る場面のようにです。ベトナム戦争の悲劇的な本質をよく捉えたシーンのように思います。

実は三者面談で保護者から苦情を言われたことがあります。こんな内容でした。「佐野先生はベトナム戦争の映画では『プラトーン』を推しているそうですが、私は絶対に『ディア・ハンター』だと思います!」

ええ確かに名作ですよ。こちらもアカデミー賞です。ロバート・デ・ニーロ、メルリル・ストリープ、クリストファー・ウォーケン、遺作となったジョン・カザールなどみんな素晴らしい演技です。でも授業で使えますか？ 戦闘シーンがほとんどないにもかかわらず、これほど恐ろしい戦争映画が他にありますか？ 私が最初に『ディア・ハンター』を観たのは20代の頃でしたが、ショックが大きく自分でも内容を消化しきれませんでした。授業ではまだ使いません。今後も使うことはないでしょう。でも生徒たちには、いつか時間が来たら自分で観て欲しい映画だと考えています。



<p>ニクソン <i>Nixon</i> 監督:オリヴァー・ストーン 出演:リチャード・ニクソン(アンソニー・ホプキンス) パット・ニクソン(ジョアン・アレク) フーヴァー(ボブ・ホスキンス) 時代:1960年代のアメリカ</p> <p>☑ 第37代アメリカ大統領ニクソンの生涯を描いた作品。「ウォーターゲート事件」を中心に、ニクソンの光と影の部分を描く。仮説や憶測の部分も多く、興味深い作品になっている。</p> <p>制作:アメリカ 1995年</p>	<p>大統領の陰謀 <i>All the President's Men</i> 監督:アラン・J・パクラ 出演:バーンスタイン(ダスティン・ホフマン) ウッドワード(ロバート・レッドフォード) ディープ・スロート(ハル・ホルブルック) 時代:1970年代のアメリカ</p> <p>☑ ニクソン大統領が、アメリカ史上唯一任期途中で辞任に追い込まれたウォーターゲート事件と、それを追う記者の実話をもとにした作品。予習が必要だが、重厚なミステリー作品である。</p> <p>制作:アメリカ 1976年</p>
<p>フォレスト・ガンプ <i>Forrest Gump</i> 監督:ロバート・ゼメキス 出演:フォレスト・ガンプ(トム・ハンクス) ジェニー(ロビン・ライト) ママ(サリー・フィールド) ダン小隊長(ゲイリー・シニーズ) 時代:20世紀後半のアメリカ</p> <p>☑ 生まれつき知能指数が低いフォレスト・ガンプ青年の半生を描いた人間ドラマ。ジョン・レノン、ケネディ、ニクソンなどが登場し、20世紀のアメリカの雰囲気がよくわかる。</p> <p>制作:アメリカ 1994年</p>	<p>サルバドル／遙かなる日々 <i>Salvador</i> 監督:オリヴァー・ストーン 出演:リチャード・ボイル(ジェームズ・ウッズ) ドクター・ロック(ジェームズ・ベルーシ) ジョン・キャサディ(ジョン・サヴェージ) 時代:1980年代のエルサルバドル(中南米)</p> <p>☑ 1980年代に起こったエルサルバドル内戦を、アメリカ人ジャーナリストの目を通して描いた作品。監督は、『プラトーン』など現代アメリカ史の作品で知られるオリヴァー・ストーン。</p> <p>制作:アメリカ 1986年</p>
<p>ルムンバの叫び <i>Lumumba</i> 監督:ラウル・ベック 出演:ルムンバ(エリック・エバニー) モブツ(アレックス・デカス) カサヴブ(マカ・コッター) ムポロ(テオフィル・ムッサ・ソウイエ) 時代:1950年代のコンゴ</p> <p>☑ コンゴ民主共和国の初代首相ルムンバの生涯を描いた作品。高校時代の『世界史詳覧』に、処刑直前のルムンバの写真が載っていて、その目が忘れられません。</p> <p>制作:フランス・ベルギー・ドイツ・ハイチ 2000年</p>	<p>ラストキング・オブ・スコットランド <i>The Last King of Scotland</i> 監督:ケビン・マクドナルド 出演:イディ・アミン(フォレスト・ウィテカー) ニコラス・ギャリガン(ジェームズ・マカヴォイ) サラ・メリット(ジリアン・アンダーソン) 時代:1970年代のウガンダ</p> <p>☑ 1970年代にウガンダで独裁者となったアミン大統領を、主治医の目をとおして描いた作品。タイトルの意味は、映画を観ればわかる。主演のフォレスト・ウィテカーが絶賛された。</p> <p>制作:イギリス 2006年</p>
<p>ホテル・ルワンダ <i>Hotel Rwanda</i> 監督:テリー・ジョージ 出演:ポール・ルセサバギナ(ドン・チードル) タティアナ(ソフィー・オコネド) オリバー(ニック・ノルティ) ジャック(ホアキン・フェニックス) 時代:1990年代のルワンダ</p> <p>☑ 1994年のルワンダ、フツ族とツチ族のあいだで起こった大量虐殺を中心に描く。実話をもとにしている。日本での公開予定はなかったが、署名活動により、公開が実現した一作。</p> <p>制作:イギリス・イタリア・南アフリカ共和国 2004年</p>	<p>ルワンダの涙 <i>Shooting Dogs</i> 監督:マイケル・ケイトン・ジョーンズ 出演:クリストファー神父(ジョン・ハート) ジョー・コナー(ヒュー・ダンシー) マリー(クレア・ホープ・アシティー) 時代:1990年代のルワンダ</p> <p>☑ こちらも『ホテル・ルワンダ』と同じテーマだが、白人視点で描かれている。2作を比較しながら観るとよい。なんと実際にルワンダの虐殺があった場所で行ったらしい。</p> <p>制作:イギリス・ドイツ 2005年</p>



フォレスト・ガンプ (1994)

大好きな映画のひとつ。アメリカ史を知っていれば、最初から最後まで楽しめます。主人公のガンプが様々な歴史上の有名人と絡むのも見どころ。

写真はジョン・レノンと話す場面ですが、ガンプの何気ないセリフが、名曲「イマジジン」の歌詞になっているのがポイントです。

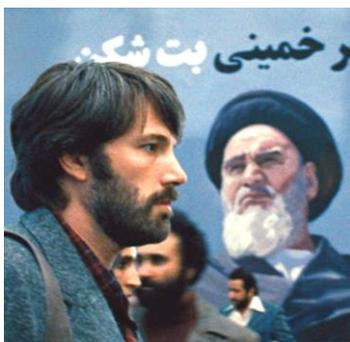


ホテル・ルワンダ (2004)

わずか100日間で国民の10人に1人が殺されたというルワンダ内戦を描いた、衝撃的な映画です。授業では現代アフリカ史を教える時に、残虐なシーンは避けて観せているのですが、それでも生徒は「怖すぎる…」と言います。

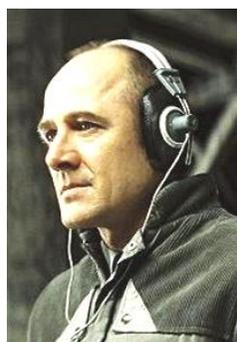
2つの大戦やベトナム戦争と違って、この内戦は私にとってモリアルタイムなんですよね。

<p>ミュンヘン <i>Munich</i></p> <p>監督: スティーブン・スピルバーグ 出演: アヴナー(エリック・バナ) スティーブ(ダニエル・クレイグ) ロバート(マチュー・カサヴィッツ) エフライム(ジェフリー・ラッシュ) 時代: 1972年のミュンヘンオリンピック</p> <p>☑ ミュンヘンオリンピックの際、アラブ人のテロリストがイスラエル選手を殺すという事件があった。その復讐を描いた作品。史実にフィクションを加えた作品。観る前に予習が必要か。</p> <p>制作: アメリカ 2005年</p>	<p>ワレサ 連帯の男 <i>Wałęsa. Człowiek z nadziei</i></p> <p>監督: アンジェイ・ワイダ 出演: レフ・ワレサ(ロベルト・ヴィエンツキェヴィチ) ダヌタ・ワレサ(アグニェシュカ・グロホウスカ) オリアナ・ファラチ(マリサ・ロザリア・オマジオ) 時代: 1970年代のポーランド</p> <p>☑ ポーランド自主管理朗組「連帯」を率いて、冷戦後は大統領も務めたワレサを描いた作品。当時の本当の映像が効果的に挿入されている。監督はポーランドを代表する巨匠である。</p> <p>制作: ポーランド 2013年</p>
<p>地雷を踏んだらサヨウナラ <i>地雷を踏んだらサヨウナラ</i></p> <p>監督: 五十嵐匠 出演: 一ノ瀬泰造(浅野忠信) チェット・セン・クイ(ソン・ダラカチャン) ティム・ヒル(ロバート・スレイター) 一ノ瀬信子(市毛良枝) 時代: 1970年代のカンボジア</p> <p>☑ ボル=ポト派と政府軍が内戦を続けるカンボジアで活動した、実在のカメラマン一ノ瀬泰造の生涯を描いた作品。戦争の悲劇と好きなことをつきつめるカッコよさを感じさせられた。</p> <p>制作: 日本 1999年</p>	<p>キリング・フィールド <i>The Killing Fields</i></p> <p>監督: ローランド・ジョフィ 出演: シドニー・シャンパーク(サム・ウォーターストーン) デイス・ブラン(ハイン・ニョール) ロッコフ(ジョン・マルコヴィッチ) 時代: 1970年代のカンボジア</p> <p>☑ 新聞記者のシャンパークが、内戦の続くカンボジアで実際に体験したことを、映画化したもの。登場人物は全て実在。いったいなんでこんなことが起こってしまったのだろうか…。</p> <p>制作: イギリス 1984年</p>
<p>アルゴ <i>ARGO</i></p> <p>監督: ベン・アフレック 出演: トニー・メンデス(ベン・アフレック) ジャック・オドネル(ブライアン・クランストン) レスター・シーゲル(アラン・アーキン) 時代: 1970年代のイラン(イラン革命)</p> <p>☑ 1979年のイラン革命後、テヘランのアメリカ大使館が占拠された。残された外交官を脱出させるため、CIAは『アルゴ』というニセ映画の撮影をでっちあげる。アカデミー賞。</p> <p>制作: アメリカ 2012年</p>	<p>レバノン <i>لبنان</i></p> <p>監督: サミュエル・サモズ 出演: シムリック(ヨアヴ・ドナット) アシ(イタイ・ティラン) ヘルツル(オシュリ・コーエン) ジャミル(ゾハール・シュトラウス) 時代: 1980年代のレバノン</p> <p>☑ 1982年、レバノンに侵攻したイスラエルの戦車兵を描いた作品。画面に映るのは戦車の中だけで、外はモニターを通してのみ映される。戦争の極限状態を描いた異色作である。</p> <p>制作: イスラエル・フランス・ドイツ 2009年</p>
<p>アフガン <i>9 Pota</i></p> <p>監督: フォードル・ボンダルチュク 出演: ヴォロベイ(アレクセイ・チャドフ) リュティ(アルトゥール・スモリアニコフ) ジオコンダ(コンスタンティン・クルコフ) 時代: 1980年代のアフガニスタン</p> <p>☑ ソ連のアフガニスタン侵攻で戦地に派遣されたロシアの若い兵士を描いた作品。厳しい訓練から戦場へという流れは一般的だが、ロシア軍の全面協力で迫力ある映像となっている。</p> <p>制作: ロシア・ウクライナ・フィンランド 2005年</p>	<p>善き人のためのソナタ <i>Das Leben Der Anderen</i></p> <p>監督: フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク 出演: ヴィースラー(ウルリッヒ・ミューエ) ドライマン(ゼバスチャン・コッホ) クリスタ(マルティナ・ゲテック) グルピッツ(ウルリッヒ・トゥクル) 時代: 1980年代の東ドイツ</p> <p>☑ ベルリンの壁崩壊直前、監視社会であった東ドイツを舞台に、シュタージ(国家保安省)に属して市民の監視を続ける主人公が、徐々に人間性に気づいていく物語。間違いなく傑作。</p> <p>制作: ドイツ 2006年</p>



アルゴ (2012)

1979年は戦後史において最も重要な年で、なかでも2月のイラン革命は5月の「佐野浩誕生」という大事件の次に大事だ!と生徒に強調しています。何が言いたいのか?この映画、アカデミー賞を取った傑作ですけど、日本では全くヒットしませんでした(同じ年の『海猿』の20分の1以下…)。日本人はイラン革命について全く知らないのです。実に残念なことです。



善き人のためのソナタ

(2006)

主人公は、無機質で何を考えているかわからない男。淡々と監視の任務をこなし、まるでロボットのような。主人公に感情移入できるかどうかで、この映画を観た人の感じも変わってくるでしょうね。ちょっと言葉にしづらいです。

私個人としては、とても静かでとても深い名作だと思っています。

<p>ウェルカム・トゥ・サラエボ <i>Welcome to Sarajevo</i></p> <p>監督:マイケル・ウィンターボトム 出演:マイケル・ヘンダーソン(ステファン・デラヌ) エミラ(エミラ・ヌシエヴィッチ) ニナ(マリサ・トメイ) フリン(ウディ・ハレルソン) 時代:1990年代のユーゴスラヴィア</p> <p>☑ 内戦下のサラエヴォを舞台に、イギリス人ジャーナリストの葛藤を描く。ユーゴ内戦は、私が中学生くらいの時に起こったが、民族や宗教の問題に関心を持つきっかけになった。</p> <p>制作:イギリス 1997年</p>	<p>ノー・マンズ・ランド <i>No Man's Land</i></p> <p>監督:ダニス・タノヴィッチ 出演:チキ(ブランコ・ジュリッチ) ニノ(レネ・ビトラヤツ) ツェラ(フィリプ・ジョヴァコヴィッチ) 老兵(ムスタファ・ナダレヴィッチ) 時代:1990年代のユーゴスラヴィア</p> <p>☑ ユーゴスラヴィアの内戦を描いた作品。戦争を風刺するような皮肉たっぷりの映画。結末にはびっくりした。「僕らの悲劇はそんなに儲かるか？」というセリフが忘れられない。</p> <p>制作:ボスニア・スロヴェニア・フランス・イタリア・ベルギーなど 2001年</p>
<p>エネミー・ライン <i>Behind Enemy Lines</i></p> <p>監督:ジョン・ムーア 出演:パーネット大尉(オーウェン・ウィルソン) レイガート司令官(ジーン・ハックマン) サシャ(ウラジミール・マシコフ) 時代:1990年代のユーゴスラヴィア</p> <p>☑ 内戦が終結しつつあるユーゴスラヴィア。搭乗機を撃墜されたアメリカ軍のパイロットが、セルビア人の武装勢力から逃れる逃亡劇。ボスニアにおける虐殺も描かれている。</p> <p>制作:アメリカ 2001年</p>	<p>グッバイ、レーニン! <i>Good Bye, Lenin!</i></p> <p>監督:ヴォルフガング・ペッカー 出演:アレックス(ダニエル・ブーリュ) アレックスの母(カトリーヌ・ザース) ララ(チュルパン・ハマトヴァ) アリアネ(マリア・シモン) 時代:1990年代のドイツ</p> <p>☑ かつて東ドイツという国があった。ベルリンの壁崩壊直前に倒れた母がショックを受けないように、社会主義体制が続いているようなふりをする息子が主人公。現代史映画の傑作。</p> <p>制作:ドイツ 2003年</p>
<p>戦火の勇気 <i>Courage Under Fire</i></p> <p>監督:エドワード・ズウィック 出演:サウリング(デンゼル・ワシントン) ウォールデン(メグ・ライアン) モンフリーズ(ルー・フィリップス) イラリオ(マット・デイモン) 時代:1990年代のイラク</p> <p>☑ 湾岸戦争を舞台にしたミステリー作品。味方を誤射してしまいアル中に苦しむ主人公が、戦死した女性大尉への勲章授与について調査する。黒澤明の『羅生門』を思わせるストーリー。</p> <p>制作:アメリカ 1996年</p>	<p>ブラックホーク・ダウン <i>Black Hawk Down</i></p> <p>監督:リドリー・スコット 出演:エヴァーズマン軍曹(ジョシュ・ハートネット) サンダーソン軍曹(ウィリアム・フィシュナー) マクナイト中佐(トム・サイズモア) 時代:1990年代のソマリア</p> <p>☑ 舞台は1993年のソマリア。混迷の続く現地で、アメリカの特殊部隊が巻き込まれた戦闘を描く。延々と戦闘シーンが続く。ブラックホークとは、アメリカ軍の軍用ヘリのこと。</p> <p>制作:アメリカ 2001年</p>
<p>パラダイス・ナウ <i>Paradise Now</i></p> <p>監督:ハニ・アブー・アサド 出演:サイド(カイス・ナシェフ) ハーレド(アリー・スリマン) スーハ(ルブナ・アザバル) ジャマール(アメル・レヘル) 時代:2000年代のパレスチナ</p> <p>☑ イスラエル占領下のパレスチナを描いた問題作。自爆テロの実行犯に選ばれた二人のアラブ人を中心に描かれている。アラブ人の監督とイスラエル人のプロデューサーが制作した。</p> <p>制作:フランス・ドイツ・オランダ・パレスチナ 2005年</p>	<p>ハート・ロッカー <i>The Hurt Locker</i></p> <p>監督:キャスリン・ペグロー 出演:ジェームズ二等軍曹(ジェレミー・レナー) サンボーン軍曹(アンソニー・マッキー) エルドリッジ技術兵(ブライアン・ジェラティ) 時代:2000年代のイラク</p> <p>☑ イラク戦争で、爆弾処理を行うアメリカ兵を描いた作品。誰が一般市民で誰がテロリストか見分けがつかないなか、いつ爆発するかわからない爆弾に向き合う緊迫感がすごい。</p> <p>制作:アメリカ 2008年</p>



グッバイ、レーニン! (2003)
東と西があるのが当然だったドイツが突然統一したことは、小学生の私にとってはかなり衝撃的な出来事でした。
この映画では、東ドイツが続いているようなニュース番組を作るなど、なんとかしてお母さんにショックを与えないよう周囲の人が優しい嘘をつき続けます。コメディでもありファミリードラマでもあり社会ドラマでもあり、とてもあたたかく、そして深い映画です。



ブラックホーク・ダウン (2001)
戦争映画という第二次世界大戦ものというイメージがあった自分には、現代の戦争の破壊力は衝撃的でした。最初っから最後までぶっ放します。兵器に興味のある人にはお勧めですが、授業ではなかなか使いつらいかな…
とりあえず「RPG!」と叫びたくります。あとハンヴィーに乗りたい。

<p>インビクタス／負けざる者たち <i>Invictus</i> 監督:クリント・イーストウッド 出演:ネルソン・マンデラ(モーガン・フリーマン) ピナール(マット・デイモン) ジェイソン(トニー・キゴロギ) ブレンダ(アッジョア・アンドー) 時代:1990年代の南アフリカ共和国</p> <p>☑ アパルトヘイトが廃止されて、南アフリカ共和国初の黒人大統領となったマンデラを中心に、人種間の宥和の象徴となったラグビーW杯優勝を、実話をもとにして描いた作品。</p> <p>制作:アメリカ 2009年</p>	<p>ツォツィ <i>Tsotsi</i> 監督:ギャヴィン・フッド 出演:ツォツィ(ブレスリー・チュエニヤハエ) ミリアム(テリー・ペート) アーブ(ケネス・ニコースイ) 時代:2000年代の南アフリカ共和国</p> <p>☑ アパルトヘイトが廃止されて10数年がたった南アフリカ。しかし黒人の生活は改善していない。ツォツィとは現地の言葉で「チンピラ」の意味。差別問題の複雑さを描いた名作。</p> <p>制作:イギリス・南アフリカ共和国 2005年</p>
<p>ゼロ・ダーク・サーティ <i>Zero Dark Thirty</i> 監督:キャスリン・ビグロー 出演:マヤ(ジェシカ・チャステイン) ダン(ジェイソン・クラーク) ジェシカ(ジェニファー・イーリー)パネッタ長官(ジェームズ・ギヤンドルフィーニ) 時代:2000年代のバクスタン・アフガニスタン・アメリカ</p> <p>☑ 若き女性CIA捜査官を主人公に、同時多発テロの首謀者とされるビン・ラーディンを追いつめるまでを描いた作品で、実話を元としている。緊迫感がありサスペンス作品としても秀逸。</p> <p>制作:アメリカ 2012年</p>	<p>ドローン・オブ・ウォー <i>Good Kill</i> 監督:アンドリュー・ニコル 出演:トミー(イーサン・ホーク) モリー(ジャニュアリー・ジョーンズ) スアレス(ゾーイ・クラヴィッツ) ジマー(ジェイク・アベル) 時代:2000年代のアメリカ</p> <p>☑ アメリカのアフガニスタン侵攻を描いた作品だが、舞台はずっとアメリカ。主人公はアメリカから無人攻撃機を操作し、敵を殺し続けている。現代の戦争を描いた新しい戦争映画。</p> <p>制作:アメリカ 2014年</p>
<p>マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙 <i>The Iron Lady</i> 監督:フィリダ・ロイド 出演:マーガレット・サッチャー(メリル・ストリープ) デニス・サッチャー(老年期ジム・ブロードベント、若年期ハリー・ロイド) 時代:戦後のイギリス</p> <p>☑ 鉄の女と呼ばれたイギリス首相サッチャーの生涯を、男たちの中で強気に戦ってきた女性政治家、そして妻や母として悩む孤独なひとりの女性として描いた。戦後史の名作です。</p> <p>制作:イギリス 2012年</p>	<p>あの日の声を探して <i>The Serch</i> 監督:ミシェル・アナザヴィシウス 出演:キャロル(ベレニス・ベジョ) ハジ(アブドゥルカリム・ママツイエフ) コーリヤ(マキシム・エメリヤノフ) ヘレン(アネット・ベニング) 時代:2000年代のロシア(チェチェン)</p> <p>☑ チェチェン紛争で家族をロシア兵に殺された少年、EUで働く女性職員、強制徴用されたロシア兵を中心に展開する。冒頭が秀逸であり引き込まれた。ラストはまさかという感じ。</p> <p>制作:フランス・グルジア 2014年</p>
<p>アメリカン・スナイパー <i>American Sniper</i> 監督:クリント・イーストウッド 出演:クリス・カイル(ブラッドリー・クーパー) タヤ(シエナ・ミラー) ビグルス(ジェイク・マクドナナン) ムスタファ(サミー・シーク) 時代:2000年代のイラク</p> <p>☑ イラク戦争で活躍した伝説の狙撃手を実話を元にして描いた作品。戦争賛美でも反戦でもなく、戦争によって心が壊れていく人間の姿をリアルに表現した戦争映画の傑作。</p> <p>制作:アメリカ 2014年</p>	<p>帰ってきたヒトラー <i>Er ist wieder da</i> 監督:デヴィット・ベント 出演:ヒトラー(オリヴァー・マスツィ) ザヴァツキ(ファビアン・ブッシュ) ベリーニ(カッチャリーマン) ゼンゼンブリック(クリストフ・ヘルプスト) 時代:2010年代のドイツ</p> <p>☑ 死んだはずのヒトラーが現代のドイツに蘇ったら?という荒唐無稽の設定。コメディタッチで楽しく観ることができるが、実は全体主義の恐ろしさを見事に描いた良作。</p> <p>制作:ドイツ 2015年</p>



インビクタス (2009)
アパルトヘイトが廃止されたからと言って、黒人と白人の融和がすぐに達成されたわけではありません。当たり前前のことですが、融和の難しさをこの映画で痛感しました。ラグビーW杯で日本は南アフリカに負けましたが、南アフリカの黒人選手の活躍には、胸が熱くなるものがありました。



アメリカン・スナイパー (2014)
『プライベート・ライアン』を超えて、アメリカ史上最大のヒットとなった戦争映画。私もこの2本がベスト2です。エンドクレジットは実際の映像ですがこれが感動的。ちなみに予告編の出来も非常に素晴らしいです。本編を観たくなりますよ。

<私のおくまでも個人的に好きな50本>

アレキサンダー (p. 3)	ビルマの竖琴 (p. 27)
パッション (p. 4)	プライベート・ライアン (p. 28)
グラディエーター (p. 6)	Uボート (p. 29)
レッド・クリフPARTⅡ (p. 7)	ヒトラー ～最後の12日間～ (p. 29)
キングダム・オブ・ヘヴン (p. 9)	国際市場で逢いましょう (p. 30)
薔薇の名前 (p. 10)	42 ～世界を変えた男～ (p. 31)
ロック・ユー! (p. 10)	ブリッジ・オブ・スパイ (p. 32)
恋に落ちたシェイクスピア (p. 11)	ハンナ・アーレント (p. 32)
アマデウス (p. 15)	大統領の執事の涙 (p. 33)
パトリオット (p. 15)	ミシシッピー・バーニング (p. 33)
グローリー (p. 16)	JFK (p. 33)
ダンス・ウィズ・ウルブズ (p. 16)	フルメタル・ジャケット (p. 34)
アメイジング・グレイス (p. 17)	プラトーン (p. 34)
海難1890 (p. 18)	グッドモーニング・ベトナム (p. 34)
アンナと王様 (p. 19)	ディア・ハンター (p. 34)
さらば、我が愛／霸王別姫 (p. 20)	フォレスト・ガンプ (p. 36)
ラスト・エンペラー (p. 20)	ホテル・ルワンダ (p. 36)
ガンジー (p. 22)	アルゴ (p. 37)
英国王のスピーチ (p. 22)	善き人のためのソナタ (p. 37)
プリティ・リーグ (p. 23)	グッバイ、レーニン! (p. 38)
戦場のピアニスト (p. 24)	ブラックホーク・ダウン (p. 38)
シンドラーのリスト (p. 24)	インビクタス／負けざる者たち (p. 39)
ライフ・イズ・ビューティフル (p. 24)	マーガレット・サッチャー (p. 39)
サウンド・オブ・ミュージック (p. 25)	アメリカン・スナイパー (p. 39)
父親たちの星条旗 (p. 26)	帰ってきたヒトラー (p. 39)